

IBM Cognos PowerPlay Client
バージョン 11.0

ユーザー・ガイド

IBM

©

本書は IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos PowerPlay Client
Version 11.0
User Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2005, 2017.

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft Corporation の許可を得て使用しています。

目次

はじめに	ix
第 1 章 PowerPlay Client ご利用の手引き	1
ローカル PowerCube を開く	2
リモート・パッケージを開く	2
レポートを開く	3
ローカル・レポートを開く	3
リモート・レポートを開く	4
レポートのカテゴリの置換	4
ネスト・カテゴリのレポートへの追加	6
ネスト・カテゴリの選択	8
インターセクト・カテゴリの Reporter レポートへの追加	9
レイヤーを使用した作業	10
レポートの複製	11
レポート間の情報のコピー	11
カテゴリの非表示	11
合計カテゴリの表示	12
行、列、レイヤーの入れ替え	13
空白行と空白列の挿入	13
行または列の移動	14
発行したレポートに対するプロンプトと PDF プロパティの設定	14
不要な情報の消去	15
ゼロを消去	15
80/20 消去	15
不要な情報の削除	16
レポートのユーザー補助機能の向上に関する考慮事項	17
第 2 章 標準レポートの管理	19
ディメンション・ラインの共有	19
レポート・テンプレートの作成	20
データの更新時期の制御	20
サブセット定義	21
ペアレンター・サブセットの定義の作成	21
"キューブから検索"サブセット定義の作成	22
詳細サブセットの定義の作成	24
親で制限した詳細サブセットの定義の作成	25
名前または説明で制限した詳細サブセットの定義の作成 (検索)	26
値で制限した詳細サブセットの定義の作成	27
サブセット定義を開く	28
サブセット定義の変更	28
サブセット定義の削除	28
サブセットのハイライト	29
サブセット計算	29
サブセットの解除と削除	30
第 3 章 ディメンション	31
ドリルダウン	31
ドリルアップ	33
ネスト・カテゴリのドリルダウンとドリルアップ	34
データのフィルター	34

フィルターの削除	35
データの検索	36
レポート内の検索	36
キューブ内の検索	36
第 4 章 数値データ	37
数値データの変更	37
複数の数値データの行、列、またはレイヤーによる表示	37
数値データの書式変更	38
通貨値に関する作業	39
第 5 章 ドリルスルー	41
PowerPlay へのドリルスルー	41
第 6 章 レポートでのデータのランク付けとソート	45
データのランク付け	45
デフォルト設定を使用したカテゴリーのランク付け	45
カスタム設定を使用したカテゴリーのランク付け	46
ランキングの非表示または削除	46
同一値のランク付け	46
ネスト・データのランク付け	46
Reporter レポートでの手動による再ランク付け	47
データのソート	47
デフォルト設定を使用したソート	48
カスタム設定を使用したソート	48
第 7 章 ハイライトの設定	51
自動ハイライト	51
自動ハイライトの適用	51
アクティブ・レポートの自動ハイライトの優先度の変更	52
自動ハイライトのスタイルの変更	52
ユーザー設定ハイライト定義	52
ユーザー設定ハイライト定義の作成	52
ユーザー設定ハイライト定義の適用	53
共有ユーザー設定ハイライト定義	55
第 8 章 計算	57
計算に関する情報表示	57
伸び率の計算	58
合計に対する割合の計算	58
平均の計算	58
累計の計算	59
累計を数値として計算する	59
累計を割合の値として計算する	59
集計計算	60
ネスト・カテゴリーで実行する計算	61
カテゴリー追加時の計算	61
算出カテゴリーのレポートへの追加	62
グループ計算の実行	63
計算の優先順位の設定	64
予測方法	64
趨勢法 (線形または直線)	66
成長法 (曲線形または曲線)	66
自己回帰法 (季節性)	66
予測の作成	66
財務比率	67

第 9 章 グラフ表示	69
変数の比較、分散の表示、またはパフォーマンスの追跡	69
2 つの数値データの比較	69
円グラフやクラスター棒グラフの複合表示	70
表示による傾向の確認	71
異なるグラフを同時に表示する	71
1 つの表示に複数のグラフを表示する	72
大量データの表示	72
グラフでの値の表示	73
棒グラフまたはクラスター棒グラフでの値の表示	73
単線グラフでの値の表示	73
グラフ表示への統計線の追加	74
グラフ表示の書式設定	74
色とパターンの設定変更	74
背景の表示への適用	75
表示の配置	76
表示角度の変更	76
表示の回転	77
表示のマーカーの変更	77
円グラフの外観の変更	77
複線グラフの線の強調表示	78
レポートのグリッド線の非表示	78
軸のスケール	79
3-D 棒グラフの棒の透明化	79
第 10 章 レポートの書式設定	81
クロス集計レポートに使用するレイアウトの選択	81
短い形式または長い形式のディメンション名およびカテゴリ名の表示	81
スタイルの作成とデータへの適用	82
スタイルの作成と編集	82
スタイルの適用	82
スタイルの削除	83
レポート全体への背景パターンと背景色の適用	83
タイトル、ヘッダー、フッターの追加	83
ラベルと数値の書式設定	84
ラベルの名前変更	84
クロス集計のラベルと数値の書式設定	85
グラフ表示のラベルの書式設定	86
合計ラベルの変更	87
相対値としてのデータの表示	87
ゼロ値と欠落値に対する空白セルの表示	88
第 11 章 レポートの配布	89
PDF 形式でのレポートの保存	89
IBM Cognos Analytics ポータルへのレポートの発行	89
新規レポートの発行	90
前に発行されたレポートの操作	90
レポートの印刷	90
E メールへのレポートの添付	91
異なるファイル形式へのレポートのエクスポート	92
区切り付き ASCII テキスト・ファイル	92
第 12 章 PowerPlay のカスタマイズ	95
設定	95
カスタム・メニューの作成	95
起動メニュー・コマンドの設定	97

ツールバーおよびボタンのカスタマイズ	97
ツールバーの表示と非表示	97
カスタム・ツールバーの作成	98
ツールバー・ボタンのカスタマイズ	98
起動ボタンの設定	99
カスタム・メニューとカスタム・ツールバーの配布	99
「ディメンションの表示」ツールボックスのカスタマイズ	100
第 13 章 オフライン作業	103
サブキューブのアップデートをオフにする	103
サブキューブの保存	103
サブキューブを使用するレポートの設定	104
サブキューブの自動リフレッシュ	104
第 14 章 コマンド行オプション	107
タイトル画面の省略	107
Explorer レポート	107
Reporter レポート	108
キューブ名	108
リモート・パッケージ名	108
レポート名	108
第 15 章 仕様	109
第 16 章 予測の式	111
趨勢予測の式	111
成長予測の式	112
自己回帰予測の式	112
第 17 章 PowerPlay のサンプル	113
付録. トラブルシューティング	115
IBM Cognos PowerPlay Client に IBM CognosScript Editor は含まれていない	115
レポートを発行するときに Cognos Application Firewall のエラーが発生する	115
レポートのタイトルに不要な空白行が挿入される問題	115
グラフ要素に表示されるヘブライ語のテキスト	115
キューブの更新後に計算が動的に更新されない	116
エクスポートされた XLS ファイルを Microsoft Excel 2007 で開く	116
複数ページのレポートの最初のページのみが印刷される	116
ディメンションの表示が表示されない	116
キューブを更新した後にレポートの外観が変わる	116
詳細サブセットの値の制限が使用できない	117
Explorer モードに変更した後にカテゴリーが表示されない	118
正しくない集計値が表示される	118
異なる形式で算出値が表示される	118
算出値が /0 になる	118
算出カテゴリーのラベルが正しく表示されない	118
割り当てられた数値データ	118
予期しないゼロがレポートに表示される	119
値が「エラー」になる	119
値が数値記号 (###) になる	120
値が疑問符 (???) になる	120
一部のディメンションの数値データに値がない	120
期間の相違	120
キューブやレポートにドリルスルーできない	120
保存したレポートの外観が異なる	121

列や行を移動できない	121
「ページ設定」または「印刷」ダイアログ・ボックスを開けない	121
レポートを 1 ページに収めて印刷できない	121
黒地に白を印刷できない	121
画像の上に文字が印刷される	122
デフォルトのツールバーおよびメニューに戻す	122
レポートやキューブを新しい場所に移動した後のエラー	122
パフォーマンスの問題の修正	122
レポートを E メールで送信できない	123
リモート・レポートを開けない	123
レポートを保存できない	123
マクロの起動ボタンを追加できない	123
サブキューブをリフレッシュできない	124
特記事項	125
索引	129

はじめに

本書は、IBM® Cognos® PowerPlay® Client で使用するためのものです。

対象読者

本書を使用するには、ビジネス分析の概念と、ユーザーのビジネス要件に関する知識が必要です。

情報の入手方法

Web で製品資料 (各国語版のすべての資料を含む) を検索するには、IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) にアクセスしてください。

ユーザー補助機能

IBM Cognos PowerPlay Client は現在、運動制限や視覚制限などの身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を使用することができるユーザー補助機能をサポートしていません。

将来の見通しに関する記述

このドキュメントには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、なんらかの資料、規約、または機能を提供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。特性や機能の開発、公開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複製することは禁止されています。

第 1 章 PowerPlay Client ご利用の手引き

IBM Cognos PowerPlay Client では、あらゆる角度からあらゆる組み合わせで重要な企業データを分析できます。PowerPlay の強力な多次元分析機能を活用すれば、ビジネスの問題点を迅速に把握して業績を管理でき、集中的に問題に対処できます。

新規レポートを作成するには、データ・ソースに接続してビジネス・ニーズに合うデータ、表示形式、書式を選択します。

レポートを作成するときには、表示する情報を選択できます。次の項目を追加できます。

- カテゴリ
- ネスト・カテゴリ
- インターセクト・カテゴリ
- レイヤー

レポートを複製したり、レポート情報の表示方法を選択したりできます。カテゴリの非表示、合計カテゴリの表示、不必要な情報の消去、不要データの削除も実行できます。IBM Cognos Analytics ポータルにレポートを発行するという方法でレポートを他のユーザーに配布する場合は、レポートを開く前にユーザーがカスタマイズできるようにするプロンプトを追加することもできます。

Explorer モードと Reporter モード

Explorer モードか Reporter モードのどちらで作業するかを選択できます。Explorer レポートと Reporter レポートには数多くの共通点がありますが、両者には根本的な違いがあります。両者の相違点を理解すると、業務に適したレポートのタイプを選択できます。

Explorer レポートでは、行領域と列領域に、1 つのディメンションの複数のレベルを含めることも、ネストを使用して複数のディメンションを含めることもできます。レポートのカテゴリ構造は、データ・ソースの構造と一致しています。

新規 Explorer レポートを作成すると、ディメンション・ラインの最初の 2 つのディメンションのカテゴリが最初に表示されます。デフォルトで、Explorer レポートには集計が含まれています。Explorer レポートでは集計情報を非表示にすることもできます。

Reporter レポートでは、レポートの情報を完全に制御できます。データ・ソースと同じディメンション構造を使用する必要はありません。使用するカテゴリを空白のレポートに追加していくことができます。

使用可能なカテゴリと数値データを操作するための多くのオプションが、Explorer モードと Reporter モードの両方に用意されています。たとえば、次のようになります。

- ディメンション・ラインを変更して、レポートにフィルターをかけられる

- デイメンションの表示からレポートにアイテムをドラッグして、カテゴリを変更したりネスト・カテゴリを作成したりできる
- レポートのカテゴリのドリルアップやドリルダウンをして、さまざまな詳細レベルを表示できる

IBM Cognos PowerPlay に慣れたら、自分の作業方法に合わせて、デフォルトの設定を変更できます。たとえば、デフォルトの表示形式をクロス集計から棒グラフに変更したり、新規レポートの作成時に Explorer モードではなく Reporter モードを選択したりできます。

ローカル PowerCube を開く

使用しているコンピューターまたは共有ネットワーク上にある非セキュアの PowerCube またはパスワードで保護された PowerCube をデータ・ソースとして使用することができます。

このタイプのデータ・ソースは、個人用レポート、他の IBM Cognos PowerPlay Client ユーザーに配布するレポート、または PDF 形式で配布する標準レポートの作成に適しています。ローカル・キューブに基づいたレポートを IBM Cognos Analytics ポータルに発行することはできません。

手順

1. 「ファイル」メニューの「新規作成」をクリックします。
2. 「ローカル」を選択して、使用する PowerCube を見つけ、「開く」をクリックします。
3. PowerCube のパスワードを求めるプロンプトが出されたら、必要なパスワードを入力します。

リモート・パッケージを開く

IBM Cognos Analytics ポータルで使用可能な場合、PowerCube に基づくパッケージをデータ・ソースとして使用できます。

IBM Cognos Analytics ポータルにレポートを発行する計画がある場合や、ネームスペースで保護されている PowerCube を操作する場合は、このタイプのデータ・ソースを使用する必要があります。

パッケージにアクセスできるようにするためには、PowerPlay とともにインストールされた IBM Cognos Configuration のインスタンスを使用して、IBM Cognos Analytics ゲートウェイの場所を指定する必要があります。「スタート」、「プログラム」で、PowerPlay と同じ場所から IBM Cognos Configuration を起動できます。

手順

1. 「ファイル」メニューの「新規作成」をクリックします。
2. 「リモート」を選択します。

リレーショナル・データ・ソースなどのサポートされていないデータ・ソースを使用するパッケージも含めて、使用可能なすべてのパッケージが表示されます。ただし、PowerPlay Client から選択できるのは、PowerCube データ・ソースを使用するパッケージのみです。

3. 使用するパッケージを選択して、「OK」をクリックします。

複数の PowerCube に対するデータ・ソース接続を使用するパッケージもあります。このタイプのパッケージを開くときには、作業対象にするデータ・ソース接続を 1 つ選択するように求めるプロンプトが表示されます。

4. プロンプトが表示されたら、必要な認証情報を入力します。

タスクの結果

デフォルトの始動時の設定が PowerPlay で使用されている場合、ディメンション・ラインの最初の 2 項目が行と列として使用された新規 Explorer レポートが表示されます。PowerPlay の始動時の設定が、新規レポートの作成時に Reporter モードを使用する設定になっている場合は、空白のレポートが表示されます。

レポートを開く

標準レポートに対する更新を配布する前にデータを更新したり、レポートを変更したり、新規レポートを作成するための出発点として使用したりするために、既存のローカルまたはリモート・レポートを開くことができます。

IBM Cognos PowerPlay Client では、PowerPlay Studio で作成されたリモート・レポートを開くことができます。PowerPlay Studio と PowerPlay Client には機能に違いがあるため、PowerPlay Studio レポートを PowerPlay Client で開くと、表示が異なることがあります。たとえば、パターンや階調、軸の配置、タイトルなど、PowerPlay Studio で適用した一部のグラフ書式は、PowerPlay Client 上のレポートには表示されません。百分位数の計算やカスタム・サブセットもまた、PowerPlay Client のレポートには表示されない PowerPlay Studio の機能です。

既存のレポートを開くときに、元のレポート作成に使用されたデータ・ソースとは別のデータ・ソースをプロンプトで選択できるようにすることができます。このオプションは、元のデータ・ソースが移動または名前変更されている場合や、レポートをテンプレートとして使用し、同様のデータ構造のデータ・ソースに基づいて新規レポートを作成する場合などに便利です。

ローカル・レポートを開く

ご使用のコンピューターまたは共有ネットワーク上の場所に保存されたレポートを開くことができます。レポートを作成するために使用したデータ・ソースが使用できない場合は、データ・ソースを選択するように求めるプロンプトが表示されます。

手順

1. 「ファイル」メニューの「開く」をクリックします。
2. 「ローカル」ボタンをクリックします。

別のローカルやリモートのデータ・ソースにレポートを関連付けるには、「データ・ソースをプロンプト」を選択します。

3. レポートを見つけて、「開く」をクリックします。

リモート・レポートを開く

IBM Cognos Analytics ポータルで使用可能なレポートを開くことができます。

PowerPlay Client で最初に作成されたレポートを開くだけでなく、PowerPlay Studio で作成されたレポートを開くこともできます。

リモート・レポートにアクセスするには、IBM Cognos Analytics ゲートウェイへの接続を設定する必要があり、また、レポートと関連データ・ソースにアクセスするための十分な特権が必要です。

手順

1. 「ファイル」メニューの「開く」をクリックします。
2. 「リモート」ボタンをクリックします。

別のローカルやリモートのデータ・ソースにレポートを関連付けるには、「データ・ソースをプロンプト」を選択します。

3. レポートが含まれているフォルダーまでナビゲートし、レポートを選択して、「OK」をクリックします。

レポートを作成するために使用したデータ・ソースが使用できない場合は、データ・ソースを選択するように求めるプロンプトが表示されます。

レポートを作成するために使用するパッケージで複数の PowerCube へのデータ・ソース接続が使用されている場合は、作業に使用する PowerCube データ・ソース接続の選択を求めるプロンプトが表示されます。

レポートのカテゴリの置換

Explorer モードでは、レポートの行または列のディメンション・ラインにある最初の 2 個のディメンション・フォルダーのカテゴリが新規レポートに表示されます。値はキューブの最初にある数値データに基づいて表示されます。

Explorer モードでは、カテゴリを置き換えると、子カテゴリと集計レベルがレポートに表示されます。たとえば、次の Explorer モードのレポートでは、ディメンション・ラインの最初の 2 つのディメンションが、「日付」と「製品」になっています。

	Camping Equipment	Golf Equipment	Mountaineering Equipment	Outdoor Protection	Personal Accessories	Products
2004	333,298,825	153,642,831	0	36,163,624	391,632,187	914,737,467
2005	403,130,191	168,280,109	107,140,704	25,006,708	456,359,025	1,159,916,737
2006	500,919,729	231,372,689	161,046,514	10,359,215	594,234,053	1,497,932,200
2007	353,381,282	175,748,575	141,528,413	4,473,391	443,812,970	1,118,944,631
Years	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 1. Explorer レポートのデフォルト・レイアウト

"販売地域"というディメンション・フォルダーをディメンションの表示から行にドラッグすると、"販売地域"の子カテゴリ ("アジア太平洋"、"アメリカ"、"中欧"、"南欧"、"北欧") で行の現在のカテゴリ ("2004"、"2005"、"2006"、"2007") が置き換えられます。合計行では、"日付"が"販売地域"で置き換えられます。

	Camping Equipment	Golf Equipment	Mountaineering Equipment	Outdoor Protection	Personal Accessories	Products
Americas	481,921,344	217,892,249	123,140,579	23,005,642	132,350,158	978,309,972
Asia Pacific	422,074,311	194,682,442	107,529,958	19,716,208	116,791,606	860,794,525
Central Europe	344,081,792	154,184,819	88,063,201	17,491,871	1,540,757,653	2,144,579,336
Northern Europ	181,045,498	84,701,953	46,095,152	8,346,107	49,869,275	370,057,985
Southern Europ	161,607,082	77,582,741	44,886,741	7,443,110	46,269,543	337,789,217
Sales regions	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 2. ディメンション・ビューアーから追加されたカテゴリを持つ Explorer レポート

新規レポートに Reporter モードを使用するようにデフォルトの設定を変更すると、新規レポートは空になります。キューブを開いた後、さまざまなディメンションや同じディメンションのさまざまなレベルからの情報を追加します。

次のようなさまざまな方法でレポートにカテゴリを追加できます。

- カテゴリを選択し、ディメンションの表示でツールバー・ボタンを使用する。
- ディメンションの表示またはディメンション・ラインからレポートへ、カテゴリをドラッグする。
- Reporter レポート内で選択したカテゴリの次のレベルを追加するには、ツールボックスの「次のレベルの子カテゴリ」ボタンをクリックして、レポートのドロップ・ゾーンにカテゴリをドラッグする。
- Reporter レポート内で選択したカテゴリの最下層のレベルを追加するには、「最下層のレベルの子カテゴリ」ボタンをクリックして、レポートのドロップ・ゾーンにカテゴリをドラッグする。この方法は、最下位レベルにドリルダウンしてそのレベルにカテゴリすべてを追加するよりも迅速です。
- Explorer レポートで既存のカテゴリを置換するには、ディメンション・ラインまたはディメンションの表示から、行または列のラベルへカテゴリをドラッグする。

管理者が設定した長い形式と短い形式のカテゴリー名をユーザーが切り替えることができます。

手順

1. 「表示」メニューの「ディメンションの表示」をクリックします。
2. ディメンションの表示で、レポートに追加するカテゴリーを選択します。

Explorer レポートでは、追加するカテゴリーの親カテゴリーを選択します。

3. 次のいずれかを実行します。
 - Explorer レポートのディメンションの表示のツールバーで、「行の置換」または「列の置換」ボタンをクリックします。
 - Reporter レポートのディメンションの表示のツールバーで、「行に追加」または「列に追加」ボタンをクリックします。

カテゴリーまたはレベルを削除するには、カテゴリーを右クリックして、カテゴリーまたはレベルの削除を選択します。

ネスト・カテゴリーのレポートへの追加

レポートにネスト・カテゴリーを追加すると、別のレベルにあるビジネスに関する情報を表示できます。

Explorer レポートや Reporter レポートでは、次のものをネストできます。

- 1 つのディメンションの複数レベル
- 異なるディメンションのレベル
- 複数の数値データでネストされたディメンションのレベル

Explorer レポートでは、子カテゴリーが親カテゴリーのすぐ下に表示されるように、同じディメンションからのレベルをネストできます。ネスト・カテゴリーに子カテゴリーをドラッグすると、ネスト・カテゴリーとその兄弟が子で置き換えられます。

Reporter モードでは、ネスト・カテゴリーでカテゴリーをドラッグすると、そのカテゴリーがレポートに追加されます。また、同じディメンションの代替パスからのレベルをネストすることもできます。

カテゴリーをネストするには、次のものからカテゴリーをドラッグします。

- ディメンションの表示
- ディメンション・ライン
- レポートの行、列、またはレイヤー
- 別のレポート

ロング・バーとショート・バーの 2 つのドロップ・ゾーンによって、カテゴリーのネスト方法が決まります。

ロング・バー・ドロップ・ゾーンは、Explorer レポートと Reporter レポートの両方で使用できます。これらのドロップ・ゾーンを使用して、行または列に、上位レベルまたは下位レベルとしてカテゴリーを追加できます。

たとえば、Explorer レポートの列に"販売地域"、行に"日付"が表示されているとします。レポートのすべての行に"日付"の子をネスト・カテゴリとして追加するには、"日付"ディメンションを長いバーのドロップ・ゾーンにドラッグします。

	Americas	Asia Pacific	Central Europe	Northern Europe	Southern Europe	Sales regions
2004	192,342,219	166,861,815	428,893,362	70,278,517	56,361,554	914,737,467
2005	239,401,452	212,448,438	539,441,359	90,294,795	78,330,693	1,159,916,737
2006	312,565,726	276,319,000	676,044,507	117,379,677	115,623,290	1,497,932,200
2007	234,000,575	205,165,272	500,200,108	92,104,996	87,473,680	1,118,944,631
Years	978,309,972	860,794,525	2,144,579,336	370,057,985	337,789,217	4,691,531,035

図 3. Explorer レポートにあるネストされたカテゴリのドロップ・ゾーン

表示されるレポートでは、"日付"ディメンションの子である四半期がすべての行でネストされます。

		Americas	Asia Pacific	Central Europe	Northern Europe	Southern Europe	Sales regions
2004	2004 Q 1	47,382,290	41,557,166	101,797,806	17,178,597	13,795,154	221,711,013
	2004 Q 2	46,467,354	39,703,988	105,181,738	17,126,720	13,736,715	222,216,515
	2004 Q 3	50,170,797	43,923,316	109,611,564	17,876,518	14,306,631	235,888,826
	2004 Q 4	48,321,778	41,677,345	112,302,254	18,096,682	14,523,054	234,921,113
	2004	192,342,219	166,861,815	428,893,362	70,278,517	56,361,554	914,737,467
2005	2005 Q 1	61,778,256	56,410,748	134,175,555	22,012,314	19,138,688	293,515,561
	2005 Q 2	56,958,263	49,322,517	129,802,856	22,703,576	19,602,227	278,389,439
	2005 Q 3	57,208,620	49,225,948	132,683,612	22,487,253	19,541,345	281,146,778
	2005 Q 4	63,456,313	57,489,225	142,779,336	23,091,652	20,048,433	306,864,959
	2005	239,401,452	212,448,438	539,441,359	90,294,795	78,330,693	1,159,916,737

図 4. ネストされたカテゴリが行にある Explorer レポート

ショート・バー・ドロップ・ゾーンは、Reporter レポートのみで使用できます。ショート・バー・ドロップ・ゾーンを使用して、各行または各列にカテゴリを下位レベルとして追加できます。

たとえば、Reporter レポートの列に"販売地域"、行に"日付"が表示されているとします。ショート・バー・ドロップ・ゾーンを使用して"アメリカ"列で"直販"をネストすれば、特定の小売業者タイプに関するフィルターをデータに簡単にかけられるようになります。

	Americas	Asia Pacific	Central Europe	Northern Europe	Southern Europe	Sales regions
2004	192,342,819	166,861,815	428,893,362	70,278,517	56,361,554	914,737,467
2005	239,401,452	212,448,438	539,441,359	90,294,795	78,330,693	1,159,916,737
2006	312,565,726	276,319,000	676,044,507	117,379,677	115,623,290	1,497,932,200
2007	234,000,575	205,165,272	500,200,108	92,104,996	87,473,680	1,118,944,631
Years	978,309,972	860,794,525	2,144,579,336	370,057,985	337,789,217	4,691,531,035

図 5. Reporter レポートにあるネストされたカテゴリのドロップ・ゾーン

カテゴリをネストした後は、「アメリカ」列のデータに「直販」でフィルターがかかりますようになります。

	Americas	Asia Pacific	Central Europe	Northern Europe	Southern Europe	Sales regions
	Direct Marketing					
2004	4,521,893	166,861,815	428,893,362	70,278,517	56,361,554	914,737,467
2005	4,958,487	212,448,438	539,441,359	90,294,795	78,330,693	1,159,916,737
2006	3,980,685	276,319,000	676,044,507	117,379,677	115,623,290	1,497,932,200
2007	2,271,014	205,165,272	500,200,108	92,104,996	87,473,680	1,118,944,631
Years	15,732,079	860,794,525	2,144,579,336	370,057,985	337,789,217	4,691,531,035

図 6. ネストされたカテゴリが列にある Reporter レポート

手順

1. デイメンションの表示で、追加するカテゴリを選択します。

Explorer レポートでは、追加するカテゴリの親カテゴリを選択します。

2. レポートの適切なドロップ・ゾーンにカテゴリをドラッグします。

タスクの結果

ヒント:Reporter レポートでは、同じ行や列の親子関係をネストできます。カテゴリ

ーを選択して、「ネスト・レベルの生成」ボタン  を押して、デイメンション表示のツールバーを使用して行か列にカテゴリを追加します。カテゴリまたはレベルを削除するには、カテゴリを右クリックして、そのカテゴリまたはレベルの削除を選択します。

ネスト・カテゴリの選択

レベルに含まれるすべての行または列にロング・バー・ドロップ・ゾーンを使用してネスト・カテゴリを追加すると、そのカテゴリのすべての出現にすべての変更が適用されます。

たとえば、次のレポートでは、"販売地域"が製品にネストされています。1つの販売地域を選択すると、IBM Cognos PowerPlayによって、カテゴリのすべてのインスタンスが強調表示されます。

		2004	2005	2006	2007
Camping Equipment	Americas	104,350,317	122,537,142	150,000,876	105,033,009
	Asia Pacific	87,851,472	107,499,821	135,836,236	90,886,782
	Central Europe	71,690,887	89,503,966	105,496,254	77,390,685
	Northern Europe	39,224,688	45,810,361	54,037,662	41,972,787
	Southern Europe	30,181,461	37,778,901	55,548,701	38,098,019
Golf Equipment	Americas	48,288,489	49,259,629	69,022,414	51,321,717
	Asia Pacific	42,407,234	44,704,380	61,746,963	45,823,865
	Central Europe	32,318,598	36,612,013	47,542,699	37,711,509
	Northern Europe	16,497,530	19,711,020	27,615,904	20,877,499
	Southern Europe	14,130,980	17,993,067	25,444,709	20,013,985
Mountaineering Equipment	Americas	0	32,065,568	49,159,859	41,915,152
	Asia Pacific	0	29,890,443	40,738,359	36,901,156
	Central Europe	0	22,616,016	34,684,149	30,763,036
	Northern Europe	0	11,879,335	18,223,935	15,991,882
	Southern Europe	0	10,689,342	18,240,212	15,957,187

図 7. ネストされたカテゴリが強調表示されたレポート

出現したカテゴリがすべて選択されるため、1つの出現に対して実行した移動、削除、書式設定などの操作は、そのカテゴリのすべての出現に適用されます。

ショート・バー・ドロップ・ゾーンを使用して、カテゴリの複数のインスタンスを追加した場合は、各インスタンスを個別に選択して変更を適用する必要があります。

インターセクト・カテゴリの Reporter レポートへの追加

Reporter レポートでは、新規インターセクト・カテゴリを追加できます。

これらのカテゴリは、それぞれのコンポーネントのカテゴリではなく、単一の統合されたカテゴリとして表示されます。

カテゴリを数値データまたは時間関連カテゴリと結合することによって、業務に関する重要な情報を明らかにするインターセクト・カテゴリを作成できます。

手順

1. 「表示」メニューの「ディメンションの表示」をクリックします。
2. ディメンションの表示で、組み合わせるカテゴリを複数選択するには、Ctrl キーを押しながらクリックします。

これらのカテゴリは、異なるディメンションからのものでなければなりません。同じディメンションから複数のカテゴリを選択すると、IBM Cognos PowerPlay により、それらのカテゴリが個別のものとして追加されます。

3. 「インターセクト」ボタンをクリックします。
4. 「行に追加」ボタン  または「列に追加」ボタン  をクリックします。

レイヤーを使用した作業

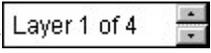
レイヤーを使用して、各カテゴリのデータを別個のページに表示できます。

たとえば、四半期ごとの製品の販売数量がレポートに表示されるとします。場所ディメンションをレイヤーとして追加すると、北米、欧州、および極東での製品の販売数量を表示できます。

Explorer レポートにレイヤーを追加する場合は、合計レイヤーとその子カテゴリがレイヤーとして追加されます。Reporter レポートでは、選択したカテゴリのみがレイヤーとして追加されます。下位レベルのカテゴリを追加するには、このレイヤーでドリルダウンします。

レイヤーのラベル名の変更、レイヤーのドリルダウン、レイヤーのドリルアップを実行できます。

手順

1. 新規レイヤーを追加するには、ディメンション・フォルダーまたはディメンションの表示のフォルダーを、ディメンション・ラインにあるレイヤー・ターゲットへドラッグします。
2. 既存のレイヤーを変更するには、レポートの種類に応じて、以下のように操作します。
 - Explorer レポートでは、別のディメンション・フォルダーをレイヤー・ターゲットにドラッグします。
 - Reporter レポートでは、レイヤーを削除して、別のディメンション・フォルダーをレイヤー・ターゲットにドラッグします。
3. レイヤー間を移動するには、以下のいずれかを実行します。
 - レイヤーの矢印の 1 つをクリックします 。
 - レイヤー・ラベルを右クリックして「レイヤーへ移動」をクリックします。次に、移動するレイヤーをクリックして「OK」をクリックします。
4. レイヤーを削除するには、以下のようにして、Reporter レポートから 1 つのレイヤーを削除するか、Reporter レポートまたは Explorer レポートからすべてのレイヤーを削除するかを選択します。
 - Reporter レポートから 1 つのレイヤーを削除するには、レイヤーを選択して「現在のレイヤーを削除」をクリックします。
 - レポートからレイヤーすべてを削除するには、レイヤーを右クリックして「すべてのレイヤーを削除」をクリックします。

レポートの複製

レポートのコピーを保持したり、または 1 つのレポート・タイプが他のレポート・タイプに提供する機能を利用して、その後も現在のレポート・タイプを保持するには、レポートを複製します。また、同じデータ・ソースを使用するレポート間で情報をコピーすることもできます。

デフォルトでは、重複したレポートには共有ディメンション・ラインがあります。この機能はオフにできます。

合計または小計の割合として Explorer レポートに値が表示されている場合に、そのレポートを Reporter レポートとして複製すると、「値の表示形式」設定がデフォルト設定の「値」に戻ります。

手順

「ファイル」メニューの「名前を付けてレポートをコピー」をクリックし、代替レポート・タイプを選択します。

レポート間の情報のコピー

レポートのコピーを保持したり、または 1 つのレポート・タイプが他のレポート・タイプに提供する機能を利用して、その後も現在のレポート・タイプを保持するには、同じデータ・ソースを使用するレポート間で情報をコピーします。

レポート間でカテゴリーをコピーする場合、一方のレポートのカテゴリーに適用されている書式設定はもう一方のレポートに継承されません。

手順

1. 情報のコピー元とコピー先のレポートを開きます。
2. 「ウィンドウ」メニューから「並べて表示」コマンドの 1 つをクリックします。
3. コピーするカテゴリーを選択します。
4. 一方のレポートからもう一方のレポートへ選択したカテゴリーをドラッグします。

カテゴリーの非表示

カテゴリーを非表示にして、重要な情報のみに着目することができます。選択したカテゴリー、または選択していないカテゴリーを非表示にできます。Explorer レポートと Reporter レポートの両方でカテゴリーを非表示にできます。Reporter レポートでは、ランク・カテゴリーを非表示にして非表示カテゴリーを削除できます。

データが非表示になるのは一時的です。たとえば、欧州、北米、極東の 2008 年の販売を表示している場合に、北米を非表示にするとします。ドリルダウンすると、北米に関するデータは表示されません。上へドリルアップすると、欧州、北米、および極東に関するデータが再び表示されます。

カテゴリーを完全に非表示にするには、「非表示」スタイルを適用するか、Reporter レポートがアクティブな場合はカテゴリーを削除します。

現在の表示にランク・カテゴリが含まれている場合は、そのカテゴリを非表示にできます。このオプションは、「閲覧」メニューで「ネストされたグラフ」が選択された状態では使用できません。ランク・カテゴリは、散布グラフでデフォルトで非表示になっています。

レイヤーを非表示にすることはできません。レイヤーはレポートから削除する必要があります。

カテゴリを再表示しても、次のカテゴリは非表示のままです。

- ユーザー設定ハイライト定義によって非表示にしたカテゴリ。
- ランク付けによって非表示にしたカテゴリ。たとえば、レポートに、過去の月の上位 10 位の製品を表示するようにランク付けした場合、「再表示」コマンドではその他の製品は表示されません。
- 数値の消去によって非表示にしたカテゴリ。たとえば、欠落値を表示しないように設定している場合は、「再表示」コマンドを使用しても、欠落値は表示されません。

手順

1. レポートのカテゴリを 1 つ以上選択します。
2. 選択したカテゴリまたは選択していないカテゴリのどちらかを非表示にするかを選択します。
 - 選択したカテゴリを非表示にするには、「書式」メニューにある「非表示」の「選択したカテゴリ」をクリックします。
 - 選択していないカテゴリを非表示にするには、「書式」メニューにある「非表示」の「選択していないカテゴリ」をクリックします。

タスクの結果

カテゴリを再表示するには、「書式」メニューの「再表示」をクリックします。

ヒント: Explorer のクロス集計表示で 1 個のカテゴリを素早く非表示にするには、カテゴリの幅 (列) がゼロ、高さ (行) がゼロになるようにサイズを変更します。

合計カテゴリの表示

Explorer レポートでは、集計カテゴリの表示と非表示を切り替えられます。

手順

1. レポート全体の合計カテゴリを表示するには、以下のようにします。
 - 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
 - 「全般」タブの「合計のオプション」ボックスで、いずれかの合計のオプションを選択し、「OK」をクリックします。
2. レポートの特定レベルの合計カテゴリを表示するには、クロス集計の行か列のカテゴリを右クリックして、「このレベルの合計の表示」をクリックします。

行、列、レイヤーの入れ替え

行と列、行とレイヤー、列とレイヤーを入れ替えることができます。これにより、情報の差を解析できます。

たとえば、行に会計年度の四半期、列に製品が含まれている場合、行に製品、列に四半期が含まれるように入れ替えることができます。このようにすると、特に単線グラフまたは複線グラフを使用して、傾向を容易に追跡できるようになります。

たとえば、行に製品、列に数量、レイヤーに場所を指定したレポートで、地域別の実績を比較するとします。行とレイヤーを入れ替えると、各製品の販売状況を確認できます。列とレイヤーを入れ替えると、四半期の売上を比較できます。

手順

「閲覧」メニューの「交換」をクリックし、「行と列」、「行とレイヤー」、または「列とレイヤー」をクリックします。

「交換」コマンドで使用できる項目名は、選択した表示タイプによって異なります。たとえば、円グラフ表示では、「行と列」のコマンドは「表示とスライス」に、「行とレイヤー」のコマンドは「グラフ表示とレイヤー」になります。

タスクの結果

ヒント:Explorer レポートの行と列の入れ替えに、ドラッグ・アンド・ドロップを使用することもできます。たとえば、行と列を入れ替えるには、任意の行カテゴリーを選択し、その行カテゴリーを列領域にドラッグします。

空白行と空白列の挿入

空白の行または列を Reporter のクロス集計に追加できます。

この機能は、情報をグループ分けするのに便利です。例えば、会社が販売している投資信託の種類の詳細を説明する IBM Cognos PowerPlay レポートを作成したとします。個々の投資信託を合計から区別するために、合計の前に空白の行と列を追加します。

任意の空白の行や列に書式を設定してサイズを変更できます。たとえば、空白の行または列に背景パターンを追加するには、空白の行または列を選択し、「書式」メニューの「カテゴリー」をクリックして、「ラベルと値」をクリックします。

レベルの開始位置の行や列は、空白にすることはできません。レイヤーは空白にはできません。行や列をレイヤーと入れ替えたり、グラフ表示に変更したりすると、空白が表示されなくなります。

手順

1. Reporter レポートで、空白を挿入する場所の上の行または左の列をクリックします。
2. 「挿入」メニューから「空白」をクリックします。

行または列の移動

Reporter レポートの行または列は、移動して表示順序を変更できます。

Explorer レポートで、行を列の領域にドラッグするか、列を行の領域にドラッグすると、すべての行と列が入れ替わります。

手順

1. 移動する列や行のラベルを選択します。
2. 選択した行または列のラベルを新しい場所にドラッグします。
 - ネストされたクロス集計表示で、カテゴリまたはカテゴリ・グループの元の配置を保存するには、カテゴリをドロップする際に **Ctrl** キーを押します。
 - 行ラベルをレポート中央に表示するには、行ラベルの左へ列をドラッグします。

ポインターが変化し、太い黒線によって行や列をドラッグできる場所が示されません。

発行したレポートに対するプロンプトと PDF プロパティの設定

レポートの作成者は、IBM Cognos Analytics ポータルで PDF 形式のレポートが開かれた際に、レポート利用者に対して入力を求める項目を選択できます。レポートに表示するデータ量も制限できます。

デフォルトでは、レポートは入力のプロンプトなしで発行されます。IBM Cognos Analytics にレポートを発行または再発行する前に、デフォルトのプロンプト・プロパティを変更できます。

手順

1. IBM Cognos Analytics へ発行するレポートを開きます。

ローカル・キューブではなく、リモート・パッケージに基づくレポートを使用する必要があります。
2. 「ファイル」メニューの「実行オプション」をクリックします。
3. 「プロンプト」タブの「レポートの利用者にプロンプトする内容」ボックスで、発行したレポートを開く際にレポート利用者が利用できるプロンプト・オプションを指定します。
4. 「PDF オプション」タブの「保存」ボックスで、発行したレポートを利用者が開く際に表示するレポート部品を指定します。
5. 「選択のグラフ保存のオプション」ボックスで、発行したレポートとともに保存するレポート・プロパティを指定します。

「保存」ボックスで選択したオプションによっては、一部の項目が使用できない場合もあります。
6. 「OK」をクリックします。

不要な情報の消去

ゼロ値、「n/a」またはゼロとして表示される欠落値、ゼロ除算の結果などの不要な情報は、消去することができます。たとえば、ある行がすべてゼロの場合は、その行は消去してもよいでしょう。

データをランク付けする際は、ランク・カテゴリーは値の消去には影響しません。たとえば、ランク・カテゴリーを追加し、ゼロの数値を消去します。1 つの行の最後のセル以外にはすべてゼロが含まれ、最後のセルにはランク・カテゴリーからの数値が含まれています。IBM Cognos PowerPlay では、このランク・カテゴリーが無視され、ゼロの行が消去されます。

ゼロを消去

レポートでゼロを消去する方法を制御できます。

最高のパフォーマンスを得るため、算出済みゼロ (結果がゼロの集計または計算) 以外のゼロ値を消去します。

新規レポートで、どの値をデフォルトで消去するかを決めるには、消去する値の設定を変更できます。

Explorer レポートでは、ゼロ消去は表示されているデータに適用されます。PowerPlay では、ゼロ消去が適用されるときに、非表示のカテゴリーは対象になりません。

複数の数値データをサポートするグラフにゼロ消去を適用すると、ゼロ消去は最初の数値データにのみ適用されます。相関グラフの線のような 2 次的な数値データや、両方の数値データがゼロになる条件には、ゼロ消去を適用できません。

手順

1. 「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。
2. 「消去」タブの「消去オプション」ボックスで、次の手順を実行します。
 - ゼロのみを含む行または列を消去するには、「ゼロ値」を選択します。
 - ゼロで除算した結果としての値がセルすべてに含まれている行または列を消去するには、「ゼロ除算」を選択します。
 - セルすべてに欠落値が含まれている行または列を消去するには、「欠落値」を選択します。
 - すべてのセルの値が、数値データの保管タイプで許容されている値より大きい行または列を消去するには、「オーバーフロー値」を選択します。
3. 「閲覧」メニューにある「消去」の「ゼロ」をクリックし、「行と列」、「行のみ」、または「列のみ」をクリックします。

80/20 消去

「80/20 消去」を使用すると Explorer レポートから重要でない数値が含まれた行と列を削除できます。

数値は降順で並べられます。全体の合計の 80% に含まれる数値は重要とみなされ、レポートに表示されます。全体の合計の 80% に含まれない残りの数値は消去

され、これらのカテゴリは「その他」カテゴリにまとめられます。「その他」カテゴリのラベルは斜体で表示されます。

ネストされたレポートでは、レポートの数値は、総合計に対して個別に考慮されません。この結果、複数の「その他」カテゴリがさまざまなレベルで表示される場合があります。

「80/20 消去」オプションをオンにした状態で行と列を入れ替えると、この消去は選択したオプションでも維持されます。たとえば、クロス集計の列に"製品"、行に"年"が表示されているとします。この列に「80/20 消去」を適用し、行と列を入れ替えると、「80/20 消去」は列に残ります。

行、列、またはレイヤーなどの軸に沿って存在するすべての「その他」カテゴリは、特性 (書式設定、名前、および非表示設定を含む) を共有します。たとえば、レポートの行に 2 段階のネスト・レベルがあり、3 個の「その他」カテゴリが行に表示されていると仮定します。1 個の「その他」カテゴリでフォントの色を赤に変更すると、その行にある「その他」カテゴリすべてが赤になります。

「その他」カテゴリでは、名前変更、ランキング、または計算を行うことはできません。

交点にある 2 つのカテゴリのいずれかがドリル可能な場合は、ドリル・カーソルを使用して「その他」カテゴリをドリルダウンできます。ただし、ショートカット・メニューからは「その他」カテゴリをドリルダウンできません。これらのカテゴリ・タイプに対しては、ドリル  ができないためです。

「80/20 消去」を選択して Reporter モードに切り替えた場合、「80/20 消去」は適用されなくなります。その状態で Reporter モードのレポートを保存した場合、「80/20 消去」はレポートとともに保存されません。

始める前に

80/20 消去を使用できるのは、行、列、レイヤーにある数値データが 1 つのみの場合に限られます。

手順

「閲覧」メニューにある「消去」の「80/20 の割合で」をクリックし、「行と列」、「行のみ」、または「列のみ」をクリックします。

タスクの結果

「その他」カテゴリにまとめられたカテゴリを表示するには、「説明」ダイアログ・ボックスを開きます。

不要な情報の削除

Reporter レポートでは、不要な情報を削除できます。

クロス集計では、任意のレベルを、その子レベルを残したままいつでも削除できます。たとえば、「年」、「四半期」、「月」に基づいてネストされた 3 つのレベルがクロス集計に表示されているとします。「四半期」レベルを削除すると、レポートにはネストの 2 つのレベル、「年」と「月」が表示されます。中間レベル (四半期) を削除しても、最下位レベル (月) は削除されません。

また、カテゴリーを一時的に非表示にして情報を削除することもできます。

カテゴリーの上位または下位から一定数をランク付けしたり、ユーザー設定ハイライト定義を適用したり、ゼロを消去したりすることによって、カテゴリーを非表示にする場合、これらの非表示カテゴリーを削除して、IBM Cognos PowerPlay のパフォーマンスを高速化できます。非表示カテゴリーは依然としてレポートの一部で、使用可能なメモリーを消費します。非表示カテゴリーを削除すると、PowerPlay の実行速度が向上します。

レイヤーに関するランク付けまたは数値消去の基準は、他のレイヤーには適用されない場合があるので、レポートにレイヤーがあると非表示カテゴリーを削除できません。

ランクまたは計算されたカテゴリー以外では、Explorer レポートからカテゴリーを削除できません。情報の非表示のみが可能です。

手順

1. Reporter レポートのカテゴリーまたはレベルを削除するには、以下のようになります。
 - 削除するカテゴリーまたはレベルを選択します。
 - 「編集」メニューの「削除」をクリックして、「カテゴリー」または「レベル」をクリックします。
2. Reporter レポートの非表示カテゴリーを削除するには、以下のようになります。
 - 「編集」メニューの「削除」、「カテゴリーの非表示」をクリックします。
 - 「非表示カテゴリーの削除」ダイアログ・ボックスで、削除する非表示カテゴリーに対応した 1 つ以上のチェック・ボックスをオンにして、「OK」をクリックします。

レポートのユーザー補助機能の向上に関する考慮事項

ユーザー補助機能付きレポートを作成すれば、能力のレベルにかかわらず、すべてのユーザーが情報にアクセスできるようになります。

たとえば、目の不自由なユーザーは、画面読み上げのテクノロジーを利用してレポートの情報にアクセスすることができます。

以下に、ユーザー補助機能付きレポートを作成するためのデザイン上の注意点を示します。

- 重要な情報を伝える場合、テキストを太字にしたり色を変えたりするなどの視覚的な手段の使用を避ける。
- PDF ドキュメントの写真および OLE オブジェクトは、結果としてタグ付けされてスクリーン・リーダーでは無視されるため使用を避ける。

- 重要な情報を伝える場合、条件付き表示形式の使用を避ける。
- スクリーン・リーダーでは画像の情報は無視されるため、画像として表示されるグラフ・タイプに対応する表を用意する。
- レポートにタイトルがあることを確認する。
- 画面読み上げのテクノロジーを把握する。
- 画面読み上げソフトウェアが情報の解釈を誤る原因になるため、スペリングや文法上の誤りを避ける。
- 時間コントロールでのカレンダー・ボックスや上下選択などの機能の使用を避ける。代わりに、チェック・ボックス、ラジオ・ボタン、コンボ・ボックス、複数選択ボックスなどのプロンプトを使用します。
- 組み込みの Web アプリケーションやドリルスルー・パスを使用する場合は、対象のアプリケーションにアクセスできることを確認する。
- 大規模で複雑なリスト・レポートやクロス集計レポートの使用を避ける。

単純なリスト・レポートやクロス集計レポートを複数用意して情報を表示すると、支援テクノロジーを利用するユーザーにも使いやすくなります。

第 2 章 標準レポートの管理

常に変化し続けるデータ・ソースに対して、標準レポートを用意しておくことが重要です。これにより、時間を節約でき、レポート機能を強化できます。

次の操作を実行できます。

- 2 つのレポート間でディメンション・ラインを共有する。
- レポートをテンプレートとして設定して使用する。
- 情報を自動的に更新する。

既存のレポートを開くたび、または既存レポートのレベルをドリルアップまたはドリルダウンするたびに、内容が最新情報で更新されます。

- 情報を手動で更新する。

大きなデータ・ソースで作業していると、更新に時間がかかります。手動で更新すれば、行、列、およびレイヤーの書式を設定したり、必要なレベルの情報までドリルダウンしたりできます。また、必要に応じて最新情報に更新できます。

- サブセットのカテゴリに影響を与える変更がデータ・ソースで行われるたびに更新される、動的なサブセットを使用する。

ディメンション・ラインの共有

共有ディメンション・ラインは、複数のレポートで関連情報を同時に閲覧する場合に便利です。複数のレポートを開いていて、レポートがディメンション・ラインを共有する場合は、1 つのレポートのディメンションに対するすべての変更が、他のレポートに自動的に表示されます。

たとえば、製品ラインの販売実績を分析するため、あるデータ・ソースから 2 つのレポートを作成したとします。一方のレポートは 2005 年と 2006 年の製品の傾向を示し、もう一方のレポートは各場所の各顧客タイプに関する収益を示します。2006 年でドリルダウンして四半期ごとの収益を表示すると、もう一方のレポートにフィルターがかけられて、同じ期間のデータが表示されます。

それぞれのレポートで異なる数値データを使用できます。1 つのレポートの数値データを変更しても、他のレポートには影響しません。

デフォルトでは、同じデータ・ソースから作成されたすべてのレポートがディメンション・ラインを共有します。開いている他のレポートに影響を与えずに、1 つのレポートをドリルダウンしたりフィルターをかけたりする場合は、ディメンション・ラインの共有のデフォルトの設定を変更します。

手順

1. 作業するレポートを開きます。
2. 「ウィンドウ」メニューでウィンドウの表示オプションを選択し、すべてのレポートを表示します。

3. 「ファイル」メニューの「共有ディメンション」が選択されていることを確認します。
4. 1 つのレポートでドリルダウンやフィルターなどの閲覧オプションを使用します。

タスクの結果

1 つのレポートに適用した閲覧オプションが、開いている他のレポートにも自動的に適用されます。

レポート・テンプレートの作成

テンプレートを使用すると、新しいレポートを短い時間で作成し、データを一貫した形式で表示することができます。

たとえば、キャンプ用品を販売する全国規模の会社の人事管理者であると仮定します。3 つの主要製品グループがあり、それぞれが、"環境関連"、"GO スポーツ・ライン"、および"アウトドア用品"という戦略的ビジネス・ユニットとして機能します。各ユニットには、分析用の独自のキューブがあります。レポート・テンプレートを作成して、各ユニットの管理者がデータを同じ方法で提示できるようにします。

データ・ソースの最上位レベル・ディメンションが同じであれば、異なるデータ・ソースを使ってテンプレートを使用できます。管理者は使用可能なデータ・ソースについての詳細をユーザーに提供し、複数のデータ・ソースで使用できるテンプレートを作成することができます。

手順

1. レポートに表示する情報を設定します。たとえば、カテゴリの追加、ドリルダウン、フィルターなどがあります。
2. レポートを書式設定します。たとえば、タイトルの追加、行や列のサイズの調整、ラベルや値のフォントやスタイルの変更などがあります。
3. レポートを保存します。

タスクの結果

他のレポート作成者が、このレポートを新規レポート作成時のテンプレートとして使用できるようになりました。ユーザーが新しいレポートを保存するときに上書きしないように、テンプレートは読み取り専用にします。

データの更新時期の制御

デフォルトでは、レポートを開いたりレポートに変更を加えたりすると、IBM Cognos PowerPlay によってデータが自動更新され、レポートのカテゴリには最新の値が表示されます。

レポートを手動で更新するほうが適切な場合もあります。たとえば、サイズの大きなキューブで作業している場合などです。このような場合、新しいレポートの作成

時やレポート内で特定の場所に移動するときに、データ更新に許容できないほどの時間がかかることがあります。データの手動更新を選択すると、データを必要に応じて表示することができます。

自動更新が無効に設定されているときは、レポートを手動で更新するまでレポートのセルの横に疑問符 (?) が表示されます。

手順

1. 以下のようにして、デフォルト設定を変更してデータの自動更新を使用不可にします。
 - すべてのレポートの自動更新をオフにするには、「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。「オプション」タブで「データ自動取得」チェック・ボックスをオフにします。
 - 特定のレポートの自動更新をオフにするには、「閲覧」メニューから「データ自動取得」をオフにします。
2. データの自動更新が使用不可になっている場合にデータを更新するには、「閲覧」メニューの「データを取得」、「今すぐ実行」をクリックします。

サブセット定義

サブセット定義は、指定した基準に基づいて新しい一連のカテゴリーを定義するクエリーです。

サブセット定義は、Reporter モードのレポートで最も役立ちます。たとえば、サブセット定義を作成して、レポート内の特定地域にいるすべての販売員を表示できます。その地域で新しい販売員が雇用されると、データの更新時にその変更がレポートに反映されます。Reporter モードのレポートにこのサブセットが含まれていなかった場合は、データの更新後も新しい販売員はレポートに表示されません。

Explore モードのレポートでは、データの更新時に、カテゴリーの変更がレポートに反映されます。

3 種類のサブセット定義を作成できます。

- ペアレントージ・サブセット
- キューブから検索サブセット
- 詳細サブセット

サブセット定義を作成すると、レポートのサブセットの表示に作成した定義が表示されます。

ペアレントージ・サブセットの定義の作成

ディメンション内の単一または複数のレベルに基づいて、サブセット定義を作成できます。

たとえば、ユーザーが世界中にキャンプ用品を販売する会社の地域責任者で、毎年、「アメリカ」の全販売員の過去 2 年間の収益を含むレポートを提示する必要がある

るとします。販売員は"アメリカ"の最下位レベルの子です。必要なレポートを作成するには、"アメリカ"の最下位レベルにある子を含むペアレント・サブセットの定義を作成します。

手順

1. Reporter レポートのディメンションの表示で、定義の作成に使用するディメンション・フォルダーをクリックします。
2. ツールボックスの「ペアレント・サブセットの定義を作成します」ボタン  をクリックします。
3. 「限定属性」ボックスで、次のいずれかを実行します。
 - 選択したレベルの子を使用するには、「次のレベルのカテゴリ」をクリックします。
 - 選択したレベルの子と、その次のレベルの子を使用するには、「次の 2 レベルの子カテゴリ」をクリックします。
 - ディメンションの最下位レベルにある子を使用するには、「最下層レベルの子カテゴリ」をクリックします。
4. 「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

IBM Cognos PowerPlay によって、サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

"キューブから検索"サブセット定義の作成

指定条件を満たすキューブ内のすべてのカテゴリに基づいて、サブセット定義を作成できます。

手順

1. レポートのディメンションの表示ツールボックスで、「キューブからの検索サブセット定義の作成」ボタン  をクリックします。
2. 検索設定を指定します。
3. 「すべて検索」ボタンをクリックします。
4. 「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

ワイルドカード

「キューブから検索」サブセット定義で、またはデータ検索用に、ワイルドカードを使用することができます。

表 1. ワイルドカード文字

文字	説明
^	文字列の先頭。 たとえば、「^inter」と指定すると、「interesting」と「interfere」は検索されますが、「splinters」は検索されません。
\$	文字列の末尾。 たとえば、「in\$」と指定すると、「in」と「within」は検索されますが、「interfere」は検索されません。
?	任意の 1 文字 (改行以外)。 たとえば、「to?」と指定すると、「top」と「ton」は検索されますが、「to」は検索されません。
~	直前の文字 (またはサブ式) を 0 個または 1 個含む文字列。 たとえば、「files~」と指定すると、「file」と「files」は検索されますが、「filed」は検索されません。
*	任意の文字の 0 回以上の出現 (改行以外)。 たとえば、「can*」と指定すると、「can」と「Canada」が検索されます。
#	直前の文字 (またはサブ式) を 0 個以上含む文字列。 たとえば、「filex#」と指定すると、「file」と「filexxx」が検索されます。
@	直前の文字 (またはサブ式) の 1 回以上の出現。 たとえば、「filex@」と指定すると、「filex」と「filexxx」は検索されますが、「file」は検索されません。
	直前の文字 (または式の一部) または直後の文字を使用した文字列。 たとえば、「localis ze」と指定すると、「localise」または「localize」が検索されます。
[]	角括弧内のいずれかの文字を使用した文字列。文字の範囲は、ハイフンを使用して指定できます (先頭のハイフンはハイフンそのものと一致します)。先頭に感嘆符がある場合は、指定した文字セット以外を表します。たとえば、[!a-m] は、a~m の文字を除くすべての文字と一致します。 たとえば、「p[iu]ck」と指定すると、「pick」と「puck」が検索されます。
()	反復および代替ワイルドカード文字をより幅広く適用するためのサブ式。 たとえば、「ab(cd)#e」と指定すると、先頭が「ab」、中間が 0 個以上の「cd」、末尾が「e」である文字列が検索されます。

表 1. ワイルドカード文字 (続き)

文字	説明
\	ワイルドカード文字を通常の文字として扱うことができます。 たとえば、「what¥?」と指定すると、「what?」が検索されます。

詳細サブセットの定義の作成

指定した条件を満たすサブセットを定義できます。たとえば、「カナダ」および「アメリカ」で販売された「スポーツ用品」のみを含むサブセットを定義する場合があります。すべてサブセットと同様に、詳細サブセットの定義はレポートとともに保存されるため、キューブが変更されても再使用できます。

詳細サブセットの定義の作成では、使用するディメンションを最初に決定します。たとえば、サブセットの焦点を収益上位の営業所に当てる場合は、営業所が「場所」ディメンションに含まれているため、「場所」ディメンションを選択します。定義に国レベルまたは地域レベルも含める場合は、表示する複数のレベルを選択します。目的のレベルが主ドリルダウン・パスに含まれていない場合は、代替ドリルダウン・パスを選択する必要があります。

親カテゴリによる制限、「キューブから検索」の定義を使用した名前または説明による制限、あるいは値による制限を含めたり除外したりすることで、定義をさらに限定できます。サブセット定義には、これらの制限の 1 つまたはすべてを含めることができます。

たとえば、ユーザーがキャンプ用品を販売する会社で経理を担当し、毎月、会社の販売経路の 1 つに関する収益を示すレポートを提示する必要があります。「カナダ」および「アメリカ」で販売された、スポーツ関連製品のみを参照するため、これらのカテゴリのみを含む詳細サブセットの定義を作成します。

詳細サブセットのカテゴリをソートする場合、欠落値のあるカテゴリは、ソート順序に関係なくリストの最後に並べられます。

複数のディメンションからのレベルまたはカテゴリを含む詳細サブセットの定義は作成できません。一度に 1 タイプのオブジェクトに焦点を当てるため、詳細サブセットの定義は常にディメンションに固有です。別のディメンションのフィルターを適用し、返されるデータを制限することができます。たとえば、製品ディメンションにサブセット定義を作成し、フィルターを適用して欧米で販売された製品のデータのみが返されるようにすることができます。

選択した数値データに複数のレベルがある場合、数値データをディメンションに使用できます。数値データをディメンションとして使用して詳細サブセットを作成する場合、値による制限のある詳細サブセットの定義を作成できません。

後でキューブから削除されたレベルをサブセット定義に含めた場合は、結果が不正になる可能性があります。

手順

1. Reporter レポートで、「詳細サブセットの定義を作成します」ボタン  をクリックします。
2. 詳細サブセット設定を指定します。

代替ドリルダウン・パスがない場合は、選択できるのは「プライマリー」のみです。

複数のレベルを選択すると、サブセットはネスト・レベルとして表示されます。

「レベル」ボックスのレベルに含まれるカテゴリーの一部のリストを表示するには、レベルのラベルを右クリックし、「サンプル・カテゴリー」をクリックします。

3. 「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

親で制限した詳細サブセットの定義の作成

詳細サブセットの定義を親で制限すると、サブセットに特定のレベルを含めたり、除外したりできます。

カテゴリーは、詳細サブセットの定義の結果で返される制限すべてを満たす必要がありますが、同じ親を起点とする 2 つの制限を含めた場合は、これらの制限のいずれかを満たせばよいものとします。たとえば、「アメリカ」ディメンションの「カナダ」と「アメリカ」を含めると、カテゴリーが「カナダ」または「アメリカ」のいずれかに限定された結果になります。

サブセットにカテゴリーの大部分を含める場合は、不要な少数のカテゴリーを除外するだけで済みます。

たとえば、ユーザーが世界中にキャンプ用品を販売する会社の地域責任者で、毎年、「カナダ」と「アメリカ」の全販売員の過去 2 年間の収益を含むレポートを提示する必要がありますが、「アメリカ」カテゴリーには「カナダ」、「アメリカ」、および「メキシコ」がすべて含まれます。そのため、「カナダ」と「アメリカ」の最下位レベルの子のみを含み、「メキシコ」の最下位レベルの子は除外するように、親カテゴリーの制限が指定された詳細サブセットの定義を作成します。

手順

1. Reporter レポートで、「詳細サブセットの定義を作成します」ボタンをクリックします。
2. 名前、ディメンション、カテゴリーの設定を指定します。

代替ドリルダウン・パスがない場合は、選択できるのは「プライマリー」のみです。

複数のレベルを選択すると、サブセットはネスト・レベルとして表示されます。

「レベル」ボックスのレベルに含まれるカテゴリーの一部のリストを表示するには、レベルのラベルを右クリックし、「サンプル・カテゴリー」をクリックします。

3. 「親」タブで、使用する制限を含むドリルダウン・パスをクリックします。

主ドリルダウン・パスと代替ドリルダウン・パスのどちらからでも、制限を使用してサブセット定義を修飾できます。代替ドリルダウン・パスがない場合は、選択できるのは「プライマリー」のみです。

4. カテゴリーを「選択されている制限」ボックスに追加します。
 - 特定のカテゴリーを含めるには、そのカテゴリーを選択して「含める」をクリックします。
 - 特定のカテゴリーを除外するには、そのカテゴリーを選択して「除外する」をクリックします。
5. 「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

IBM Cognos PowerPlay によって、サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

名前または説明で制限した詳細サブセットの定義の作成 (検索)

詳細サブセットの定義を名前または説明で制限すると、特定のテキスト文字列を含むカテゴリーをサブセットに含めることができます。

たとえば、さまざまなキャンプ用品を販売する会社の営業担当であると仮定します。「GO」という単語を使用しているすべての製品系列を含むレポートを毎月提示する必要があります。この単語を含むすべての製品系列カテゴリーを返すサブセット定義を作成します。

手順

1. Reporter レポートで、「詳細サブセットの定義を作成します」ボタンをクリックします。
2. 名前、ディメンション、カテゴリーの設定を指定します。

代替ドリルダウン・パスがない場合は、選択できるのは「プライマリー」のみです。

複数のレベルを選択すると、サブセットはネスト・レベルとして表示されます。

「レベル」ボックスのレベルに含まれるカテゴリーの一部のリストを表示するには、レベルのラベルを右クリックし、「サンプル・カテゴリー」をクリックします。

3. 「検索」タブで「新規作成」をクリックします。

「検索定義の制限」ボックスには、「ディメンション」ボックスで選択したディメンションに設定済みの定義のみが表示されます。

4. 検索設定を指定します。
5. 「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

6. 「詳細サブセット」ダイアログ・ボックスで「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

値で制限した詳細サブセットの定義の作成

詳細サブセットの定義を値で制限すると、最大値または最小値、あるいはレベル内の特定の値より大きい、小さい、または 2 つの値の間にある値を表すカテゴリをサブセットに含めることができます。

たとえば、ユーザーがキャンプ用品を販売する会社で経理を担当し、毎月、会社の販売経路の 1 つに関して最も売れ行きの良い上位 10 製品を示すレポートを提示する必要があります。キャンプ用品の販売経路で販売された製品のみを参照する必要があります。これらのカテゴリのみを含む詳細サブセットの定義を作成します。

数値データをディメンションとして選択した場合は、値による制限のある詳細サブセットの定義を作成できません。

手順

1. Reporter レポートで、「詳細サブセットの定義を作成します」ボタンをクリックします。
2. 名前、ディメンション、カテゴリの設定を指定します。

代替ドリルダウン・パスがない場合は、選択できるのは「プライマリー」のみです。

複数のレベルを選択すると、サブセットはネスト・レベルとして表示されます。

「レベル」ボックスのレベルに含まれるカテゴリの一部のリストを表示するには、レベルのラベルを右クリックし、「サンプル・カテゴリ」をクリックします。

3. 「値」タブで「新規作成」をクリックします。

「値の制限」ボックスで、既存の値制限のサブセット定義を選択することもできます。

4. 使用する数値データを選択します。
5. 値の制限を指定します。

数値をパーセントで表示する場合は、値を入力するときに 10 進数形式を使用する必要があります。たとえば、詳細サブセットを 20 パーセントを超える利益率に制限する場合は、「.20」と入力します。

6. レポートのデフォルト・ディメンション以外のディメンションをカテゴリに指定するには、「ディメンションの設定に準拠する」ボックスからディメンションを選択し、「編集」をクリックします。カテゴリを選択し、「OK」をクリックします。

ディメンションのカテゴリを変更すると、その結果はサブセットにのみ適用され、レポートのディメンション・ライン設定には反映されません。変更できるデ

イメンションのカテゴリーは、設定されていないカテゴリーのみです。たとえば、前述の手順で選択したディメンションは、「ディメンションの設定に準拠する」ボックスでは使用できません。

7. 「値の制限」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
8. 「詳細サブセット」ダイアログ・ボックスで「サブセットの保存」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

サブセット・ビューアーにサブセット定義が表示されます。

サブセット定義を開く

サブセット定義の結果は、サブセットの表示で開いて参照できます。

手順

サブセットの表示で、サブセット定義の横にある「展開」ボタンをクリックします。

タスクの結果

サブセットに含まれる項目がサブセット定義名の下に表示されます。サブセット定義に結果のカテゴリーが取得されない場合は、展開ボタンが表示されなくなります。

サブセット定義の変更

サブセットの表示に表示されるサブセット定義を編集できます。レポートにすでに追加されているサブセット定義を編集すると、サブセットに含まれるカテゴリーが新しい定義の結果に合わせて更新されます。

手順

1. サブセットの表示で、変更するサブセット定義を右クリックし、「編集」をクリックします。
2. 定義を変更し、「OK」をクリックします。

タスクの結果

ヒント:サブセット定義の詳細を表示するには、サブセット定義を右クリックし、「説明」をクリックします。サブセット定義の名前を変更するには、サブセット定義を右クリックし、「名前変更」をクリックします。

サブセット定義の削除

不要になったサブセット定義は、サブセット定義のリストから削除できます。

手順

サブセットを右クリックし、「削除」をクリックします。

タスクの結果

レポートでサブセットが使用されている場合は、サブセットとの関連付けを解除するとき、レポートからカテゴリを削除するか、レポートにカテゴリを残しておくかを尋ねるプロンプトが IBM Cognos PowerPlay により表示されます。レポートにカテゴリを残しておくように選択する場合は、次にデータが更新されても、サブセットを使用して追加されたカテゴリは更新されません。

サブセットのハイライト

レポート中のサブセットに属するカテゴリを表示したい場合は、クロス集計に背景パターンを追加します。

「設定」でデフォルトの表示設定を変更し、すべてのレポートのサブセットを自動的に強調表示したり、サブセットの強調表示に使用するデフォルトのパターンを変更したりできます。

手順

1. クロス集計表示で、「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「全般」タブで「ハイライト・サブセット」をクリックします。
3. 背景パターンを変更するには、「サブセットのパターン」をクリックしてパターンを選択し、「OK」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

「表示」メニューの「ハイライト・サブセット」をクリックする方法でも、デフォルトのパターンを使用してサブセットを強調表示できます。

サブセット計算

サブセット計算を実行するには、1 つのサブセット全体を選択する必要があります。サブセット内の項目およびレポート内の他の項目に対して計算を実行しようとすると、サブセットが解除されるというメッセージが表示されます。

サブセットに対して次の非グループ計算を実行できます。

- 加算
- 乗算
- 最大値
- 最小値
- 平均
- 集計

サブセット計算は、常にレポート内のサブセットの直後に配置されます。サブセット計算は残りのサブセットではハイライトされませんが、サブセットが変更された場合は再計算されます。

サブセットに含まれる個々のカテゴリに対して計算を実行することもできますが、新規の計算はサブセットのメンバーにならず、サブセットが変更された場合に更新されません。

Reporter モードでは、ゼロ消去オプションが有効なときに、「サブセットの選択」メニューを使用して計算を作成しないでください。ゼロ消去が設定されていないサブセット計算をまず作成してから、ゼロ消去を適用します。

サブセットの解除と削除

サブセット・カテゴリを更新する必要がなくなった場合は、サブセットを解除できます。たとえば、四半期の終わりに提示するレポートを準備する場合、四半期が過ぎた後はそのレポートを更新する必要がありません。

ここに示す手順のほか、次のようなイベントによってもサブセットは解除されます。

- サブセットに含まれる個々のカテゴリが削除された場合
- サブセットに含まれる 2 つのカテゴリの間に、1 つ以上のカテゴリが追加された場合
- (ショート・バー・ドロップ・ゾーンを使用して) サブセットに含まれる 1 つのカテゴリにのみネスト・カテゴリを追加した場合
- サブセットに含まれるカテゴリをドリルダウンした場合
- レポートのランキングまたはソートを行った結果、サブセットに含まれるカテゴリの間にカテゴリが削除または挿入された場合

これらのいずれかの方法でサブセットを解除する場合は、サブセットを解除することを確認する警告が表示されます。サブセットが解除されるたびにこのメッセージを表示するか、メッセージをオフにするかを選択できます。

サブセットが解除されたレポートを保存すると、解除されたサブセットのリストが表示されます。サブセットが解除されたレポートを保存した場合、解除されたサブセットのカテゴリは更新されませんが、サブセット定義はサブセットの表示に残ります。

手順

以下のようにして、サブセットを解除するか、削除するかを選択します。

- サブセットを右クリックし、「サブセットの解除」をクリックします。
- サブセット内のカテゴリを右クリックし、「削除」、「サブセット」の順にクリックします。

第 3 章 デイメンション

IBM Cognos PowerPlay でデータ・ソースとして使用するキューブを作成する管理者は、ビジネスのさまざまな面をデイメンションに整理します。そしてデイメンション・ラインに、"日付"、"販売地域"、"製品"、"経路"など、各デイメンションのフォルダーが表示されます。

PowerPlay では、スライス & ダイスによってデイメンションを閲覧して、次の操作を実行できます。

- ドリルダウンとドリルアップ
- 情報のフィルター
- 情報の検索
- 行、列、またはレイヤーに表示された情報の変更

特別なレポート作成要件をサポートするために、Transformer のモデル作成者はシナリオ・デイメンションをキューブに追加できます。デイメンションの表示では、

シナリオ・デイメンションにシナリオ・デイメンション・アイコン  が表示されるため、他のデイメンションと区別できます。予算や予測の作成時や計画関連のアプリケーション用には、シナリオ・デイメンションがよく使用されます。標準デイメンションとは異なり、シナリオ・デイメンションは 1 つのルート・カテゴリーに自動集計しても役に立たないため、そのような集計は行われません。

既存のシナリオ・デイメンションの使用に関する詳細情報を入手したり、新しくシナリオ・デイメンションを追加するのが有効かどうかを判断したりする場合は、Transformer のモデル作成者に連絡してください。

ドリルダウン

親カテゴリーをドリルダウンすると、子カテゴリーを表示できます。Explorer レポートと Reporter レポートでは、ドリルダウンの結果が異なります。

Explorer モードでドリルダウンすると、ドリルダウン先のアイテムの子カテゴリーで親カテゴリーが置き換わります。たとえば、"販売地域"が集計レベルで、"アメリカ"が"販売地域"の子になっているレポートで作業しているとします。"アメリカ"でドリルダウンすると、その子カテゴリーである"アメリカ"、"カナダ"、"ブラジル"、"メキシコ"がレポートに表示されます。合計レベルは"販売地域"から"アメリカ"に置き換わります。関連付けられたデイメンション・ライン・フォルダーが開いて表示され、そのデイメンションの現在の合計レベルとして"アメリカ"と表示されます。

	Camping Equipment	Golf Equipment	Mountaineering Equipment	Outdoor Protection	Personal Accessories	Products
Brazil	44,907,532	20,133,231	11,326,238	2,109,669	12,227,087	90,703,757
Canada	104,282,760	46,591,976	26,866,811	4,991,536	29,112,973	211,846,056
Mexico	69,213,653	31,421,099	19,205,330	3,031,686	18,430,580	141,302,348
United States	263,517,399	119,745,943	65,742,200	12,872,751	72,579,518	534,457,811
Americas	481,921,344	217,892,249	123,140,579	23,005,642	132,350,158	978,309,972

図 8. ドリルダウンの結果が表示される Explorer レポート

Explorer レポートでドリルダウンするときには、次の点に注意してください。

- ネストされたレベルでドリルダウンする場合は、階層の一番下に達するまでレベルの数が維持されます。この時点で、再びドリルアップするまで、親レベルは一時的に削除されます。
- ランクや計算でドリルダウンできます。
- 「その他」の категорияは、ドリルダウンできません (80/20 消去)。
- 合計カテゴリーをダブルクリックすると、ドリルダウンするのではなく、上位レベルのカテゴリーへドリルアップします。

Reporter モードでドリルダウンすると、その子カテゴリーがレポートに追加されます。元の親カテゴリーはレポートに残ります。関連付けられたディメンション・フォルダーは開いて表示されず、ディメンションの最上位レベルがその名前として表示されます。次のレポートは、Reporter モードで"アメリカ"をドリルダウンしたときの結果を示しています。

	Camping Equipment	Golf Equipment	Mountaineering Equipment	Outdoor Protection	Personal Accessories	Products
Americas	481,921,344	217,892,249	123,140,579	23,005,642	132,350,158	978,309,972
Brazil	44,907,532	20,133,231	11,326,238	2,109,669	12,227,087	90,703,757
Canada	104,282,760	46,591,976	26,866,811	4,991,536	29,112,973	211,846,056
Mexico	69,213,653	31,421,099	19,205,330	3,031,686	18,430,580	141,302,348
United States	263,517,399	119,745,943	65,742,200	12,872,751	72,579,518	534,457,811
Asia Pacific	422,074,311	194,682,442	107,529,958	19,716,208	116,791,606	860,794,525
Central Europe	344,081,792	154,184,819	88,063,201	17,491,871	1,540,757,653	2,144,579,336
Northern Europe	181,045,498	84,701,953	46,095,152	8,346,107	49,869,275	370,057,985
Southern Europe	161,607,082	77,582,741	44,886,741	7,443,110	46,269,543	337,789,217
Sales regions	1,590,730,027	729,044,204	409,715,631	76,002,938	1,886,038,235	4,691,531,035

図 9. ドリルダウンの結果が表示される Reporter レポート

IBM Cognos Transformer のモデル作成者が代替ドリル・パスを設定している場合、Explorer レポートと Reporter レポートの両方で代替ドリル・パスを使用できます。代替パスは、同じディメンションにある別のパスで、同じカテゴリーに関連

しています。たとえば、"販売経路"ディメンションには、"販売経路の種類"による主要パスと"販売地域"による代替パスの 2 つのパスがあります。主要パスでドリルダウンすると、"販売経路の種類"から"顧客"にドリルダウンします。代替パスでドリルダウンすると、"販売地域"から"顧客"にドリルダウンします。

ディメンション・メニュー (ディメンション・ライン) には、代替パスと特殊カテゴリーが斜体で表示されます。代替パスと特殊カテゴリーは、ディメンションの表示に、分割した矢印  の付いたフォルダーとともに表示されます。

手順

ポインターがプラス記号  で表示される場所で、次のいずれかをダブルクリックします。

- 行、列、レイヤーのいずれかのみをドリルダウンする場合は、ラベル
- 行と列の両方をドリルダウンする場合は、値

ヒント:ディメンション内のレベルをドリルアップまたはドリルダウンするのに、ディメンション・ラインを使用することもできます。レポートに表示されているディメンションのディメンション・ライン・フォルダーをクリックし、カテゴリーをクリックします。

タスクの結果

すべてのディメンションをリセットするには、「閲覧」メニューの「ディメンションのリセット」をクリックします。 Explorer レポートでは、IBM Cognos PowerPlay によって、現在のカテゴリーのディメンション・ラインがトップレベルにリセットされ、フィルターが削除されます。 PowerPlay では、ネストされたカテゴリーは削除されません。 Reporter レポートでは、PowerPlay によって、現在のカテゴリーのディメンション・ラインがトップレベルにリセットされ、フィルターが削除されます。このレポートには、追加したカテゴリーもすべて含まれたままです。

ドリルアップ

ドリルダウンして表示した階層は、すべてドリルアップできます。たとえば、子カテゴリーである"アメリカ"から、その親である"販売地域"へドリルアップできます。ドリルアップによって、ディメンションのより広範な視点が提供されます。

Explorer レポートでは、合計カテゴリーでドリルアップできます。

Reporter レポートでは、列でドリルダウンすると、IBM Cognos PowerPlay によって、その子カテゴリーが右側に追加されます。再びその列をダブルクリックすると、ドリルアップされて子カテゴリーが消滅します。ただし、ドリルダウン後にその列を移動すると、ダブルクリックではドリルアップできなくなります。これは、行でのドリルダウンにも適用されます。

代替パスでドリルアップできます。右クリック・メニューを使用してドリルアップすると、ドリルダウンしたパスでドリルアップします。代替パスでドリルアップするには、矢印をクリックして代替親を選択します。

手順

ポインターが挿入記号または上向き矢印付きのプラス記号  に変わる場所で、カテゴリ、ラベル、または数値をダブルクリックします。

ラベルをダブルクリックすると、その行または列のみでドリルアップが実行されます。数値をダブルクリックすると、その行と列の両方でドリルアップが実行されます。

タスクの結果

レポートの最上位レベルに達すると、ポインターがプラス記号 (+) に変わります。

すべてのディメンションを最上位レベルにリセットするには、「閲覧」メニューの「ディメンションのリセット」をクリックします。Explorer レポートでは、PowerPlay によってディメンション・ラインがリセットされ、フィルターが削除され、レポートのカテゴリが現在のディメンションの最上位カテゴリに変更されます。PowerPlay では、ネストされたカテゴリは削除されません。Reporter レポートでは、PowerPlay によって、現在のカテゴリのディメンション・ラインがトップレベルにリセットされ、フィルターが削除されます。このレポートには、追加したカテゴリもすべて含まれたままです。

ネスト・カテゴリのドリルダウンとドリルアップ

通常のクロス集計のドリルダウンとドリルアップに適用されるのと同じ規則が、ネストされたクロス集計にも適用されます。ネストされた Explorer レポートに含まれるカテゴリをドリルダウンすると、ドリルしたカテゴリ・レベルが子カテゴリに置き換わります。ネストされた Reporter レポートに含まれるカテゴリをドリルダウンすると、そのカテゴリの子が新規カテゴリとして同じレベルに追加されます。

データのフィルター

データを素早く検索して、フィルターをかけるには、ディメンション・ラインを使用します。

ディメンション・フォルダーをクリックすると、ディメンション・メニューが表示されます。



図 10. ディメンション・メニュー

現在のフィルター・カテゴリは太字で表示され、親カテゴリおよび子カテゴリは水平線で区切られて表示されます。下向きの矢印は、現在のフィルター・カテゴリの親を示しています。ポインターを親カテゴリに移動すると、そのカテゴリの親族カテゴリが表示されます。ディメンションに 10 以上のカテゴリ・リストが含まれている場合は、ディメンション・メニューの最上部と最下部にスクロール・バーが表示されます。

レポートには含まれていない、キューブの一部であるカテゴリに、フィルターを実行できます。Explorer レポートでは、レポートに含まれているカテゴリに対してフィルターを実行した場合、その結果は、そのカテゴリでドリルダウンした場合と同じになります。

フィルターを実行すると、フィルターをかけたカテゴリを反映するようにディメンション・ラインが変更されます。

フィルターを実行すると、カテゴリに関する情報もフィルターされるため、行、列またはレイヤーすべてがゼロに変更されることがあります。このレポートのゼロを消去できます。

手順

1. フィルターをかけるディメンションのディメンション・フォルダーをクリックします。
2. フィルターをかけるカテゴリをクリックします。

タスクの結果

ヒント

- 選択したカテゴリの兄弟を表示するには、ポインターをディメンション・フォルダーに合わせます。
- 一度に複数のレベルにフィルターをかけるには、ディメンション・ラインではなくディメンションの表示を使用します。ディメンションの表示でカテゴリを選択するようにフィルターをかけるには、フィルターを実行するカテゴリを選択してから「フィルター」ボタンをクリックします。

フィルターの削除

レポートまたは 1 つのフィルターのみで、フィルターすべてを削除できます。フィルターを削除すると、ディメンション・ラインが変更されます。

手順

以下のようにして、フィルターの削除方法を選択します。

- すべてのフィルターを削除するには、「閲覧」メニューの「ディメンションのリセット」を選択します。
- 1 つのフィルターを変更するには、ディメンションの表示で、フィルター・カテゴリが属するディメンションの別のカテゴリを選択し、「フィルター」ボタンをクリックします。

たとえば、2008 年に関する情報のみを表示するようにフィルターをかける場合、2008 年は"日付"に属するため、"日付"ディメンションを選択します。

- あるレベルのフィルターを一度に削除するには、ディメンション・ラインで、フィルター・カテゴリーを含むディメンション・フォルダーをクリックし、現在のフィルター・カテゴリーのすぐ上のカテゴリーを選択します。

データの検索

レポートかレポートで使用されるキューブで、データを検索できます。

関連概念:

22 ページの『ワイルドカード』

「キューブから検索」サブセット定義で、またはデータ検索用に、ワイルドカードを使用することができます。

レポート内の検索

レポート内のデータを検索する場合、IBM Cognos PowerPlay では、レポート内に出現するラベルが検索されます。レポート作成者がキューブのラベル名を変更した場合は、元のラベルではなく、変更されたラベル名のみが検索対象になります。

手順

「編集」メニューの「検索」をクリックします。

キューブ内の検索

キューブでデータを検索するときには、「キューブから検索」サブセットとして検索結果を保存することもできます。検索結果をサブセットとして保存する場合は、「ディメンションの表示」ツールボックスを使用してサブセットを作成した場合と同様の結果になります。

手順

1. 「編集」メニューの「検索」をクリックします。
2. ディメンションや「キューブ」タブ上の名前設定を含む、検索設定を指定します。
3. 「すべて検索」をクリックします。
4. 「キューブから検索」サブセットの定義として結果を保存するには、「サブセットの保存」をクリックします。

新しいサブセットが、ディメンションの表示にあるサブセットの定義リストに表示されます。

5. 「閉じる」をクリックします。

第 4 章 数値データ

数値データは業績を評価するために使用します。数値データの例としては、次のようなものがあります。

- 出荷単位数、販売金額、支出、在庫レベル、割当量など、入手可能な情報の単純な集計
- 予測収益から実収益を差し引いた値などの算出値

数値データの順序は、IBM Cognos Transformer のモデル作成者がキューブを作成するときに定義します。PowerPlay では、数値データ・リストの最初にある数値データが新規レポートで使用されます。ディメンション・ラインやディメンションの表示から別の数値データを選択することもできます。

ほとんどの数値データはすべてのディメンションに適用されます。ただし、Transformer のモデル作成者がキューブを作成した方法によっては、レポート用に選択したカテゴリーに、一部の数値データが適用されない場合があります。たとえば、「収益」、「在庫」、および「従業員数」を含むキューブがあるとします。「収益」と「在庫」は全ディメンションに適用されますが、「従業員数」は「年度」と「場所」のみに適用されます。

数値データが適用されない場所に数値データを使用すると、レポートには「na」が表示されます。ゼロまたは定数の表示には、Transformer のモデル作成者がキューブを作成したときに数値データを割り当てた方法が反映されている場合があります。また、モデル作成者が欠落値をゼロで表示するように定義している場合もあります。

数値データの変更

デフォルトでは、数値データ・リストの最初にある数値データがレポートで使用されます。数値データを変更して、さまざまな数量値を使ってデータを比較できます。数値データをレポートに追加するには、カテゴリーを追加するために使用するのと同じ手法を使用します。

手順

ディメンション・ラインで、「数値データ」フォルダーをクリックして、リストから数値データを選択します。

複数の数値データの行、列、またはレイヤーによる表示

行、列、またはレイヤーとして、複数の数値データを表示できます。

たとえば次のレポートに示されているように、あるディメンションに対して複数の数値データを表示する必要がある場合には、レポート内で数値データをネストできます。

		2004	2005	2006	2007	Years
Camping Equipment	Product cost	215,826,298	254,861,935	311,436,026	220,319,251	1,002,443,510
	Quantity Sold	5895053	6903764	8399156	6103176	27301149
	Revenue	333,298,825	403,130,191	500,919,729	353,381,282	1,590,730,027
Golf Equipment	Product cost	82,785,669	89,185,347	114,448,867	88,270,146	374,690,029
	Quantity Sold	1092982	1297793	1536772	1186154	5113701
	Revenue	153,642,831	168,280,109	231,372,689	175,748,575	729,044,204

図 11. ネストされた数値データがあるレポート作成

手順

レポートの行、列、またはレイヤー領域に数値データを追加します。

- 1 つの数値データを追加する場合は、ディメンションの表示からレポートに数値データをドラッグします。
- すべての数値データを追加する場合は、ディメンション・ラインまたはディメンションの表示からレポートに数値データ・フォルダーをドラッグします。

Reporter レポートでは、"数値データ"フォルダーが、既存のカテゴリの横または下にあるレポートに追加されます。ドリルダウンすれば、すべての数値データが表示されます。

関連タスク:

6 ページの『ネスト・カテゴリのレポートへの追加』

レポートにネスト・カテゴリを追加すると、別のレベルにあるビジネスに関する情報を表示できます。

85 ページの『クロス集計のラベルと数値の書式設定』

クロス集計のラベルと数値の書式を設定すると、さらに理解しやすくなります。

数値データの書式変更

数値データの値を表示する書式を選択できます。

数値データのデフォルト形式は、「書式」の「設定」で指定できます。IBM Cognos Transformer のモデル作成者が値に対して特定の書式を指定している場合は、それが「設定」における設定よりも優先します。

手順

1. ディメンションの表示で、数値データを選択します。
2. 「数値データの書式化」ボタンをクリックします。
3. 「書式」タブで書式を選択して、「OK」をクリックします。

通貨値に関する作業

最もよく使用される数値データは、収益、製品コスト、総益などの通貨値です。IBM Cognos PowerPlay には、最適な方法で通貨値を表示するためのオプションが用意されています。次の操作を実行できます。

- 別の通貨への値変換

別の地域や国で使用されるレポートを作成するときには、レポート利用者に最適な通貨で表示されるように値を変換できます。

- 値の書式設定

異なる会計基準を使用するため、またはレポート利用者がデータを理解しやすくするために、値の書式を変更できます。たとえば、同じ通貨で表示されていない可能性があるさまざまなレポートのデータをレポート利用者が正確に比較できるように、通貨記号を表示できます。

ここでは、使用される通貨記号が PowerPlay でどのように決定されるのかを説明します。Transformer のモデル作成者が定義したキューブの設定と PowerPlay がインストールされているコンピューターの Microsoft Windows の「地域のオプション」に指定されている言語の両方が、デフォルトで表示される通貨記号に影響する場合があります。

1 つの国または地域に複数の通貨記号がある場合は、PowerPlay がインストールされているコンピューターの Microsoft Windows の「地域のオプション」に指定されている言語によって通貨記号が決まります。

ユーザーのシステムで指定された言語が、キューブで定義された国または地域と関連しない場合は、その国または地域が最初に出現したときの通貨記号が使用されます。

キューブに特定の通貨が定義されていない場合、PowerPlay レポートでデータの書式を貨幣として設定すると、Microsoft Windows の「地域のオプション」で定義されている通貨記号が使用されます。これは、実際はキューブの値が Windows の定義とは別の通貨に基づいている場合に誤解を招く結果となります。レポートに正しい通貨が表示されるようにするには、必要な通貨をキューブに定義するよう IBM Cognos Transformer のモデル作成者に依頼するか、各 PowerPlay ユーザーの「地域のオプション」の設定がキューブに保存されているデータと一致するようにします。

注:すべての数値データが通貨値を表すわけではありません。通貨値ではない数値データに対して、代替通貨を選択したり、通貨の書式を設定したりすることはできません。

始める前に

代替通貨は、Transformer のモデル作成者がキューブを作成するときに定義します。通貨を追加する必要がある場合は、Transformer のモデル作成者に連絡してください。

手順

1. 「閲覧」メニューの「通貨変換」をクリックします。
2. 「数値データ」ボックスで、変換する数値データを選択します。
3. 「通貨」ボックスで、代替通貨を選択します。
4. 「適用」をクリックします。
5. 通貨の書式を設定するには、「書式」ボタンをクリックします。
6. 「数字の形式」ダイアログ・ボックスで書式を選択し、「OK」をクリックします。

複数の数値データを選択した場合に、数値データによって使用されている通貨に違いがあると、書式設定が無効になります。

7. 「通貨変換」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

ヒント: 「数値データ」ボックスから数値データを選択して、「デフォルト」をクリックし、「適用」をクリックします。

第 5 章 ドリルスルー

IBM Cognos PowerPlay レポートから他のレポート、キューブ、作業中のファイルにドリルスルーできます。たとえば、1 つのキューブにアメリカにおける全製品の収益情報が含まれ、別のキューブにヨーロッパにおける全製品の収益情報が含まれているとします。ヨーロッパ営業所の製品責任者の場合、ヨーロッパのキューブを最も頻繁に使用します。時折、アメリカとヨーロッパの収益を比較する必要がある場合がありますが、このようなときは一方のキューブからもう一方のキューブへドリルスルーします。

PowerCubes へのドリルスルー・アクセスは、モデル作成者が IBM Cognos Transformer で設定します。ドリルスルー先の PowerPlay レポートやキューブなどのコンテンツもモデル作成者が特定します。

PowerPlay へのドリルスルー

別のキューブにある情報を閲覧する場合、異なるキューブを使用する別の Explorer レポートまたは Reporter レポートにドリルスルーするか、レポートで使用しているものとは異なるキューブにドリルスルーできます。

たとえば、キューブに全地域の販売集計情報が含まれていると仮定します。販売部門の副責任者として、そのキューブの高レベル情報を調査して分析します。他のキューブには各地域の詳細情報が含まれ、地域責任者が使用しています。販売部門の副責任者は販売集計情報からドリルスルーして、特定地域の詳細を閲覧し、たとえば新任の責任者が実績を上げているかどうかを確認することができます。

以下のような場合、別の IBM Cognos PowerPlay レポートへドリルスルーします。

- 他方のレポートに別のキューブのデータが含まれており、そのデータを分析し、開いているレポートのデータと比較する必要がある場合。
- 一方のレポートでデータを閲覧し、他方のレポートでその効果を確認できるように、現在の PowerPlay セッションで使用しているレポートをリンクする場合。

一方のレポートでディメンション・ラインを変更して、ドリルスルー・ボタンをクリックすると、ドリルスルー先のレポートでディメンション・ラインとデータが変わります。

- 他方のキューブのデータ構造を熟知していない場合。

管理者がすでにレポートを設定しているため、構造のわからないデータを直接扱う必要はありません。

- 管理者が計算を実行した場合。

次の場合、キューブへドリルスルーします。

- 管理者が設定した既定のデータ表示以外で、他方のキューブのデータを閲覧する場合。

- 管理者がキューブのみを設定して、ドリルスルーするレポートを設定していない場合。

PowerPlay にドリルスルーしてもドリルスルー先のキューブやレポートでディメンションにフィルターがかからない場合は、ドリルスルー先のレポートやキューブのディメンションが、ドリル元のレポートのディメンションと互換性がない可能性があります。ディメンションとカテゴリーの相違の詳細については、管理者に問い合わせてください。

レポートを開いた後に、同じレポートに別のレポートからドリルスルーすると、同じレポートのコピーが 2 つ開かれます。ただし、リンクは、ドリルスルーを実行したレポートのコピーのみに設定されます。

たとえば、レポート"Q4- 販売"とレポート"2007- 販売"を開いて、"2007- 販売"から"Q4- 販売"へドリルスルーすると、"Q4- 販売"レポートのコピーが 2 つ作成されますが、"2007- 販売"へのリンクが設定されるのは"2007- 販売"レポートからドリルスルーして開いたコピーのみです。"2007- 販売"でディメンション・ラインを変更して「ドリルスルー」ボタンをクリックすると、「共有ディメンション」をオンにしておかない限り、更新されるのはドリルスルー先の"Q4- 販売"のコピーのみです。

時系列にパーティション化されたキューブにドリルスルーするとき、このキューブに含まれているデータの分類方法が、このキューブを形成する各 PowerCube 間で異なっていると、データの表示が一貫しない場合があります。

たとえば、2008 年のサンフランシスコにおける上位 10 名の販売員に関するデータが含まれている、時系列にパーティション化されたキューブにドリルスルーするとします。サンフランシスコの販売員である Dave Mustaine は、2008 年の総売上が 60,000 ドルでした。地域のコンテキストを使用せずに Dave Mustaine に関してさらにドリルスルーすると、2008 年の総売上が 72,000 ドルと表示されますが、これは最初にレポートされた総売上とは異なります。Dave Mustaine は、2008 年に 2 カ月間デンバーの販売所で働いていましたが、最初に表示されたのはサンフランシスコにおける売上のみで、デンバーでの 12,000 ドルの売上は含まれていませんでした。サンフランシスコまたはデンバーというコンテキストを使用せずに Dave Mustaine についてドリルスルーすると、2008 年の両地域におけるデータが返されます。

手順

1. 数値データに関連付けられたレポートやキューブにドリルスルーするには、共通する数値データがレポートに表示されていることを確認します。

行、列、レイヤーのいずれかとして数値データを追加する場合、ドリルスルーに使用する数値データを含むコンテキストを選択する必要があります。交差するカテゴリーの名前が、PowerPlay ウィンドウの左下に表示されて、現在のコンテキストが示されます。選択されたコンテキストで共通の数値データが使用されていない場合、数値データ・フォルダーに表示されている数値データが PowerPlay で使用されます。

2. ドリルスルーを開始するセルまたはカテゴリー・ラベルを選択します。

PowerPlay では、選択したセルまたはラベルが、ドリルスルー先のレポートまたはキューブの基準として使用されます。たとえば、レポートで行に

"2006"、"2007"、"2008"が表示されており、選択したセルが"2008"の場合は、"2008"のデータを表示するようにドリルスルー・レポートにフィルターがかけられます。

3. 「閲覧」メニューの「ドリルスルー」をクリックします。
4. 「ドリルスルー」ダイアログ・ボックスが表示された場合は、表示するドリルスルー・ターゲットをダブルクリックします。

必要なレポートやキューブが「ドリルスルー」ダイアログ・ボックスに表示されない場合は、共通の数値データがレポートに表示されていることを確認します。共通の数値データがレポートにある場合は、ドリルスルー・ターゲットの名前または場所が変更されている可能性があります。管理者に連絡してドリルスルーの問題を解決してください。場合によって、「設定」の「クエリー」タブで、デフォルトのレポートの場所を変更する必要があります。

タスクの結果

レポートを選択した場合、最初のレポートのコンテキストとディメンション・ラインにできるだけ一致するようにフィルターがかけられたターゲット・レポートが開きます。キューブを選択した場合、最初のレポートのコンテキストとディメンション・ラインにできるだけ一致するようにフィルターがかけられた新しい Explorer レポートが作成されます。いずれの場合も、一致するカテゴリがない場合には、最初の 2 つのディメンションにあるカテゴリがターゲット・レポートに表示され、キューブの最初の数値データが使用されます。

異なるレポートやキューブにドリルスルーした後、元のレポートに戻って変更を加え、ドリルスルー・ボタンをクリックしてターゲット・レポートを更新できます。元のレポートから別のターゲットへドリルスルーするには、「閲覧」メニューの「ドリルスルー」オプションを使用して、別のターゲットを選択します。

第 6 章 レポートでのデータのランク付けとソート

ランク付けをするとカテゴリーを比較しやすくなります。指定した行または列の値でカテゴリーをランク付けできます。たとえば、すべての製品の収益を表したレポートの場合、このレポートでランク付けを行うと、IBM Cognos PowerPlay によって、各製品の収益の順位を示すランク・カテゴリーが追加されます。

カテゴリーを昇順または降順にソートします。たとえば、すべての販売員をリスト表示するレポートの場合、このレポートをソートして、販売員の名前を五十音順に表示します。

データのランク付け

レポートの行または列内のカテゴリーをランク付けできます。レポートの行や列をランク付けすると、行または列の各値に序数が割り当てられ、他の行や列との関連で業績を評価できます。

ランキング序数が新しい行または列に表示されます。Explorer レポートでは、ランク・カテゴリーと値が斜体で表示されます。Reporter レポートに切り替えると、斜体の書式設定が削除されます。

カテゴリーの最高値または最低値のうち、どちらのランク付け序数を 1 にするか、および表示する上位または下位のランク付け結果の件数を選択できます。ランク・カテゴリーのソートや非表示も可能です。デフォルトでは、ランク・カテゴリーは散布グラフでは非表示です。

デフォルトのランク付け設定は、「設定」で変更できます。

デフォルトでは、レポートのデータが変更されると、ランク・カテゴリーが自動的に再生成されます。ランク付けの定義で「自動再ランキング」の設定をオフにした場合は、レポートの変更後にいつでも手動で再ランキングを実行できます。大きなデータ・ソースを使用している場合は、手動の再ランキングを使用すると、レポートが変更されるたびにランキングが更新されることがなくなり、時間節約できます。

ランキングに関する次の制約が、レポートに当てはまる場合があります。

- カテゴリーを非表示にした場合、カテゴリーがランク付けされない
- カテゴリーをネストした場合、ランク付けされたカテゴリーがグラフ表示で表示されない
- 80/20 消去を使用している場合、「その他」カテゴリーにはランク付けできない
- Explorer レポートでは合計値にランク付け序数を割り当てることはできない

デフォルト設定を使用したカテゴリーのランク付け

「設定」でのランクの設定によって、「ランク」ボタンを使用した場合にカテゴリーをランク付けする方法が決まります。

手順

1. ランク付けの基準にする行または列を 1 つ選択し、「ランク」ボタン  をクリックします。
2. レポート内のカテゴリが変更された場合は、ランク・カテゴリを右クリックし、「再ランキング」をクリックします。

カスタム設定を使用したカテゴリのランク付け

デフォルト設定を使用する代わりに、カスタム・ランク設定を指定できます。

手順

1. 「閲覧」メニューの「ランク」をクリックします。
2. ランキング設定を指定します。
3. 「自動再ランキング」を選択すると、レポートが変更されたときにランキングが自動更新されます。「自動再ランキング」を選択していない場合、レポート内のランキングをアップデートするには、ランキング・カテゴリを右クリックし、「再ランキング」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

ランキングの非表示または削除

ランク・カテゴリは、非表示にしたり、レポートから削除したりすることができます。

手順

以下のようにして、ランク・カテゴリを一時的に非表示にするか、永久的にレポートから削除するかを選択します。

- ランキングを非表示にするには、ランキング列またはランキング行を右クリックし、「非表示」をクリックします。

IBM Cognos PowerPlay で、ランキング列またはランキング行が非表示になります。非表示のカテゴリを表示するには、「書式」メニューの「再表示」をクリックします。

- ランキングを削除するには、ランク・カテゴリのラベルを右クリックし、「ランクの削除」をクリックします。

同一値のランク付け

値が同じカテゴリは、同じランク付け序数になります。たとえば、2 つのカテゴリの値が同じで、値のランク付けグループ内で 2 番目に高い場合は、両方のカテゴリの序数が 2 になります。この場合、3 番目に高い値の序数は 4 になります。

ネスト・データのランク付け

ネストされたレポートの最下位レベルのカテゴリをランク付けできます。ランク・カテゴリが表示される行または列に、下位レベルのネスト・カテゴリを追加すると、ランク・カテゴリは削除されます。

たとえば、次のレポートの列は、ネストされた"キャンプ用品"カテゴリに基づいてランク付けされています。

		2004	2005	2006	2007
Products	Camping Equipment	333,298,825	403,130,191	500,919,729	353,381,282
	Rank (Camping Equipment)	4	2	1	3
	Golf Equipment	153,642,831	168,280,109	231,372,689	175,748,575
	Mountaineering Equipment	0	107,140,704	161,046,514	141,528,413

図 12. ネストされたカテゴリに基づいてランク付けされる列があるレポート

Reporter レポートでの手動による再ランク付け

手動による再ランク付けを使用すれば、大規模なデータ・セットを操作するときのパフォーマンスが上がるだけでなく、レポート内のカテゴリを変更しても、元のランク付け順序を維持することができます。このようにすれば、別のレベルの値がランク付けに含まれることがなくなります。

たとえば、次の Reporter レポートで、「ランク」ダイアログ・ボックスの「自動再ランキング」オプションをオフにして、「日付」をランク付けしたとします。「キャンプ用品」でドリルダウンすると、子はランク付けに含まれません。ランク付けを追加するときに「自動再ランキング」オプションをオフにしていないと、製品カテゴリと同じレベルで子もランク付けされるため、データが正確に反映されなくなります。

	2006	2007	Years	Rank (Years)
Camping Equipment	500,919,729	353,381,282	1,590,730,027	2
Cooking Gear	83,918,812	58,317,366	272,983,428	na
Lanterns	40,438,446	28,043,199	126,938,954	na
Packs	111,130,289	83,219,058	352,187,273	na
Sleeping Bags	98,320,445	68,868,594	309,493,951	na
Tents	167,111,737	114,933,065	529,126,421	na
Golf Equipment	231,372,689	175,748,575	729,044,204	3
Mountaineering Equipment	161,046,514	141,528,413	409,715,631	4
Outdoor Protection	10,359,215	4,473,391	76,002,938	5
Personal Accessories	594,234,053	443,812,970	1,886,038,235	1

図 13. ランキングでドリルダウンした結果が表示されるレポート

データのソート

データのソートによって、行や列を昇順または降順にソートすることができます。次の操作ができます。

- 行、列、またはレイヤーを五十音順に並べ替える
- 行または列を番号順に並べ替える

ネストされたカテゴリーがレポートに含まれている場合、値でソートすることはできません。たとえば次のレポートでは、ネスト・カテゴリーである"小売業者"は五十音順でソートされています。このレポートで、行を値でソートすることはできません。

		2006	2007	Years
Camping Equipment	Department Store	117,101,542	66,277,440	376,807,581
	Direct Marketing	18,269,410	9,356,595	62,782,920
	Equipment Rental Store	6,626,775	7,376,995	28,409,222
	Eyewear Store	0	305,117	305,117
	Golf Shop	25,671	0	25,671
	Outdoors Shop	154,219,314	124,868,213	465,900,219
	Sports Store	141,939,418	110,610,447	435,884,621
	Warehouse Store	62,737,599	34,586,475	220,614,676
	Retailers	500,919,729	353,381,282	1,590,730,027

図 14. アルファベット順にソートしたレポート

デフォルトでは、レポートのデータが変更されると、ソート対象のカテゴリーが自動的に再生成されます。ソートの定義で自動ソートの設定をオフにした場合、レポートの変更後にいつでも手動で再ソートを実行できます。大きなデータ・ソースを使用している場合は、手動のソートを使用すると、レポートが変更されるたびにソートが更新されることがなくなり、時間を節約できます。

非表示のカテゴリーはソートされません。

デフォルト設定を使用したソート

「設定」のソートの設定によって、「ソート」ボタンを使用した場合にカテゴリーをソートする方法が決まります。

手順

1. ソートを実行する行または列を 1 つ選択し、ツールバーの「ソート」ボタン  をクリックします。
2. レポート内のカテゴリーが変更された場合は、「閲覧」メニューの「ソートをやり直す」をクリックします。

カスタム設定を使用したソート

デフォルト設定を使用する代わりに、カスタム・ソート設定を指定できます。

手順

1. 「閲覧」メニューの「ソート」をクリックします。
2. ソート設定を指定します。「自動再ソート」を選択しない場合、レポートの変更後に再ソートするには、「閲覧」メニューで「再ソート」をクリックします。

- 3.
4. 「OK」をクリックします。

第 7 章 ハイライトの設定

さらなる調査が必要な情報を識別できるようにするため、2 種類の例外ハイライトを使用することができます。

- 自動ハイライトでは、Explorer レポートで極端に高い値や低い値を素早く確認できる。
- ユーザー設定ハイライトでは、特定の範囲のデータを確認できる。レポートに適用する 1 つ以上のユーザー設定ハイライト定義を作成したり、他に配布することができます。また、ユーザー設定ハイライト定義の設定は、マクロでも行えます。

ハイライトを設定するマクロの作成については、IBM Cognos PowerPlay「マクロ参照ガイド」を参照してください。

自動ハイライト

例外は、Explorer レポートで自動的にハイライトできます。この機能を有効にすると、極端に低い値が赤の太字で表示され、極端に高い値は緑の太字で表示されます。反転表示された値は、さらに詳細な検討を行うための出発点として使用できます。

自動ハイライトの優先度は調整できます。優先度を高くすると、より多くのデータがハイライトされます。自動ハイライトで高い値と低い値に適用されるスタイルも変更できます。

「オプション」の設定を使用して、自動ハイライトのデフォルトの優先度を変更できます。

Reporter レポートでは、自動ハイライトは使用できません。

自動ハイライトを頻繁に使用する場合は、ツールバーに「自動ハイライト」ボタンを追加すると便利です。

関連概念:

97 ページの『ツールバーおよびボタンのカスタマイズ』
ツールバーの表示、非表示、作成、削除、および変更ができます。たとえば、使用するボタンのみを含むツールバーを作成できます。

自動ハイライトの適用

「設定」、「オプション」の自動ハイライト設定によって、例外データを識別するためのデフォルトの優先度が決まります。

手順

Explorer レポートで、「閲覧」メニューから「自動ハイライト」、「反転表示」の順にクリックします。

アクティブ・レポートの自動ハイライトの優先度の変更

アクティブ・レポートのデフォルトのハイライトの優先度は、上書きすることができます。

手順

1. Explorer レポートで、「閲覧」メニューから「自動ハイライト」、「優先度の設定」の順にクリックします。
2. コントロール・バーをドラッグして、どの程度の例外値を IBM Cognos PowerPlay のハイライト表示対象とするかを指定します。
3. 「OK」をクリックします。

自動ハイライトのスタイルの変更

自動ハイライトのデフォルトのスタイルは、変更することができます。スタイルに対する変更は、すべてのレポートに影響します。

手順

1. 「書式」メニューから「スタイル」をクリックします。
2. 「自動ハイライトの優先度高」または「自動ハイライトの優先度低」を選択します。
3. 「変更」をクリックして、スタイル定義を変更します。
4. 「OK」をクリックします。

ユーザー設定ハイライト定義

ユーザー設定ハイライト定義では、指定した値範囲内のデータがハイライトされます。ユーザー設定定義を作成した後、例外データをハイライトするには、これを適用する必要があります。ユーザー設定ハイライト定義が使用されているレポートでは、キューブ更新後にレポートを開くとハイライト表示が更新されます。

ユーザー設定ハイライト定義を保存して、他のレポートまたはユーザーと共有できます。

共有のユーザー設定ハイライト定義を作成した場合、ハイライト定義は "Ppexcept.ini" ファイルに、スタイルは "Ppstyles.ini" ファイルに保存されます。これらのファイルは "<インストール場所>/configuration/powerplay" フォルダーに保存されます。

ユーザー設定ハイライト定義の作成

1 つのユーザー設定ハイライト定義に、最高 5 つの値の範囲を定義できます。また範囲別に書式スタイルを関連付けることができます。IBM Cognos PowerPlay では、定義した範囲に収まるすべてのデータに、対応する書式スタイルが適用されます。

手順

1. 「閲覧」メニューの「ユーザー設定ハイライト」をクリックします。

2. カスタム例外設定を指定します。既存のカスタム例外定義を変更するには、「例外名」ボックスにあるカスタム例外定義を選択して、変更を行い、「追加」ボタンをクリックします。
3. 他のレポートで使用したり他のユーザーと共有するために、カスタム例外定義を保存するには、「共有」チェック・ボックスをオンにします。
4. 「追加」ボタンをクリックし、「閉じる」をクリックします。

ユーザー設定ハイライト定義の削除

ユーザー設定ハイライト定義は、削除することができます。

手順

1. レポートを選択します。
2. 「閲覧」メニューの「ユーザー設定ハイライト」をクリックします。
3. 「ハイライト定義名」ボックスで、ユーザー設定ハイライト定義を選択します。
4. 「削除」、「はい」の順にクリックします。
5. 「閉じる」をクリックします。

ユーザー設定ハイライト定義の適用

ユーザー設定ハイライト定義を適用して、次の項目を強調表示できます。

- レポートの例外値

IBM Cognos PowerPlay により、レポートの各値と、ユーザー設定ハイライト定義内の値の範囲が比較されます。レポートの値が範囲内であれば、強調表示されます。

- 例外値がある行や列全体

ドライブ・カテゴリーの値と、ユーザー設定ハイライト定義内の値の範囲が比較されます。ドライブ・カテゴリーの値が範囲内であれば、その値がある行全体または列全体が強調表示されます。

Reporter レポートで、Explorer レポートでは適用されないカテゴリーに基づいてユーザー設定ハイライト定義を作成した場合、そのカテゴリーは、Explorer レポートのユーザー設定ハイライト定義には表示されません。たとえば、「すべての年」に基づいてユーザー設定ハイライト定義してから Explorer レポートに切り替えると、この「すべての年」親カテゴリーは Explorer レポートのユーザー設定ハイライト定義には存在しません。

- 選択した行や列の値のみ

選択した行や列の値と、ユーザー設定ハイライト定義内の値の範囲が比較されます。選択した行や列の値が範囲内であれば、強調表示されます。

たとえば、行に製品、列に月名を指定した収益レポートを作成します。損失がどの製品でどの月に発生したかがわかるように、負の値は赤で強調表示します。3月は、バックパックの販売には重要な月であるため、3月の列をドライブ・カテゴリーとして選択します。3月の製品に損失が発生すると、製品の行全体が赤で表示されます。

ユーザー設定ハイライト定義を適用した後にデータをドリルダウンすると、指定範囲内のデータがドリルダウン時やドリルアップ時に強調表示されます。

レポート全体、すべての行、またはすべての列にユーザー設定ハイライトを適用した場合、キューブの更新で追加された新しいデータがすべて強調表示されます。これは、データが更新されたときに、キューブに追加されたサブセットや新しいカテゴリーを識別するために特に役立ちます。

ユーザー設定ハイライト定義は、使用している数値データに基づいています。ユーザー設定ハイライト設定を適用した後で数値データを変更すると、設定したユーザー設定ハイライトは表示されなくなります。ただし、ユーザー設定ハイライト定義で使用していた数値データに戻すと、ユーザー設定ハイライト設定が再表示されます。

適用できるユーザー設定ハイライト定義は、一度に 1 つのみです。レポートに最後に適用されたものが、アクティブなユーザー設定ハイライト定義となります。

始める前に

ユーザー設定ハイライト定義を適用するには、ユーザー設定ハイライト定義を作成しておく必要があります。

手順

1. ユーザー設定ハイライト定義を適用するレポート、行、列、またはレポートの情報を選択します。

行と列の両方を選択するには、値をクリックします。行または列を選択するには、ラベルをクリックします。

2. 「閲覧」メニューの「ユーザー設定ハイライト」をクリックします。
3. 「ハイライト定義名」ボックスで、ユーザー設定ハイライト定義を選択します。
4. 定義の適用先を選択します。
 - レポートの値すべてに定義を適用するには、「すべて」をクリックします。
 - 行や列に定義を適用するには、「すべての行」または「すべての列」をクリックします。

「すべての行」または「すべての列」を選択した場合は、「カテゴリーの選択」ボックスでドライブ・カテゴリーを選択します。行にユーザー設定ハイライト定義を適用すると、ドライブ・カテゴリーは列になり、列に適用するとドライブ・カテゴリーは行になります。

- 選択した情報にのみ定義を適用するには、「選択」をクリックします。
5. 「適用」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

タスクの結果

ユーザー設定ハイライト定義の条件を満たすデータが強調表示されます。強調表示されたデータがない場合、指定した条件を満たすデータがないということです。

データからのユーザー設定ハイライト定義の削除

カスタム例外定義に関連したデータのハイライトは、定義を削除しなくても削除することができます。

手順

1. 「閲覧」メニューの「ユーザー設定ハイライト」をクリックします。
2. 「ハイライト定義名」ボックスで、ユーザー設定ハイライト定義を選択します。
3. 「クリア」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

共有ユーザー設定ハイライト定義

すべての IBM Cognos PowerPlay ユーザーが同じ方法で例外をハイライトするために、ユーザー設定ハイライト定義を他のユーザーに配布できます。

たとえば"Year End"というユーザー設定ハイライト定義を作成します。これは、損失を赤で、利益を緑で表示します。上司があなたに、このユーザー設定ハイライト定義を部門の全メンバーと共有するように指示したとします。ユーザー設定ハイライト定義を"Ppexcept.ini"ファイルに、スタイルを"Ppstyles.ini"ファイルに保存します。他のメンバーは、あなたの作成したファイルのコピーを使用できます。または、保持したいスタイルと例外をすでに作成している場合には、必要なラインをこのファイルから切り取って自分の作成したファイルに貼り付けることができます。

ユーザー設定ハイライト定義の配布

IBM Cognos PowerPlay により、ユーザー設定ハイライト定義の情報が Ppexcept.ini ファイルと Ppstyles.ini ファイルに追加されます。ユーザー設定ハイライト定義を配布するには、これらのファイルを他のユーザーと共有します。

手順

1. 必要に応じて、新しいユーザー設定ハイライト定義を作成します。

ユーザー設定ハイライト定義を作成する場合は、「共有」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。

2. コンピューターで"Ppexcept.ini"ファイルと"Ppstyles.ini"ファイルを探します。
3. このファイルを他のユーザーに送信するか、共有のネットワーク上の場所に置きます。

タスクの結果

Ppexcept.ini ファイルと Ppstyles.ini ファイルを配布した後で新しい共有ユーザー設定ハイライト定義を作成する場合は、ユーザーに更新済みのファイルのコピーを送信する必要があります。

共有ユーザー設定ハイライト定義の使用

共有ユーザー設定ハイライト定義が含まれているファイルを受信する際に、すべての共有定義を使用するか、特定の共有定義のみを使用するかを選択できます。

手順

次のいずれかの方法で、共有ユーザー設定ハイライト定義を使用します。

- 使用しているユーザー設定ハイライト定義を削除して共有ファイル内の全定義を使用する場合は、使用している "Ppexcept.ini" ファイルと "Ppstyles.ini" ファイルを共有ファイルに置き換える
- 共有ファイルの一部の定義を使用している "Ppexcept.ini" ファイルおよび "Ppstyles.ini" ファイルに追加する場合は、共有 .ini ファイルの定義およびスタイル情報を使用している .ini ファイルにコピーする

次に、"ppexcept.ini" ファイルのユーザー設定ハイライト定義の例を示します。

```
Exception3=Year End, 0, 3, 0, 0,\,
Exception3Range1=Bad News,0.,Minimum
Exception3Range2=Good News,Maximum,20000.
Exception3Range3=,0.,0.
Exception3Range4=,0.,0.
Exception3Range5=,0.,0.
```

次に、"ppstyles.ini" ファイルのスタイル定義の例を示します。

```
[Style -Good News]
numformat=9,0
numformattext=$1,000,000
font=Arial, 700, 1, 10, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 128,
0
pattern=0, 0, 0, 0, 255, 255, 255
alignment=0, 1, 2
```

タスクの結果

共有のユーザー設定ハイライト定義が、新規レポートや既存レポートで使用できるようになりました。

第 8 章 計算

IBM Cognos PowerPlay には、データ分析を支援する基本的な計算オプションと高度な計算オプションが用意されています。行や列の平均値算出などの基本的な計算のほか、流動比率や債務比率などの標準的な財務比率を求める計算式を作成できます。状況によっては、あらかじめ定義されている予測方法を使用することで、さらに有益性の高いデータ分析を実施できます。

IBM Cognos Transformer のモデル作成者がキューブに算出カテゴリーを追加しておく、さまざまなレポートに共通する計算をレポート作成者が何度も作成する必要がなくなります。算出カテゴリーは、電卓のアイコン  とともにディメンション・ビューアーに表示されます。

Explorer レポートと Reporter レポートでは、計算について次のような違いがあります。

- Explorer レポートでは、最小、最大、および平均を除くすべての計算を実行できる。
- Reporter レポートでは、予測を除くすべての計算を実行できる。
- Reporter では、多くのカテゴリーに同じ計算を繰り返すグループ計算を実行できる。
- Reporter では、計算の優先順位を指定できる。
- Explorer では、計算の位置は、オペランドに基づいて自動的に決定される。計算の場所を変更することはできません。
- Reporter では、計算は、ポインター位置の後に挿入される。計算の一部を構成するカテゴリーは、その計算に関係なく削除したり移動できます。
- Explorer では、計算のラベルと値が斜体で表示される。Reporter レポートに切り替えると、斜体の書式設定が削除されます。
- Explorer で最下位レベルまでドリルダウンすると、1 つのカテゴリーが表示される。このカテゴリーでは、計算を実行できません。

「その他」カテゴリー (80/20 消去) の計算は、Explorer と Reporter のいずれのレポートでも実行できません。

計算を使用する際の値の指定について、次のサイズ制限があります。

- 最大 1.7976931348623158e+308
- 最小 2.2250738585072014e-308

レポートに計算を追加した後、ラベルと値に書式を設定できます。たとえば、デフォルトのラベルを変更できます。

計算に関する情報表示

レポート内の計算を構成しているカテゴリーや式を表示できます。

手順

計算上の任意のセルを右クリックし、「説明」をクリックします。

伸び率の計算

伸び率とは、2つのカテゴリまたは数値データ間の割合の変化です。

手順

1. 伸び率を求める2つの行または列を選択します。
2. 「計算」メニューの「成長率」をクリックします。
3. 「計算順」ボックスで、計算の順序を選択します。
4. 「ラベル」ボックスにカテゴリの名前を入力して、「OK」をクリックします。

合計に対する割合の計算

値を合計に対する割合に変換して、損益計算書およびその他の財務計算書を分析できます。

ランク・カテゴリでは割合計算を実行できません。

手順

1. レポートに合計がない場合は、合計するカテゴリを選択します。「計算」メニューの「加算」をクリックします。
2. 合計に対する割合に変換するカテゴリを選択します。

ヒント:親カテゴリに対する割合を示す子カテゴリを追加するには、Reporter モードで、「ディメンションの表示」ツールボックスにある「割合」ボタンをクリックします。

3. 「計算」メニューの「基底値に対するパーセント」をクリックします。
4. 「基準値の選択」ボックスで、割合の基準にする合計を選択します。

レポートの行を選択した場合は、ボックスにすべての列がリスト表示されます。列を選択した場合は、すべての行が表示されます。

5. 「ラベル」ボックスに、カテゴリの名前を入力します。
6. 「OK」をクリックします。

平均の計算

平均を計算して、将来または現在のイベントの計画に役立てることができます。

たとえば、年の第1四半期におけるある製品ラインの平均収益を計算して、同年の第2四半期の平均収益と比較できます。

手順

1. Reporter レポートで、1つ以上のカテゴリを選択します。
2. 「計算」メニューの「平均」をクリックします。

3. 次のいずれかを実行します。
 - 「ラベル」ボックスに、カテゴリーの名前を入力します。
 - 一度に同じタイプの計算を複数実行する場合は、「グループ」チェック・ボックスをオンにして、「オペランド」ボックスでカテゴリーを選択します。

複数の計算を実行できるのは、2 つ以上のカテゴリーを選択した場合に限ります。
4. 「OK」をクリックします。

累計の計算

累計を示す列または行をレポートに含めることができます。累計は、数値またはパーセント値として表示できます。Reporter レポートでは、複数のカテゴリーに対する累計を計算できます。

たとえば、過去 4 四半期それぞれの収益を示すレポートを作成した場合、累計には、各四半期末までの収益合計が表示されます。売上合計に対する割合として累計を追加する場合は、四半期末までに達成された通年の売上に対する割合が表示されます。

基底値に対する累積パーセントを作成した後は、基底値にしたカテゴリーをレポートから削除できます。

Explorer モードでは、数値または基底値に対する累積パーセントとして累計を実行する対象として、1 つのカテゴリーのみ選択できます。

ランク・カテゴリーでは、基底値に対する累積パーセントを実行できません。

注:Reporter モードでは、選択したカテゴリー内に既存の計算がある場合、その計算値が累計に含まれます。

累計を数値として計算する

累計は、数値として表示することができます。

手順

1. 1 つ以上のカテゴリーを選択します。
2. 「計算」メニューの「累積」をクリックします。

累計を割合の値として計算する

累計は、割合の値として表示することができます。

手順

1. 1 つ以上のカテゴリーを選択します。
2. 「計算」メニューの「基底値に対する累積パーセント」をクリックします。
3. 「基準値の選択」ボックスで、割合の基準にする合計を選択します。

レポートの行を選択した場合は、ボックスにすべての列がリスト表示されます。列を選択し場合は、すべての行が表示されます。

- 「ラベル」ボックスにカテゴリーの名前を入力して、「OK」をクリックします。

集計計算

計算を自動集計すると、同じディメンションのカテゴリー・グループを簡単に解析できます。集計関数を適用するには、選択したカテゴリーで使用される数値データに対して定義した、集計関数 (追加、最小、最大、加重平均のいずれか) を使用した新しい計算を作成します。

たとえば、「コース・プロ」の製品ラインには、「ゴルフ用品」の複数のカテゴリーからの製品が含まれています。「コース・プロ」の製品のみを含むレポートを作成して、四半期ごとの全体的な収益率を見るために集計計算を追加します。

	2006 Q 1	2006 Q 2	2006 Q 3	2006 Q 4	2006
Course Pro Umbrella	49.0%	51.9%	51.9%	51.9%	51.2%
Course Pro Golf Bag	63.5%	61.7%	61.7%	61.7%	62.4%
Course Pro Gloves	75.8%	75.8%	63.1%	61.5%	67.3%
Course Pro Golf and Tee Set	70.6%	73.0%	73.0%	73.1%	72.4%
Course Pro Putter	61.1%	61.1%	61.1%	49.4%	58.1%
Profit Margin - Course Pro Line	62.2%	62.3%	61.4%	55.9%	60.4%

図 15. ロールアップ計算のあるレポート

集計計算に組み込んだカテゴリーを選択してドリルダウンまたはドリルアップすると、再計算が行われます。

サブセットに対しても集計計算ができます。

手順

- 集計計算に含めるカテゴリーの設定を選択します。

カテゴリーは、同じディメンション、同じ表示タイプ (つまり、全行、全列、全レイヤー) から選択する必要があります。

選択したカテゴリーに複数の数値データが含まれている場合、集計計算では、最初の数値データに定義した関数が使用されます。

- 「計算」メニューの「自動集計」をクリックします。
- 「ラベル」ボックスにカテゴリーの名前を入力して、「OK」をクリックします。

ネスト・カテゴリーで実行する計算

ネスト・カテゴリーで計算を実行すると、新規の計算は最後に選択したカテゴリーと同じレベルに追加されます。レポート内の別のレベルに計算を移動すると、元の場所とは異なる結果になります。算出カテゴリーを別の場所に移動しても、ネスト・カテゴリーの計算結果が期待どおりになるようにするためには、親カテゴリーを計算に含めます。

たとえば、次のレポートでは、"アウトドア用保護用品"の下に別の製品グループがネストされています。このレポートには、収益の実績と販売目標も示されています。収益の差異を示す計算を作成するには、"アウトドア用保護用品"を選択してから、"収益"と"販売目標"を選択します。この順番でカテゴリーを選択することにより、"アウトドア用保護用品"の製品に計算対象を限定できます。計算は、親である"アウトドア用保護用品"と同じレベルに表示されます。

	Outdoor Protection					Outdoor Protection Actual-Planned Variance
	First Aid	Insect Repellents	Sunscreen	Revenue	Sales target	
Americas	3,756,822	11,561,860	7,686,960	23,005,642	\$20,523,496	2,482,146
Asia Pacific	3,261,394	9,760,454	6,694,360	19,716,208	\$17,665,229	2,050,979
Central Europe	2,784,797	7,821,325	6,885,749	17,491,871	\$15,607,724	1,884,147
Northern Europ	1,403,139	4,055,210	2,887,758	8,346,107	\$7,443,928	902,179
Southern Europ	1,222,290	3,626,303	2,594,517	7,443,110	\$6,639,377	803,733
Sales regions	12,428,442	36,825,152	26,749,344	76,002,938	\$67,879,753	8,123,185

図 16. 実績と予定の計算のあるレポート

ショート・バー・ドロップ・ゾーンを使用して追加されたネスト・カテゴリーで計算を実行する場合は、次の 2 つの規則に従う必要があります。従わない場合、正しい結果が得られないことがあります。

- 計算に使用するカテゴリーの親を選択する必要があります。2 つの異なる親にネストされているカテゴリーを使用する場合は、両方の親を選択します。
- 最後に選択したカテゴリーが親カテゴリーの場合は、計算は親と同じレベルに表示されます。また、最後に選択したカテゴリーが子カテゴリーの場合は、計算は子の横にネストされて表示されます。

カテゴリー追加時の計算

Reporter レポートでは、一定の計算を一定のデータに対して行うことがわかっている場合、レポートにカテゴリーを追加するときに IBM Cognos PowerPlay で計算を生成できます。計算は、PowerPlay によって新しいカテゴリーとして追加されます。

次の要素を表示できます。

- 選択した各カテゴリーと計算

- 選択したカテゴリーの合計値
- 選択したカテゴリーの平均値
- 親カテゴリーに対する選択したカテゴリーの割合

手順

1. Reporter レポートを開きます。
2. デイメンションの表示で、複数のカテゴリーを選択します。
3. 「デイメンションの表示」ツールボックスで、次のいずれかの手順を実行します。
 - 計算のほか、選択したカテゴリーを個々に表示するには、「個別値」をクリックします。
 - 選択したカテゴリーの合計を新しいカテゴリーとして表示するには、「合計」をクリックします。
 - 選択したカテゴリーの平均値を新しいカテゴリーとして表示するには、「平均値」をクリックします。
 - 選択したカテゴリーをその親カテゴリーの割合として表示するには、「パーセント」ボタンをクリックします。
4. 「行に追加」、「列に追加」または「レイヤーとして追加」ツールボックス・ボタンをクリックして、カテゴリーをレポートに追加します。

算出カテゴリーのレポートへの追加

IBM Cognos Transformer のモデル作成者によって、キューブに計算があらかじめ追加されている場合があります。これらの式は、デイメンション・ビューアーにカテゴリーとして表示され、「計算」アイコン  で表されます。

たとえば、2008 年の現在の四半期と 2007 年の同じ四半期の収益の伸びを製品別に確認できます。"四半期間累計 (QTD)"列と、"製品"行を含む Explorer レポートを作成します。"QTD の伸び"は、"Great Outdoors"キューブに組み込まれた算出カテゴリーです。"QTD の伸び"は、「表示」メニューの「算出カテゴリー」コマンドを選択するとレポートに表示されます。

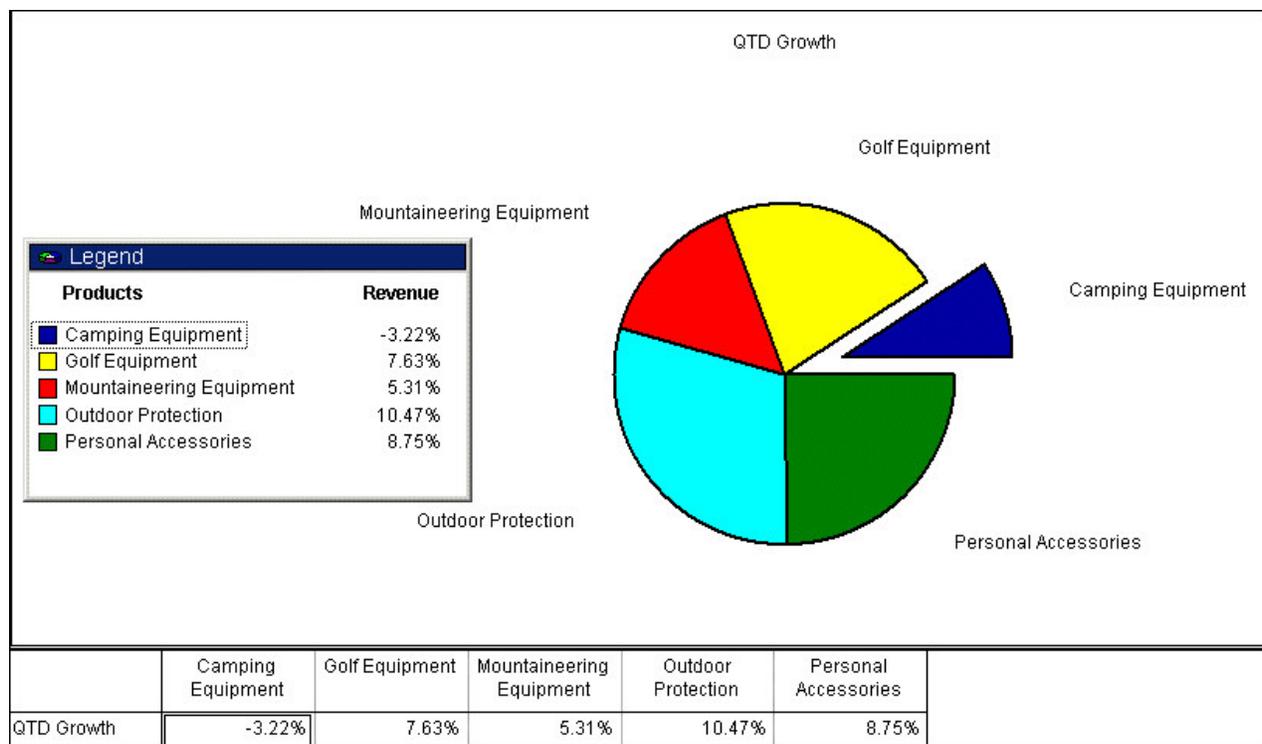


図 17. 成長計算のあるレポート

始める前に

算出カテゴリーは、Explorer レポートや Reporter レポートに追加できます。

手順

1. ディメンションの表示で、算出カテゴリーを選択します。

算出カテゴリーがディメンションの表示に表示されない場合は、「表示」メニューの「算出カテゴリー」をクリックします。算出カテゴリーを再び非表示にするには、同じ操作を繰り返します。Explorer レポートの算出カテゴリーはレポートから削除されます。

2. 次のいずれかを実行します。

- Reporter レポートで、「行に追加」、「列に追加」、または「レイヤーとして追加」をクリックします。
- Explorer レポートで、「行の置換」、「列の置換」、または「レイヤーの置換」をクリックします。行のみ、または列のみの算出カテゴリーが必要な場合は、表示しない算出カテゴリーを非表示にします。「書式」メニューから「非表示」をクリックします。

グループ計算の実行

Reporter レポートでは、多くのカテゴリーに同じ計算を繰り返すグループ計算を実行できます。グループ計算では、加算、減算、乗算、除算、割合、最大値または最小値、平均、およびべき乗の演算を使用できます。

たとえば、各製品ラインの次年度の予測売上増を 10% として計算するとします。各製品ラインで個々に計算を実行する代わりにすべての製品ラインを選択し、乗算の計算を作成するときにグループのオプションを使用します。グループ計算によって、各製品ラインのレポートに売上予測カテゴリーが追加されます。

サブセットに対してもグループ計算を実行できます。

手順

1. Reporter レポートで、計算に組み込むカテゴリーを選択します。
2. 「計算」メニューから、演算を選択します。
3. 「グループ」チェック・ボックスをオンにします。
4. 必要に応じて、次のいずれかの操作を実行します。
 - 「計算順」ボックスで、計算の順序を選択します。
 - 「数値」ボックスに、グループ計算に使用する値を入力します。
 - 「カテゴリー」ボックスに、グループ計算に使用するカテゴリーを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

計算の優先順位の設定

レポートの行や列の計算が交差する場合、IBM Cognos PowerPlay では、次の順序で計算されます。

- ビジネス関数 (累積、基底値に対するパーセント、基底値に対する累積パーセント)
- 基本関数 (パーセント、平均、最大、最小)
- 除算または乗算
- 加算または減算

2 つの計算の優先順位が同じ場合 (たとえば、両方ともビジネス関数の場合)、行計算が優先します。乗算の前に加算を実行するなど、計算の優先順位を上書きできます。

手順

1. Reporter レポートで、優先順位を設定する計算を選択して右クリックします。
2. 「優先順位の上書き」をクリックします。

別の計算と交差するビジネス関数をクリックすると、「優先順位の上書き」コマンドが無効になります。ビジネス関数は他の計算すべてに優先します。

予測方法

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

予測を作成するには、クロス集計の行または列として期間を含める必要があります。

クロス集計に含まれているランキングを予測に含めることはできません。

クロス集計で通貨を変換している場合、IBM Cognos PowerPlay では、変換後の通貨値に基づいて予測が作成されます。

クロス集計で時間の複数のレベルをネストしている場合、PowerPlay では、最上位レベルの時期のみに関する予測が生成されます。

たとえばこのレポートでは、収益に対して年の子として四半期をネストしています。「計算」メニューの「予測」を選択すると、PowerPlay では年レベルのみの予測が生成されます。

2006	2006 Q 1	73,137,515	61,938,537	151,885,213	29,335,621
	2006 Q 2	83,008,019	75,719,322	175,171,864	29,548,595
	2006 Q 3	79,688,200	71,971,412	168,108,489	29,501,722
	2006 Q 4	76,731,992	66,689,729	180,878,941	28,993,739
	2006	312,565,726	276,319,000	676,044,507	117,379,677
2007	2007 Q 1	99,905,945	87,805,374	208,340,686	39,385,355
	2007 Q 2	98,949,474	86,535,911	218,348,814	38,894,044
	2007 Q 3	35,145,156	30,823,987	73,510,608	13,825,597
	2007 Q 4	0	0	0	0
	2007	234,000,575	205,165,272	500,200,108	92,104,996
Forecast 2008		298,297,965	264,016,302	627,995,834	119,033,266
Years		978,309,972	860,794,525	2,144,579,336	370,057,985

図 18. 予測計算のあるレポート

四半期レベルの予測を生成するには、予測を生成する前に年レベルを削除します。

使用条件

予測関数で使用できる予測方法は、基になるデータ・ソースから取得される過去の情報の統計的な分析に基づいています。予測値の精度は、さまざまな変数の影響を受けます。このような変数には、基になる過去のデータの精度や、外部イベントの精度などが含まれます。また外部イベントは、基になる過去のデータを予測で使用する際の妥当性に影響を与えます。予測関数は、予測対象となる数値データの将来値を算出するためにのみ使用することを前提としており、複雑な財務またはビジネスの方向性を決定する場合の基礎として使用することは前提としていません。

IBM では、実際に算出される将来値の精度、および特定の結果についていかなる保証も行いません。予測関数とそれによって生成されたデータは、ユーザーの責任で使用してください。予測関数にエラーが含まれていたり、予測関数で不正確な計算が行われる可能性もあります。予測関数およびそのドキュメントは「現状のまま」の状態を条件に提供されます。予測関数の使用およびそれに基づくデータ結果の解釈が原因となって、直接的、間接的、偶発的、懲罰的、結果的に生じたあらゆる損害に対して、いかなる場合においても IBM は一切法的責任を負いません。

趨勢法 (線形または直線)

趨勢予測は、線形の回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。趨勢予測は、ビジネスの推進要因が線形で数値データに影響を与える場合に、予測の信頼性が最も高くなります。たとえば、過去の収益が一定の割合で増加または減少している場合、その効果は線形です。

信頼性が高い予測をするためには、過去のデータの複線グラフが線形であるか線形に近い必要があります。例えば、過去の 4 四半期の収益に基づいて、将来の 2 四半期の収益を予測する場合、過去の四半期ごとの複線グラフが線形であるか線形に近いときは、趨勢法の予測が最も信頼性の高い結果となります。

趨勢予測法は、過去のデータで 2 つのデータ値のみが 2 つの間を表す場合に使用します。

成長法 (曲線形または曲線)

成長予測は、指数回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。成長予測法の信頼性が最も高くなるのは、ビジネスの推進要因によって、数値データが指数関数的に影響を受ける場合です。たとえば、過去の収益が、しだいに高い割合で増加または減少している場合、その効果は幾何級数的です。

精度の高い予測をするためには、過去のデータの複線グラフが幾何級数的であることが必要です。たとえば、売れ筋製品の投入に伴って収益が急激に増加している場合は、趨勢法よりも成長予測のほうが信頼性の高い結果となります。同様に、販売員をさらに 2 名雇用する場合、収益増が最も見込める製品ラインを成長予測を使用して判断すると、新しい販売員を効率的に配置することができます。

自己回帰法 (季節性)

自己回帰予測方法は、自己相関に基づいて時系列予測を行う方法です。自己回帰予測は、過去のデータに含まれている線形、非線形、および季節上の変動を検出し、これらの傾向を将来の傾向に反映させます。自己回帰は、季節的な変動がビジネスの推進要因に影響を与える場合に、予測の信頼性が最も高くなります。

時間と収益の複線グラフは、季節的な変化を反映して上下に変動する場合があります。たとえば、売れ筋商品の投入に伴って収益が急激に増加している一方で、商品の売上が季節に依存する場合は、成長法よりも自己回帰予測のほうが信頼性の高い結果となります。

自己回帰法は、過去のデータが多数の区分に分かれた期間 (たとえば、24 カ月を超える月次期間) を表している場合に、その間に季節的な変動が発生する可能性があるときに使用します。

予測の作成

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

時間ディメンションが行または列のいずれかに表示されている必要があります。

始める前に

予測計算を作成するには、Explorer モードを使用する必要があります。

手順

1. 「計算」メニューの「予測」をクリックします。
2. 必要な予測方法を選択します。
3. 「予測を行う期間を入力してください」ボックスに、予測する期間の数を入力します。

予測する期間の数が、ユーザーのデータの期間数を超えることはできません。

4. 「OK」をクリックします。

財務比率

流動比率、債務比率、利潤率などの財務比率を計算すれば、会社の経営状況を知ることができます。たとえば、各製品の原価、平均在庫、および在庫の流動性を示すレポートを作成するとします。

次の表に、一般的な財務比率と対応する式を示します。各計算に含めることができるオペランドは 1 つのみであるため、一部の財務比率の算出には計算が 2 つ必要になります。

表 2. 財務比率

比率タイプ	比率
流動性	流動比率 流動資産/流動負債 平均回収期間 ((売掛金 * 年間日数)/年間信用売り) 売掛金回転率 (正味売上/平均売掛金) 在庫流動比率 (売上原価/平均在庫)
負債	負債/資本 (負債合計/自己資本)

表 2. 財務比率 (続き)

比率タイプ	比率
収益性	<p>売上総利益率 ((売上 - 売上原価)/売上)</p> <p>売上純利益率 (純利益/売上)</p> <p>税引き前利益率 (税引き前利益/売上)</p> <p>株主資本利益率 ((正味利益 - 優先配当)/平均普通株主資本合計)</p> <p>1 株あたりの収益 ((純益 - 優先配当)/普通株式発行高)</p>
その他	<p>従業員 1 人あたりの平均収益 (総売上/合計従業員数)</p> <p>営業部員 1 人あたりの平均収益 (総売上/営業部員数)</p> <p>営業部員 1 人あたりの平均利益 (利益/営業部員数)</p>

第 9 章 グラフ表示

グラフで表示することにより、比較、関係、傾向を示すことができるようになります。また、数量が強調され明確になります。適切な表示を選択するには、まずレポートの目的を決め、その目的に応じた表示を選択します。たとえば、複線グラフを使用すると、傾向を示すことができます。

一部の表示タイプでは、各行のデータが個別に表示されます。レポート・ウィンドウの下部のボックスに現在の行の名前が表示されます。レポートの行が複数ある場合は、別の行を選択するためのオプションもこのボックスに表示されます。ボックスをクリックすると、使用可能な行のリストが表示されます。



図 19. 行インディケータ

変数の比較、分散の表示、またはパフォーマンスの追跡

棒グラフや積み上げ棒グラフ、または 3-D 棒グラフでは、変数の比較、分散の表示、およびパフォーマンスの追跡ができます。

次のような方法があります。

- 棒グラフで、所定の期間内の変化を表示する。これにより、一定期間における複数の変数を比較したり対比できます。
- 積み上げ棒グラフで、各部が全体に占める割合を示し、一定の期間における変化を比較する。
- 3-D 棒グラフで、複数の変数間の関係を表示し、他の方法では解釈が困難な大量の情報を分析する。

手順

「閲覧」メニューの「表示の変更」をクリックし、「棒グラフ」、「積み上げグラフ」、「3次元棒グラフ」のいずれかのボタンをクリックします。

2 つの数値データの比較

2 つの数値データの比較には、相関グラフや散布グラフを使用できます。少なくとも 2 つの数値データがキューブ内に存在する必要があります。IBM Cognos PowerPlay のデフォルトでは、キューブの最初の 2 つの数値データが表示に使用されます。比較する数値データは変更できます。次のような方法があります。

- 相関グラフにより、キューブの最初の数値データを棒グラフで、2 番目の数値データを単線グラフで表示する

- 散布グラフにより、最初の数値データを Y 軸に、2 番目の数値データを X 軸に表示する

数値データは、必ずしもクロス集計のネストした数値データに対応している必要はありません。相関グラフと散布グラフの数値データを変更すると、クロス集計レポートの数値データも変更されます。

複数の数値データを比較するために、数値データをクロス集計レポートにネスト・カテゴリーとして追加することもできます。

使用するキューブに数値データが 1 つしか含まれない場合、相関グラフと散布グラフの表示ボタンは使用できません。これらの表示では、キューブに数値データが少なくとも 2 つ必要です。

手順

1. 「閲覧」メニューの「表示の変更」をクリックし、「相関グラフ」または「散布グラフ」をクリックします。

レポート・ウィンドウの一番下に「グラフ」ボックスが表示されます。「グラフ」ボックスには、表示に使用できる行すべての名前が表示されます。このボックスから、検討対象にする行を選択します。

2. 「数値データ」ディメンション・メニューから比較する数値データを選択します。相関グラフと散布グラフの表示では 2 つの数値データが使用されるため、2 つの数値データ・フォルダーが使用可能になります。

円グラフやクラスター棒グラフの複合表示

円グラフやクラスター棒グラフ表示は、カテゴリー間の相対関係を表示するのに便利です。

次のように使用できます。

- 円グラフを使用して、全体とそれぞれの値の関係を示す。割合は、グラフの各スライスの大きさに比例変換されます。
- クラスター棒グラフを使用して、関連する情報のグループを表示する。グループは、一定の期間内で比較されます。

2 つの円グラフに異なる情報を組み合わせて表示するには、2 つのレポートを作成し、レポート・ウィンドウを並べて表示します。異なる情報の組み合わせを表示する 2 つの円グラフを、同じレポートに組み込むことはできません。

手順

1. 「閲覧」メニューから「表示の変更」をクリックします。
2. 「円グラフ」または「クラスター棒グラフ」をクリックします。

表示による傾向の確認

線グラフや積み上げ棒グラフは、データの傾向を表示するのに便利です。

次のように使用できます。

- グラフで、一定の期間における 1 つの変数の実績を示す
- 時系列分析用の複線グラフで、傾向と周期の比や、変数間の関係を推測する
- 積み上げ棒グラフで、各部が全体に占める割合を示し、一定の期間における変化を比較する

手順

「閲覧」メニューの「表示の変更」をクリックし、「単線グラフ」、「複線グラフ」、「積み上げグラフ」のいずれかをクリックします。

異なるグラフを同時に表示する

複数のグラフを同時に表示すれば、同じレポートの情報をさまざまな視点から検討できます。

1 つのグラフでカテゴリーを選択すると、そのカテゴリーは、他のグラフでも選択されます。たとえば、クロス合計集計グラフでカテゴリーを選択すると、他のグラフでその効果を確認できます。

1 つのグラフで情報を下位レベルにドリルダウンすると、他のグラフにも同じレベルの情報が表示されます。

たとえば、販売された製品を相互比較し、前年比も確認するには、2008 年の販売実績を円グラフで比較し、2008 年と 2007 年の収益をクラスター棒グラフで比較します。

サイズ変更、移動、並べて表示を使用して、複数の表示を配置できます。

手順

「挿入」メニューから「表示」をクリックし、追加する表示をクリックします。

タスクの結果

レポート・ウィンドウに表示が追加されます。

ヒント:別の表示を素早く追加するには、Ctrl キーを押しながらその表示のツールバー・ボタンをクリックします。たとえば、円グラフを追加するには、Ctrl キーを押しながら「円グラフ」ボタンをクリックします。

複線グラフとクロス集計表示を含むレポートでは、複線グラフで時間的な変化傾向を追跡しながら、クロス集計で合計列を確認できます。両方の表示を表示して、複線グラフをクリックします。「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。「表示」タブの「合計列の表示」チェック・ボックスをオフにし、「OK」をクリックします。

表示を削除するには、表示を右クリックし、「表示の削除」をクリックします。

1 つの表示に複数のグラフを表示する

Explorer レポートでは、ネストしたデータを一連の独立したグラフで表示できます。または、ネストされたグラフに切り替えて、ネスト・データを 1 つのグラフで表示することもできます。

ネストされたグラフは、合計行に基づいたグラフです。数値データが行の最下位レベルのカテゴリにある場合、垂直棒グラフ、単線グラフ、または相関グラフでネストされたグラフを選択すると、最初の数値データの結果が表示されます。行の凡例には、数値データ・ラベルすべてが表示されます。

水平棒グラフや散布グラフはネストできません。

手順

1. Explorer レポートで、グラフ表示を選択します。
2. 「閲覧」メニューから「ネストされたグラフ」をクリックします。

タスクの結果

レポート・ウィンドウに複数のグラフが表示されます。

大量データの表示

処理するデータが大量にある場合、データすべてを 1 つのグラフ表示で表すのは困難です。列が多すぎると画面の整理がつかなくなり、正確な解釈がしにくくなります。この問題を解決するため、8 列以上含まれる場合は、デフォルトでスクロール・バーが表示されます。このデフォルト値は、いつでも変更できます。

例えば、製品ラインのすべてのテントを含む IBM Cognos PowerPlay レポートを棒グラフで作成するとします。複数のテントがあるため、画面が雑然とします。各ページに表示される列数を調整すると、データが見やすくなります。

また、ネストされたクロス集計の合計カテゴリーを表示するかどうかを定義することも可能です。

円グラフ表示、3D 棒グラフ表示、散布グラフ表示には、スクロール・バーを追加できません。

手順

1. 変更するグラフ表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックし、「スクロール」タブをクリックします。
3. 「スクロール・オプション」ボックスで、「スクロール・バー使用」チェック・ボックスをオンにします。

ヒント:すべてのデータを 1 つに表示する必要がある場合は、「スクロール・バー使用」チェック・ボックスをオフにします。PowerPlay のグラフ棒の最大数 (500 行または 500 列) に達した場合は、データが切り捨てられることを警告するエラー・メッセージが表示されます。

4. 「表示する列の最大数」ボックスで、表示する列数を指定します。

- 1 ページの表示に、5～52 の列を表示することができます。
5. 「印刷する列の最大数」ボックスで、印刷する列数を指定します。
6. 「OK」をクリックします。

グラフでの値の表示

棒グラフやクラスター棒グラフの棒に重ねて、または棒の上や棒グラフのマーカー上に値を表示できます。また、相関グラフの棒に重ねて、または棒の上や円グラフのスライスの横に値を表示できます。

新規レポートのデフォルト表示値オプションは、「設定」の「表示」オプションで変更できます。

関連タスク:

95 ページの『設定』

すべての新規レポートの設定をカスタマイズするための設定オプションが多数用意されています。たとえば、レポートとキューブ用に使用するデフォルト・ディレクトリを指定できます。

棒グラフまたはクラスター棒グラフでの値の表示

棒グラフやクラスター棒グラフに値を表示できます。

手順

1. 棒グラフまたはクラスター棒グラフを表示します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
3. 「表示」タブにある「数値データの表示」ボックスの「表示」チェック・ボックスをオンにします。
4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

棒グラフの棒にゼロと表示される場合は、グリッドのスケールが正確であることを確認します。たとえば、レポートの最大値が 37,000,000 のときに、最大値を主軸で 1,000,000,000 に設定すると、全体のスケールに対して実際の値が非常に小さくなるため、棒がゼロのように表示されます。

単線グラフでの値の表示

単線グラフに値を表示できます。

手順

1. 単線グラフ表示をします。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
3. 「表示」タブにある「マーカー範囲外の値の処理」ボックスの「表示」チェック・ボックスをオンにします。
4. 「OK」をクリックします。

グラフ表示への統計線の追加

最大 3 つの統計線をグラフ表示に追加できます。統計線では、最大値、最小値、平均値、標準偏差、対数回帰、線形回帰などの値を表示できます。また、表示にはユーザー定義の統計線も追加できます。

たとえば回帰線は、1 本の曲線を、対数関係にあるデータ・セットに関連付けるのに便利です。行の数値がすべて負である場合は、対数回帰線は表示されません。

線形回帰線を選択すると、IBM Cognos PowerPlay では最小二乗法で計算された直線が表示されます。使用される方程式は、 $y = mx + b$ (m = 傾き、 b は y 軸の切片 (x が 0 の場合の y の数値)) です。

対数回帰線を選択すると、PowerPlay では最小二乗法で計算された対数曲線が表示されます。使用される方程式は、 $y = a \cdot \ln(x) + b$ (この場合、 a と b は定数、 \ln は自然対数関数) です。

統計線を表示に追加すると、選択した 1 行に対応する統計線が表示されます。

円グラフ表示、3-D 棒グラフ表示、積み上げ棒グラフ表示には、統計線を追加できません。

手順

1. 統計線を追加するグラフ表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックし、「統計情報」タブをクリックします。
3. 「ライン」ボックスで、表示する線を選択します。
4. 「設定」ボックスで、追加する線の書式を変更します。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

ヒント:特定の行の統計線を表示するには、凡例でその行を選択します。

グラフ表示の書式設定

表示の書式を設定すると、表示の外観が改善され、読みやすくなります。

たとえば、次の処理を実行できます。

- パターンと色の変更
- 角度と回転の変更
- グリッド線の表示/非表示
- 軸の調整

色とパターンの設定変更

グラフ表示の場合は、パレット設定を変更して、表示に使用される色やパターンの順序を指定できます。パレット設定を使用すれば、すべてのグラフ表示に使用される色やパターンの順序を確実に同じにできます。たとえば、棒グラフの最初の棒は青、2 番目は赤、3 番目は黄などのように、パレット設定の色の順序に従って表示

されます。このように同じパターンになるようにしておけば、さまざまな表示方法で同じデータを比較するときに便利です。それぞれの表示で色が同じであれば、同じカテゴリーを表しています。

パレットの設定では、色とパターンも関連付けられます。色をパターンとして表示するように選択すると、関連付けられたパターンでそれぞれの色が置き換わります。この機能は、カラー・プリンターを使用できないときに便利です。設定を変更すれば、パターンを別の色に関連付けることができます。

すべてのレポートの色とパターンの設定を変更するには、設定にあるパレット設定を変更します。

手順

1. 「書式」メニューから「パレット」をクリックします。
2. 色やパターンの順序を変更したり、色を別のパターンに関連付けたりするには、色やパターンを新しい場所にドラッグします。
3. 色をカスタマイズするには、色を選択して、「カスタム色の作成」をクリックします。
4. 色の代わりにパターンを使用して表示するには、「パターン表示」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

新しい設定が現在のレポートに適用されます。

背景の表示への適用

表示に背景を適用する場合、次のものを使用できます。

- 会社ロゴのような画像
- 色とパターン
- ブレンド・オプション (色のグラデーションによる背景)

現在の表示に背景が適用されます。表示形式を変更すると適用されません。

レポート全体に背景を適用することもできます。

始める前に

円グラフやクロス集計表示には、背景を適用できません。

手順

1. 表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
3. 「背景」タブをクリックします。
4. 背景設定を指定します。背景で使用する画像の場所とファイル名には、円記号とアンダースコアも含めて 126 文字までの制限があります。
5. 「OK」をクリックします。

表示の配置

同時に複数のグラフを表示する場合は、表示位置を調整できます。デフォルトでは、表示は最適になるように並べて表示されます。

別個のレポートを並べて表示する場合は、「ウィンドウ」メニューの「上下に並べて表示」または「左右に並べて表示」をクリックします。

クロス集計表示がレポートに 1 つしかない場合、クロス集計は常に最下部に表示されます。

手順

1. 「表示」メニューの「ページ幅」または「ページ・レイアウト」をクリックします。
2. 表示を並べ替えて、必要な配置にします。
 - 同一レポートに表示を配置するには、「書式」メニューの「表示整列」をクリックしてオプションを選択します。
 - 表示を移動するには、移動する表示をクリックして選択し、ハッシュ・マークの境界線をつかみます。

表示角度の変更

表示角度は変更できます。たとえば、棒グラフの角度を変更して、水平軸ではなく、縦軸に棒を表示できます。

「設定」の表示オプションを使用して、新規グラフ表示のデフォルト角度を設定できます。

円グラフ表示の角度の変更

円グラフ表示の角度は変更できます。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「表示」タブで「表示」チェック・ボックスをオンにします。
3. 「角度」ボックスで傾斜角度を入力します。
4. 「太さ」ボックスから円グラフの太さを選択し、「OK」をクリックします。

垂直レイアウトから水平レイアウトへの棒グラフの変更

棒グラフの方向は変更できます。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「表示」タブをクリックします。
3. 「水平方向」チェック・ボックスをオンにします。

影の角度と太さも変更できます。

4. 「OK」をクリックします。

表示の回転

円グラフ表示と 3D グラフ表示は回転できます。このオプションは、特定のデータを強調する場合や、多くのカテゴリーがあるグラフ表示の外観を良くするのに便利です。

「設定」の「表示」オプションを使用して、新規の円グラフや 3-D 棒グラフの回転のデフォルトを設定できます。

円グラフ表示の回転

円グラフ表示は回転できます。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「時計回り」チェック・ボックスをオンにします。
3. 「角度」ボックスで、円グラフの最初のスライスが始まる角度を入力し、「OK」をクリックします。

3-D 棒グラフ表示の回転

3-D 棒グラフ表示は回転できます。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「表示」タブをクリックします。
3. 「3-D ビュー・ツール」をクリックします。
4. 表示が目的の角度になるまで「3-D ビュー・ツール」ボックスの矢印をクリックし、「閉じる」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

表示のマーカーの変更

グラフ表示形式の一部で使用されているマーカーのサイズと形を変更できます。

単線グラフ、複線グラフ、相関グラフでは、マーカーはオプションです。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 「表示」タブにある「マーカー」ボックスの「表示」チェック・ボックスをオンにします。
3. マーカーとして使用する形を選択します。
4. マーカーのサイズを設定するには、「サイズ」ボックスに数値を入力します。
5. 「OK」をクリックします。

円グラフの外観の変更

円グラフの表示設定では、いくつかの項目を変更できます。

たとえば、円グラフのスライスのラベルに、値またはカテゴリー名を使用できます。スライスに値のラベルを付けると、凡例にはカテゴリー名のみが含まれます。スライスにカテゴリー名のラベルを付けると、凡例にはカテゴリー名と値の両方が含まれます。

ヒント: 円グラフのカテゴリーを強調表示するには、円グラフのスライスをクリックします。

手順

1. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
2. 表示のオプションを変更します。
3. 「OK」をクリックします。

複線グラフの線の強調表示

太線書式を適用すると、複線グラフ表示で 1 本以上の線を目立たせることができます。たとえば、過去 3 年間の製品ラインの収益を表示するレポートで、「年」の線を太線で表すとします。

手順

1. 太線書式を適用する線を選択します。
2. 「閲覧」メニューの「表示の変更」をクリックし、クロス集計表示をクリックします。
3. 「書式」メニューの「カテゴリー」をクリックし、「ラベルと値」をクリックします。
4. 「フォント」タブの「太字」をクリックして、「OK」をクリックします。
5. 「閲覧」メニューの「表示の変更」をクリックし、複線グラフをクリックします。

レポートのグリッド線の非表示

クロス集計レポートで、一部またはすべてのグリッド線の表示と非表示を切り替えることができます。

手順

1. レポートに複数のクロス集計が含まれている場合、変更するクロス集計をクリックします。
2. 「書式」メニューから「表示オプション」をクリックし、「全般」タブをクリックします。
3. 使用する「グリッド線の表示」を選択します。

「行詳細のグリッド線の表示」と「列詳細のグリッド線の表示」を使用するには、ネストされたカテゴリーがレポートに含まれている必要があります。

4. 「OK」をクリックします。

軸のスケール

軸に表示する最大値と最小値を設定して、グラフ表示の軸のスケールを設定できます。相関グラフや散布グラフを使用している場合は、補助のスケールを設定できません。

デフォルトでは、正の値と負の値を含めて、選択したデータ値のすべての範囲が表示されるスケールに設定されます。すべてのレポートに対するデフォルトの軸のスケール・プロパティを「設定」で変更できます。軸の設定を変更すると、一部のデータまたは統計線が表示できなくなる場合があります。

手順

1. 表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。
3. 「主軸」タブをクリックします。

このタブは、クロス集計と円グラフの表示では利用できません。

4. 「手動設定」チェック・ボックスをオンにします。

後で軸の自動スケールリングに戻すには、「手動設定」チェック・ボックスをクリアします。

5. 使用する主軸のプロパティを設定します。
6. 次のいずれかを実行します。
 - 相関グラフか散布グラフを使用している場合に、補助軸のスケールを設定するときは、「適用」をクリックしてから次のステップに進みます。
 - 「OK」をクリックして、軸のスケールリングを完了します。
7. 「補助軸」タブで、「手動設定」チェック・ボックスを選択します。

ヒント: 主軸と同じ設定を使用して補助軸のスケールを設定するには、「主軸設定使用」チェック・ボックスを選択します。

後で軸の自動スケールリングに戻すには、「手動設定」チェック・ボックスをクリアします。

8. 使用する補助軸のプロパティを設定します。
9. 「OK」をクリックします。

3-D 棒グラフの棒の透明化

3D 棒グラフの棒を透明にできます。グラフ表示に背景線を表示する場合には、透明にすると便利です。

手順

1. 透明化する棒を選択します。
2. 右クリックして表示されるメニューから、「透過性」をクリックし、「透明バー」をクリックします。

タスクの結果

後で不透明にするには、「透過性」、「不透明バー」または「すべてを不透明にリセット」オプションを使用します。

第 10 章 レポートの書式設定

レポートの書式を設定すると、レポートの表示が向上し、データを理解しやすくなります。レポートの書式設定は、次のような方法で行えます。

- レイアウトを変更する
- タイトル、ヘッダー、フッターを追加する
- 色、パターン、背景を適用する
- ラベルと数値の書式を設定する

クロス集計レポートに使用するレイアウトの選択

ネストされたクロス集計レポートに対して異なるレイアウト・スタイルを選択できます。

- 標準レイアウトでは、ネスト・レベルは、行の場合は水平方向に、列の場合は垂直方向に並べて表示されます。
- インデント・レイアウトでは、ネストされた行は、インデントによって区別されます。レポートでは、ネストされたカテゴリーの合計レベルは表示されません。
- インデント 2 レイアウトでは、ネストされた行は、インデントによって区別されます。合計のラベルは太字で、最下位レベルは下線付きで表示されます。インデント 2 レイアウトを使用できるのは、Explorer レポートのみです。

手順

「書式」メニューの「クロス集計のレイアウト」をクリックし、任意のレイアウトをクリックします。

短い形式または長い形式のディメンション名およびカテゴリー名の表示

キューブ作成者がキューブ内で短い形式と長い形式の両方のディメンション名またはカテゴリー名を定義している場合は、レポートのディメンション・ラインおよびディメンション表示にどちらの形式で表示するかを選択できます。個々のディメンションごとに、長い形式か短い形式の名前を設定できます。

たとえば、長い形式の名前"2008 Products"と短い形式の名前"08 Prods"がディメンションにあるとします。レポートで短い形式のディメンション名が表示されるように選択します。

IBM Cognos PowerPlay Studio でレポートを開いたときに短い形式の名前を表示するには、レポートを発行する前に、短い形式の名前を表示するようにすべてのディメンションを設定する必要があります。

手順

ディメンション・ラインにあるディメンションまたはカテゴリーを右クリックして、「長い形式の名前」チェック・ボックスをオフかオンにします。

スタイルの作成とデータへの適用

重要な情報を強調し、ユーザー設定ハイライトの定義に使用するため、スタイルを作成して適用します。

たとえば、低い販売数値と高い販売数値に適用するために異なるスタイルが必要な場合、高い数値を緑色で表示するスタイルと、低い数値を赤色で表示する別のスタイルを作成できます。

スタイルの作成と編集

カスタム・スタイルは、レポートのデータに適用する前に作成しておく必要があります。

手順

1. 「書式」メニューから「スタイル」をクリックします。
2. 新規スタイルの作成か既存のスタイルの編集のどちらかを選択します。
 - スタイルを作成するには、新規スタイルの名前を入力して、「追加」をクリックします。
 - 既存のスタイルを編集するには、スタイル名を選択して「変更」をクリックします。
3. スタイル設定を選択します。
4. このスタイルを他でも利用できるようにする場合は、「共有」チェック・ボックスをオンにします。

「共有」チェック・ボックスは、デフォルト・スタイルの"非表示"と"デフォルト"については利用できません。

5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

新規スタイルは、現在のレポートと他のレポートで使用できます。作成するスタイルは、他の IBM Cognos PowerPlay ユーザーと共有できます。

関連概念:

55 ページの『共有ユーザー設定ハイライト定義』

すべての IBM Cognos PowerPlay ユーザーが同じ方法で例外をハイライトするようにするため、ユーザー設定ハイライト定義を他のユーザーに配布できます。

スタイルの適用

カスタム・スタイルを作成した後で、それをレポートのデータに適用できます。

手順

1. 書式設定する情報を選択します。
2. 「書式」メニューから「スタイル」をクリックします。
3. 「スタイル名」ボックスでスタイルを選択し、「OK」をクリックします。

スタイルの削除

カスタム・スタイルは、デフォルト・スタイルを適用することで削除できます。

手順

1. スタイルが適用されている情報を選択します。
2. 「書式」メニューから「スタイル」をクリックします。
3. 「スタイル名」ボックスで「デフォルト・スタイル」を選択し、「OK」をクリックします。

レポート全体への背景パターンと背景色の適用

レポートの外観をよくするために、パターンや色をレポートの背景に適用できます。

複数表示のレポートでは、表示ごとに異なる背景を適用できます。

手順

1. 複数の表示がレポートに含まれている場合は、Ctrl キーを押しながらクリックして各表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「背景の表示」をクリックします。
3. 前景色と背景色、およびパターンを選択します。

アクティブ・レポートのデフォルトとして背景パターンと背景色を設定するには、「デフォルトとして設定」をクリックします。

4. 「OK」をクリックします。

タイトル、ヘッダー、フッターの追加

説明的なタイトル、ヘッダー、フッターを追加することで、レポートをさらに意味深いものにできます。

これらの要素には、テキスト、ピクチャー・オブジェクト、変数を含めることができます。追加

- レポートの内容を説明するタイトル。
- キューブ名、レポート名、ディメンション名、ページ番号のような重要な情報を含むヘッダーとフッター。キューブ名は IBM Cognos Transformer で指定された名前です。キューブのファイル名とは異なる場合があります。

また、標準的なレポートを作成するには、新規レポートすべてに適用できるデフォルトのタイトル、ヘッダー、フッターを追加します。

たとえば、レポート・タイトルの上に表示される標準ヘッダーを作成するとします。このヘッダーには、レポートの作成日と合計ページ数が含まれています。また、レポートのファイル名とキューブのファイル名を含む標準フッターも作成します。

さらに、レポートのタイトルに、レポートの名前、会社のロゴ、現在の行ラベルも追加します。現在の行レベルを表示するタイトルのテキストは、レポートでの選択内容に応じて変化します。

手順

1. 「書式」メニューの「タイトル/ヘッダー/フッター」をクリックし、「タイトル」、「ヘッダー」、「フッター」のいずれかをクリックします。
2. テキストを入力して書式を設定します。
3. 変数を挿入するには、「挿入」ボタンをクリックして、次のいずれかを実行します。
 - レポートのファイル名、日付、または時間を入力するには、「レポート」をクリックします。
 - キューブの名前、日付、時間、または説明を挿入するには、「MDC」をクリックします。
 - 現在のデフォルトの数値データ、行、列、日付、時刻などの変数を挿入するには、「変数」をクリックします。日付か時刻の変数を挿入すると、「日時」ダイアログ・ボックスが表示されます。タイトルで日時に関する書式を選択するには、このダイアログ・ボックスを使用します。

変数の多くは動的で、現在のレポートの状態に応じて変化します。

 - ページ番号、現在のレイヤーに関する表示の現在の合計数、または現在のレポートに関するレイヤーの現在の合計数を挿入するには、「数値」をクリックします。
 - 個別のディメンション名、またはディメンション・ラインにある名前を挿入するには、「ディメンション」をクリックします。
 - 画像を挿入するには、「画像オブジェクト」をクリックします。挿入する画像をクリックして、「開く」をクリックし、必要に応じて画像の移動やサイズ変更をします。
4. 「OK」をクリックします。
5. ヘッダーやフッターを表示できない場合は、ページ表示やグラフ表示の配置を切り替えます。
 - 「表示」メニューの「ページ・レイアウト」または「ページ幅」をクリックします。
 - 「書式」メニューの「表示整列」、「オートフィット」をクリックします。

ラベルと数値の書式設定

ラベルと数値の書式設定によって、レポートが読みやすくなります。たとえば、ラベル名が長すぎる場合は変更できます。また、データを明確にする通貨記号やその他の記号を含めるようにラベルを書式設定することもできます。

ラベルの名前変更

レポートの行、列、レイヤーのラベル名を変更できます。たとえば、3つのカテゴリーを加算して算出カテゴリーを作成した場合、算出カテゴリーのデフォルト・ラベルを、カテゴリーの内容を説明する名前に変更します。

手順

1. 行、列、レイヤーのいずれかを選択します。
2. 「編集」メニューの「ラベル名の変更」をクリックします。

ヒント:F2 はラベル名を変更するキーボード・ショートカットです。

3. 新しい名前を入力して、「OK」をクリックします。

ヒント:デフォルトのラベルに戻すには、「リセット」をクリックします。

クロス集計のラベルと数値の書式設定

クロス集計のラベルと数値の書式を設定すると、さらに理解しやすくなります。

ラベルと数値について、フォント、位置揃え、背景パターンを設定できます。また、通貨記号、コンマ、パーセント記号などの設定済み数値書式から選択することもできます。書式は、ラベルのみ、数値のみ、またはラベルと数値の両方に適用できます。また、レポートについてデフォルト設定を選択することもできます。

負の値を括弧で囲む場合は、Windows の「コントロール・パネル」の「地域のオプション」で負の値の形式を設定します。

すべてのレポートのデフォルト・フォント、書式、位置揃え、パターンは「設定」で設定できます。

いくつかの規則により、クロス集計のセルで適用される数値書式が決まります。クロス集計の個々のセルの書式は設定できません。ただし、列全体と行全体のいずれかまたは両方の書式は設定できます。すべての行とすべての列を選択するか、または行と列のサブセットを選択できます。

通常、最後に適用された書式が、以前の書式よりも優先されます。ただし、例外があります。列の書式を設定したとき、その列のセルに行の書式が含まれており、その行の書式での小数点以下の桁数が新しい列の書式での小数点以下の桁数よりも大きい場合、新しい数値の書式は適用されません。列の書式がすでに存在する行の書式を設定する場合も、同じ規則が適用されます。この規則の例外は、パーセントの書式を適用する場合です。通常、パーセントの書式は常に優先されます。

手順

1. 書式設定する行と列を選択します。
2. 「書式」メニューの「カテゴリー」をクリックして、次の書式設定オプションを選択します。
 - 選択範囲内のラベルを書式設定するには、「ラベルのみ」をクリックします。
 - 選択範囲内の数値を書式設定するには、「数値のみ」をクリックします。
 - 選択範囲全体を書式設定するには、「ラベルと値」をクリックします。
 - レポートのデフォルト設定を選択するには、「デフォルト」をクリックします。

これは、以前に書式設定されたカテゴリーには影響しません。

3. 「フォント」、「書式」、「位置揃え」、「パターン」を設定します。

「ラベルのみ」をクリックすると、「書式」タブは表示されません。

4. セルの幅を超える行ラベルの折り返しを有効にする場合は、「書式」メニューの「表示オプション」をクリックします。「行の折り返し」ボックスで、「標準レイアウト」か「インデント」を選択して、「OK」をクリックします。行ラベルのセルの高さを大きくして、ラベルの追加行が表示されるようにします。

クロス集計の標準レイアウトまたはインデント・レイアウトの一方に対して、個別に折り返しを設定することもできます。

列ラベルでは常に文字が折り返されます。

5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

クロス集計表示でフォントのサイズを大きくしたり、使用しているフォントよりも大きいものに変更した場合、IBM Cognos PowerPlay では、新しいフォント・サイズを収容できるようにセルの幅と高さが自動的に調整されます。ただし、フォント・サイズを大きくするハイライト定義を適用したり、もっと大きなフォントを使用する場合は、新しいサイズに適合するように自動的に調整されません。

下線を追加する場合、下線が表示されるように、行または列のサイズを大きくすることが必要になる場合があります。

グラフ表示のラベルの書式設定

ラベルの書式を設定して、テキストを折り返すか切り捨てるかを決めます。1 つまたは両方の軸に沿って、ラベルをオートフィットするかどうかも指定できます。

新規レポートのデフォルト表示オプションは、「表示の設定」で設定できます。

次の手順は、円グラフ表示のラベルの書式設定には使用できません。

手順

1. 表示を選択します。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックし、「タイトル」タブをクリックします。

表示タイプに応じて、水平軸、垂直軸、1 本または 2 本の数値軸に関するラベルを変更できます。

3. 次のいずれかを実行します。
 - ラベルのレイアウトを設定するには、「棒のラベル」ボックスで適切なオプション・ボタンを選択します。

このボックスの名前は、表示タイプに応じて変化します。

- 棒または数値データ軸に自動的に収まるようにラベルのサイズを変更するには、適切な「ラベルのオートフィット」チェック・ボックスをオンにします。

ラベルにグループ名を定義するには、適切なボックスで名前を入力します。

フォント、スタイル、サイズ、効果、色を変更するには、「フォント」をクリックします。

4. 「OK」をクリックします。

関連タスク:

95 ページの『設定』

すべての新規レポートの設定をカスタマイズするための設定オプションが多数用意されています。たとえば、レポートとキューブ用に使用するデフォルト・ディレクトリを指定できます。

合計ラベルの変更

ネストされたクロス集計レポートで、合計行や合計列のラベルのテキストとフォントを変更できます。

例えば、会社のそれぞれの投資信託の収益を年間累計で表示する IBM Cognos PowerPlay レポートを作成したとします。合計ラベルに投資の名前を追加します。

手順

1. Explorer レポートを開いて、変更するクロス集計をクリックします。
2. 「書式」メニューの「表示オプション」をクリックし、「合計」タブをクリックします。
3. ラベル名を変更するには、「行合計ラベルの使用」または「列合計ラベルの使用」を選択して、新しいラベルを入力します。
4. 他のラベル設定を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

相対値としてのデータの表示

デフォルトでは、数値データは、データ・ソースから取得した実際の値で表示されます。Explorer レポートの値の相対的な貢献度をより簡単に比較できるようにするために、合計に対する割合として値を表示できます。たとえば、列に製品、行に地域が表示されているレポートを使用しているとします。各製品の売上に対する貢献度を地域別に表示するために、行の合計に対する割合として値を表示するようにグラフ表示を変更します。

値に指定できるオプションは、使用しているグラフ表示のタイプによって異なります。「行合計の % として表示」、「行小計の % として表示」、「列合計の % として表示」、「列小計の % として表示」の名前は、表示タイプによって異なります。たとえば、円グラフ表示では、「列小計の % として表示」コマンドは「スライス小計の % として表示」となります。

手順

1. Explorer レポートで、「閲覧」メニューの「値の表示形式」をクリックします。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 実際の数値を表示するには、「数値」をクリックします。
 - 行の合計に対する各数値の割合を表示するには、「行合計の % として表示」をクリックします。

- 行の小計に対する各数値の割合を表示するには、「行小計の % として表示」をクリックします。

行小計の % として数値を表示するには、レポートにネストされた列が含まれている必要があります。

- 列の合計に対する各数値の割合を表示するには、「列合計の % として表示」をクリックします。
- 列の小計に対する各数値の割合を表示するには、「列小計の % として表示」をクリックします。

列小計の % として数値を表示するには、レポートにネストされた行が含まれている必要があります。

- レイヤーの合計に対する各数値の割合を表示するには、「レイヤー合計の % として表示」をクリックします。
- レポート全体の合計に対する各数値の割合を表示するには、「データを総合計の % として表示」をクリックします。

総合計の % として数値を表示するには、レポートにレイヤーが含まれている必要があります。

タスクの結果

ヒント:Reporter レポートの合計の割合としてデータを表示するには、「計算」メニューの「基底値に対するパーセント」をクリックします。

ゼロ値と欠落値に対する空白セルの表示

クロス集計表示の次の値に対して空白セルを表示するように、レポートの数値データを書式設定できます。

- ゼロ値
- ゼロによる除算
- 欠落値

例えば、すべての投資信託の 5 年間の収益の概要を説明する IBM Cognos PowerPlay レポートを作成したとします。一部の信託は 3 年しか経過していないため、最初の 2 年間のデータはありません。欠落したデータがゼロとして表示されると、この信託の最初 2 年間の収益がゼロであったと誤解される恐れがあります。これらの値を空白に変更します。

ゼロと欠落値は、クロス集計でのみ空白として表示されます。他のすべての表示では、管理者が別途指定した場合を除いて、ゼロ値は n/a として表示されます。

手順

1. デイメンションの表示で、書式設定する数値データをクリックします。
2. ツールボックスの「数値データの書式化」ボタン  をクリックします。
3. 「空白」タブで、レポートに使用する「空白表示」という動作を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

第 11 章 レポートの配布

レポートを作成したら、レポートを他のユーザーに配布できます。次の操作を実行できます。

- PDF 形式でレポートを保存する
- レポートを IBM Cognos Analytics ポータルへ発行する
- レポートを印刷する
- Eメールのメッセージにレポートを添付する
- 異なるファイル形式にレポートをエクスポートする

PDF 形式でのレポートの保存

レポートを PDF 形式で保存できます。PDF ファイルは、IBM Cognos PowerPlay がコンピューターにインストールされていないユーザーに標準レポートを配布するのに便利です。

手順

1. レポートを開きます。
2. 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。
3. 「ファイルの種類」ボックスで、「PDF ファイル (*.pdf)」を選択します。
4. 「オプション」をクリックし、「保存」および「行とレイヤー」設定を選択します。

消去または非表示にした行とレイヤーは PDF での保存用には選択できません。

5. 「OK」をクリックし、「保存」をクリックします。

IBM Cognos Analytics ポータルへのレポートの発行

リモート・パッケージをデータ・ソースとして使用するときは、IBM Cognos PowerPlay レポートを IBM Cognos Analytics ポータルに発行できます。レポートを発行するときには、実行オプションを指定できます。たとえば、実行オプションでプロンプトを有効にすれば、フィルター・オプションを提示して、PDF 形式の出力の詳細をレポート利用者が指定できるようになります。

既存のリモート・レポートを開いて変更するたびに、再発行を行って IBM Cognos Analytics ポータル内のレポートを更新する必要があります。レポートを再発行するときは、既存のレポートを更新するか新しいレポートを作成するか、いずれかのオプションを選択できます。レポート名が重複した古いレポートが残ってしまうのを防ぐためにレポートの場所を変更する場合は、IBM Cognos Analytics ポータルでレポート・エントリーの移動オプションを使用します。PowerPlay Client の「新規レポートを発行」オプションを使用して別の場所を選択し、同じレポート名を使用すると、同じ名前のレポートが複数の場所に存在することになります。

始める前に

IBM Cognos Analytics ポータルでレポートを操作するには、レポートが格納されているフォルダーの読み取りおよび通過権限と、レポートの実行権限が必要です。

新規レポートの発行

リモート・パッケージをデータ・ソースとして使用する場合は、IBM Cognos Analytics にレポートを発行します。

手順

1. リモート・パッケージに基づいてレポートを作成します。
2. 「ファイル」メニューの「発行」をクリックします。
3. 「レポートの発行」ページで、レポートの名前、説明、実行オプションを指定して、「次へ」をクリックします。

説明や画面のヒントには、一部のタイプのレポートに有益な情報を表示できます。たとえば、複数の PowerCube へのデータ・ソース接続を使用するパッケージに基づいてレポートを作成するとします。レポートを発行する際に、説明や画面のヒントに PowerCube の接続名を指定しておく、レポート利用者がレポートを開く際にどの接続を選択すればよいかわかります。

4. 「名前を付けて保存」ページでレポートの場所を選択して、「OK」をクリックします。

タスクの結果

IBM Cognos PowerPlay によって、レポートが IBM Cognos Analytics ポータルに発行されます。

前に発行されたレポートの操作

既存のリモート・レポートを操作する場合は、既存のレポートを更新することも、新規レポートを作成することもできます。

手順

1. 既存のリモート・レポートを開きます。
2. レポートを更新し、「ファイル」メニューの「発行」をクリックします。
 - 既存のレポートを更新する場合は、「OK」をクリックします。
 - 新しいレポートを作成する場合は、「新規レポートを発行」を選択し、新しいレポートの名前、説明、および実行オプションを指定してから、「次へ」をクリックします。「名前を付けて保存」ページでレポートの場所を選択して、「OK」をクリックします。

レポートの印刷

レポートの全体または一部を印刷できます。たとえば、大量のデータがレポートに含まれている場合は、レポートの選択部分のみを印刷するように選択できます。

始める前に

凡例が表示されるレポートの場合は、印刷する前に、データ表示の邪魔にならないように凡例の位置を決めます。

手順

1. 「ファイル」メニューの「印刷」をクリックします。
2. 「印刷」ダイアログ・ボックスで、次のいずれかの操作を行います。
 - 白黒で印刷する際に色をパターンとして表示するには、「パターン表示」を選択します。
 - レポートを 1 ページに表示するには、「ページに合わせる」を選択します。
 - 印刷する最大ページ数を指定するには、「しきい値」ボックスに数値を入力します。
3. 「オプション」をクリックします。
4. 「印刷」タブで、次の手順を実行します。
 - 「印刷」ボックスで、レポートの印刷する部分をクリックします。
 - 「選択のグラフの印刷オプション」ボックスで、印刷するレポート・プロパティを選択します。

「印刷」ボックスで選択したオプションによっては、一部のレポート・プロパティが選択できない場合もあります。

5. 「印刷」ボックスで「ページ・レイアウト表示」または「選択された表示」をクリックした場合は、「行とレイヤー」タブをクリックして、印刷する行とレイヤーを指定します。

消去または非表示にした行とレイヤーは「行」ボックスと「レイヤー」ボックスには表示されず、印刷のために選択できません。

6. 「OK」をクリックします。

E メールへのレポートの添付

レポートの基準となっているキューブにアクセスできるユーザーに対して、レポートを E メールへの添付ファイルとして送信できます。

手順

「ファイル」メニューの「送信」をクリックします。

タスクの結果

デフォルトの E メール・プログラムに、レポートが添付ファイルとして表示されます。

異なるファイル形式へのレポートのエクスポート

IBM Cognos PowerPlay を他のアプリケーション環境と統合する別の方法は、PowerPlay レポートを他の形式にエクスポートすることです。PowerPlay レポートは次の形式にエクスポートできます。

- 区切り付き ASCII テキスト・ファイル
- Microsoft Excel
- PDF

レポートを区切り付き ASCII 形式または Microsoft Excel 形式にエクスポートする場合は、テキスト・ファイルの先頭または Microsoft Excel ワークシートの最初の数行に、エクスポートの日時、レポート・ファイル名、関連付けられているキューブの名前、およびレポート・タイプ (Explorer または Reporter) が表示されます。ディメンション・ラインのフォルダー名とデータは、この情報の下に表示されません。

PowerPlay レポートにレイヤーが含まれている場合は、レイヤーごとに個別の Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

区切り付き ASCII 形式または Microsoft Excel 形式でレポートをエクスポートする場合は、レポートに表示されているデータ・レベルのみをエクスポートできます。

手順

1. 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。
2. フォルダーを選択して、ファイルの名前を入力します。
3. 「ファイルの種類」ボックスで、ファイル形式をクリックして「OK」をクリックします。

区切り付き ASCII テキスト・ファイル

区切り付きテキスト形式は、最もよく使用されるエクスポート形式の 1 つです。このファイルは、多くのアプリケーションでインポート・データとして使用できます。IBM Cognos PowerPlay では、.asc ファイルを作成するとき形式が次のように変換されます。

表 3. ASCII ファイルの変換書式

書式	変換の詳細
数値データ	<p>数字の書式またはパターンにロケールとは異なる明示的な小数点が含まれている場合でも、ロケールの小数点記号が使用されます。</p> <p>桁区切り記号 (US ロケールの千の位を表す記号など、大きな数を区切るために使用する記号) は CSV エクスポートでは使用されません。</p> <p>マイナス符号にはロケールの書式ではなく記号が使用されます。この記号も、その数に使用された明示的な書式とは異なる場合があります。マイナス記号は常に先頭に付きます。</p> <p>たとえば、ドイツ語ロケールの「DE_DE」では、「(765 000.45)」として書式設定された数値が「-765000,45」として CSV 形式にエクスポートされます。</p>

表 3. ASCII ファイルの変換書式 (続き)

書式	変換の詳細
通貨データ	<p>通貨値には数値と同じ規則が適用されます。通貨記号はエクスポートされません。</p> <p>たとえば、ロケール「EN_US」では、PowerPlay レポートの数値書式が「\$123,456.00」の場合に PowerPlay から「123456.00」がエクスポートされます。</p>
文字データ	<p>いくつかの製品では、オプションでテキストの前後に引用符を追加できます。この方法によって、エクスポートされたファイルで、リスト区切り (コンマなど) を含むテキスト・フィールドが複数のフィールドとして解釈されることを防止できます。</p>
日時のデータ	<p>日付は ISO 形式 (YYYY-MM-DD) でエクスポートされます。</p> <p>時刻は ISO 形式 (hh:mm:ss) でエクスポートされます。時間の値 (hh) には 24 時間形式が使用されます。</p> <p>PowerPlay では、日付は Transformer モデルで定義され、テキストとしてエクスポートされます。</p>

第 12 章 PowerPlay のカスタマイズ

IBM Cognos PowerPlay は、日常のレポート作成ニーズに合わせてカスタマイズできます。たとえば、新規レポートを作成するときに、Reporter レポートと Explorer レポートのどちらをデフォルトで作成するかを設定で指定できます。

また、メニュー、ツールバー、ツールバー・ボタンをカスタマイズして、効果的に作業できるように整理することもできます。たとえば、最も頻繁に使用するボタンを表示するカスタム・ツールバーを作成できます。カスタム・メニューとカスタム・ツールバーを他のユーザーに配布できます。たとえば、部門で使用するコマンドのみを含むメニューをロードできます。

設定

すべての新規レポートの設定をカスタマイズするための設定オプションが多数用意されています。たとえば、レポートとキューブ用に使用するデフォルト・ディレクトリを指定できます。

手順

「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。

カスタム・メニューの作成

独自のメニューを作成し、必要なコマンドを追加できます。すべてのメニューはいつでも元の設定に戻すことができます。

カスタマイズしたメニューとツールバーを、他の IBM Cognos PowerPlay ユーザーに配布できます。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「メニュー」タブをクリックします。

「コマンド」ボックスに、メニュー・コマンドのリストが表示されます。「メニュー・レイアウト」ボックスには、現在のメニュー構造が表示されます。

3. 次のいずれかの操作を実行できます。

表 4. メニューのカスタマイズ・オプション

目的	操作
メニュー、サブメニュー、メニュー区切り、またはメニュー・コマンドを追加する	追加するアイテムを選択し、「使用可能なコマンド」ボックスから「メニュー・レイアウト」ボックスにドラッグする。

表 4. メニューのカスタマイズ・オプション (続き)

目的	操作
特定のメニューにあるメニュー・コマンドを表示する	「カテゴリー」ボックスで、メニュー名をクリックする。たとえば、「ファイル」メニューにあるコマンドのみを表示する場合は、「ファイル」をクリックします。
メニュー・コマンドの位置を変更する	「メニュー・レイアウト」ボックスでメニュー・コマンドを選択し、別のメニューにドラッグする。
メニューまたはメニュー・コマンドを削除する	「メニュー・レイアウト」ボックスで、メニューまたはコマンドをクリックし、「削除」をクリックする。
メニュー・コマンド名を変更する	「メニュー・レイアウト」ボックスで、メニュー・コマンドをクリックする。「アイテムのプロパティ」の「名前」ボックスに新しい名前を入力します。
メニュー・コマンドのショートカット・キーの組み合わせを変更する	「メニュー・レイアウト」ボックスで、メニュー・コマンドをクリックする。「アイテムのプロパティ」の「ショートカット」ボックスで、新しいキーの組み合わせを入力します。キーの組み合わせが現在別のメニュー・コマンドに割り当てられている場合は、メッセージ・ウィンドウにショートカットが使用されているというメッセージが表示されます。
メニューのアクセラレーター・キーを作成する	「メニュー・レイアウト」ボックスで、メニュー・コマンドをクリックする。「アイテムのプロパティ」の「名前」ボックスに、アンパサンド (&) とメニュー・コマンド名を入力します。たとえば、「新規作成 (&N)」と入力すると、 N がアクセラレーター・キーになります。

4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

「メニュー」タブでメニューの設定をデフォルトに戻すには、「リセット」をクリックします。

関連タスク:

99 ページの『カスタム・メニューとカスタム・ツールバーの配布』
 カスタム・メニューとカスタム・ツールバーを他のユーザーに配布できます。

起動メニュー・コマンドの設定

任意のメニューに、アプリケーションを実行するための起動コマンドを追加できます。たとえば、プレゼンテーション用に頻繁にレポートをコピーして別のアプリケーションに貼り付ける場合、自動的にレポートをクリップボードにコピーしてプレゼンテーション・アプリケーションを起動する起動アイテムを作成できます。アプリケーションが開いたら、プレゼンテーションにレポートを貼り付けることができます。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「メニュー」タブをクリックします。

既存の起動メニュー・コマンドを編集するには、「メニュー・レイアウト」ボックスにあるコマンドをクリックします。

3. 「新規作成」をクリックします。

「新しい起動アイテム」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 起動アイテムのオプションを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

ツールバーおよびボタンのカスタマイズ

ツールバーの表示、非表示、作成、削除、および変更ができます。たとえば、使用するボタンのみを含むツールバーを作成できます。

カスタマイズしたメニューとツールバーを、他の IBM Cognos PowerPlay ユーザーに配布できます。

関連タスク:

99 ページの『カスタム・メニューとカスタム・ツールバーの配布』
カスタム・メニューとカスタム・ツールバーを他のユーザーに配布できます。

ツールバーの表示と非表示

ツールバーの表示と非表示を切り替えて、必要なアイテムのみを使用できます。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「ツールバー」タブをクリックします。
3. 表示するツールバーの横にあるチェック・ボックスをオンにします。

ヒント: 「使用可能なツールバー」ボックスからツールバーを削除するには、ツールバー名をクリックしてから「削除」をクリックします。

4. 各ツールバーのツールチップを表示する場合は、「ツールチップの表示」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

「ツールバー」タブでツールバーをリセットするには、「リセット」をクリックします。

カスタム・ツールバーの作成

必要なツールのみを含むカスタム・ツールバーを作成できます。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「ツールバー」タブの「新規作成」をクリックします。
3. 「ツールバー名」ボックスにツールバー名を入力します。
4. 「最初に表示する場所」ボックスでツールバーのデフォルトの場所をクリックして、「OK」をクリックします。

タスクの結果

新しいツールバーの名前が、「ツールバー」ボックスに表示されます。これで、新しいツールバーにボタンを追加できます。

ツールバー・ボタンのカスタマイズ

デフォルト・ツールバーのボタンを変更したり、カスタム・ツールバーにボタンを追加したりできます。任意のツールバーからボタンを削除することもできます。

たとえば、行政機関部門で輸入を担当していると仮定します。英国のオフィスにレポートを定期的に配布するため、レポートを英国ポンドに変換する必要があります。「通貨」ボタンを作成して追加し、ツールバーをカスタマイズします。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「ツールバーのボタン」タブをクリックします。
3. 追加するボタンを選択し、「使用可能なボタン」ボックスからツールバーにドラッグします。

ヒント

- ボタンの機能を確認するには、「使用可能なボタン」ボックスでボタン名を選択し、「ボタンの説明」の下に表示される説明を参照してください。
 - 選択したボタンを変更するには、「カテゴリー」ボックスを使用します。たとえば、「ファイル」ツールバーにあるボタンのみを表示する場合は、「ファイル」をクリックします。
 - ボタンの間にスペースを追加するには、区切りボタンを追加します。このボタンは、「その他」カテゴリーにあります。
4. 既存のツールバーから削除するボタンを選択してドラッグします。
 5. 「OK」をクリックします。

ヒント:元の設定に戻すには、「ツールバー」タブの「リセット」をクリックします。

起動ボタンの設定

カスタム・ツールバーには、最大 64 個の起動ボタンを追加できます。ボタンを設定して、それぞれ異なるプログラムを実行できます。

たとえば、行政機関部門の管理者であると仮定します。レポートのデータ・ソース・ファイルを Microsoft Excel スプレッドシートで保持します。レポートを確認しているときに、データ・ソース・ファイルを参照したい場合があります。IBM Cognos PowerPlay Client から Microsoft Excel を直接実行するようにツールバーをカスタマイズします。

手順

1. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
2. 「ツールバーのボタン」タブの「カテゴリー」ボックスで、「その他」をクリックします。
3. ツールバーの起動ボタンをクリックし、ツールバーにドラッグします。
4. 「OK」をクリックして、「カスタマイズ」ダイアログ・ボックスを閉じます。
5. 新しい起動ボタンをクリックします。
6. 「新しい起動アイテム」ダイアログ・ボックスの「名前」ボックスに、起動ボタンの名前を入力します。
7. 「説明」ボックスに、ボタンの機能に関する簡単な説明を入力します。

入力したツールチップは、マウス・ポインターをボタンに重ねたときに表示されます。

8. 「コマンド」ボックスで、プログラムの場所を探します。
9. 「パラメーター」ボックスに、プログラムに追加するパラメーターを入力します。
10. プログラムの実行時に現在のウィンドウを最小化する場合は、「起動する前にアプリケーションを最小化する」チェック・ボックスをオンにします。
11. 「イメージ」ボックスで、新しい起動ボタンに表示するイメージをクリックします。
12. 「パス」ボックスで、ボタンのイメージの場所を探します。
13. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

これで起動ボタンが設定されます。起動ボタンの設定を変更する場合は、「カスタマイズ」ダイアログ・ボックスが閉じていることを確認し、Ctrl キーを押しながら起動ボタンをクリックして、「起動アイテムを変更」ダイアログ・ボックスで変更します。

カスタム・メニューとカスタム・ツールバーの配布

カスタム・メニューとカスタム・ツールバーを他のユーザーに配布できます。

たとえば、輸送方針を監督する管理部門の責任者であると仮定します。システム・アナリストとの共同作業で、部門のニーズに合わせてカスタマイズしたメニューとツールバーを作成しました。これらのメニューとツールバーを、部門内の他のユーザーに配布できます。

カスタム・ツールバーの設定は"tbinfo.ini"ファイルに格納され、カスタム・メニューの設定は"menuinfo.mnu"ファイルに格納されます。これらのファイルは次の場所にあります。

C:\Documents and Settings\user_ID\Application Data\IBM Cognos\c10dotn\PwrPlay

手順

1. カスタム・ツールバーおよびカスタム・メニューの設定を含むファイルのコピーを、ユーザーがアクセスできる場所に置きます。
2. 「ツール」メニューの「カスタマイズ」をクリックします。
3. 「ロード」をクリックします。
4. インポートする"tbinfo.ini"ファイルまたは"menuinfo.mnu"ファイルの場所を探します。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

カスタム・メニューまたはカスタム・ツールバーが表示されます。

「ディメンションの表示」 ツールボックスのカスタマイズ

「ディメンションの表示」 ツールボックスに表示するボタンをカスタマイズできます。

たとえば、最も頻繁に使用する 3 つのボタンを表示できます。ウィンドウの左、右、上、または下にツールボックスを配置することも選択できます。

次のツールボックス・ボタンは、Explorer レポートでのみ使用できます。

表 5. Explorer レポート用の「ツールボックス」ボタン

クリックする項目	目的
	行を選択されたカテゴリーで置換する。
	列を選択されたカテゴリーで置換する。
	レイヤーを選択されたカテゴリーで置換する。

次のツールボックス・ボタンは、Reporter レポートでのみ使用できます。

表 6. Reporter レポート用の「ツールボックス」ボタン

クリックする項目	目的
	選択したカテゴリーを行として追加する。
	選択したカテゴリーを列として追加する。
	選択したカテゴリーをレイヤーとして追加する。
	選択したカテゴリーの平均値を新規カテゴリーに表示する。
	選択したカテゴリーの値を、その上位レベル・カテゴリーのパーセンテージとして表示する。
	選択したカテゴリーの合計を新規カテゴリーに表示する。
	選択したカテゴリーのすぐ下のレベルにカテゴリーを追加する。
	選択したカテゴリーの最下位レベルにすべてのカテゴリーを追加する。
	選択したカテゴリーを個々の新規カテゴリーとしてレポートに表示する。
	2つのカテゴリーの共通部分を表示する。
	ディメンションからレベルをネストするときに親子関係を保持する。
	「詳細サブセット」ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログ・ボックスでは、詳細サブセットの定義を作成できます。
	「ペアレントージ」ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログ・ボックスでは、レベル・サブセット定義を作成できます。

次のツールボックス・ボタンは、Explorer レポートと Reporter レポートの両方で使用できます。

表 7. Reporter レポートと Explorer のレポート用の「ツールボックス」ボタン

クリックする項目	目的
	選択したカテゴリーを使用してデータにフィルターをかける。

表 7. Reporter レポートと Explorer のレポート用の「ツールボックス」ボタン (続き)

クリックする項目	目的
	カテゴリー名の短いバージョンと長いバージョンを切り替える。
	「数値の形式」ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログ・ボックスでは、レポートの数値データを書式設定できます。
	「キューブから検索」ダイアログ・ボックスを開く。このダイアログ・ボックスでは、キューブからの検索サブセット定義を作成できます。

手順

1. ツールボックスを右クリックし、「カスタマイズ」をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 新規ボタンを追加するには、使用できるツールバー・ボタンのボックスで目的のボタンを選択し、「追加」をクリックします。
 - ボタンを削除するには、「現在のツールバー・ボタン」のボックスで「削除」をクリックします。
 - ツールボックスの設定をデフォルトに戻すには、「リセット」をクリックする
3. ボタンの表示順序を変更するには、使用可能なボタンを選択し、ボタンが目的の位置に移動するまで「上に移動」または「下に移動」ボタンをクリックします。
4. ツールボックスに表示されるボタンの前にスペースを追加するには、使用可能なボタンを選択してから、「区切り」ボタンを追加します。
5. 「OK」をクリックします。
6. ツールボックスの位置を変更するには、ツールボックスを右クリックし、「場所」をクリックします。
7. 4 か所の表示位置のうち 1 つをクリックします。

第 13 章 オフライン作業

元のキューブまたは元のキューブが保存されているネットワークに接続していない場合でも、IBM Cognos PowerPlay で作業を継続できます。

キューブ・データのサブセットを含むレポートを用意し、レポートのデータをサブキューブ (.mdc) として保存できます。レポート作成時に使用した情報のみを保存すると、使用可能なディメンションは保存したディメンションのみに制限されます。

オフラインで作業終了後は、元のキューブ・データを使用してサブキューブを自動更新できます。

サブキューブのアップデートをオフにする

作成するサブキューブは、デフォルトでは自動的にアップデートされます。オフラインで作業するには、自動アップデート・オプションをオフにする必要があります。この設定は、すべてのサブキューブに適用されます。

手順

1. 「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。
2. 「オプション」タブをクリックします。
3. 「サブキューブのアップデート」チェック・ボックスをオフにします。
4. 「OK」をクリックします。

サブキューブの保存

IBM Cognos PowerPlay レポートをサブキューブとして保存することにより、このレポートをオフラインで作業できます。

元のキューブのコピーを入手できない場合、元のキューブが非常に大きく、かつオフライン作業に不要なデータも含まれている場合、元のキューブがネームスペースで保護されている場合などは、このオプションが便利です。

リモート・パッケージに基づくサブキューブを作成するには、サブキューブとして保存する機能を PowerPlay の管理者に有効にしておいてもらう必要があります。.mdc として保存するオプションが使用できない場合は、管理者に連絡してください。

時系列にパーティション化されたキューブまたはメンバーのキューブを使用している場合、日付以外のディメンションでフィルターされたサブキューブは保存できません。保存しようとするとき、「サブキューブのディメンション・ラインが正しくありません (サブキューブ)」というメッセージが表示されます。

手順

1. 必要な情報のレベルをドリルダウンまたはドリルアップして、レポートを準備します。
2. 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。
3. 「タイプ済として保存」ボックスで、「PowerPlay キューブ (*.mdc)」を選択します。

サブキューブを使用するレポートの設定

レポートとサブキューブを保存した後で、サブキューブを使用してレポートを開き、レポートを保存する必要があります。

これにより、レポートは、元のキューブではなく常にサブキューブにアクセスするよう設定されます。サブキューブを使用するようにレポートを設定する必要があるのは 1 回のみです。

手順

1. 「ファイル」メニューの「開く」をクリックします。
2. 「キューブのプロンプト」チェック・ボックスをオンにします。
3. レポートを検索して選択します。
4. 「開く」をクリックします。
5. 「アクセス」ボックスで、「ローカル」をクリックします。
6. サブキューブを検索して選択します。
7. 「開く」をクリックします。
8. 「ファイル」メニューで「保存」をクリックして、サブキューブを使用するようにレポートを設定します。

タスクの結果

別の IBM Cognos PowerPlay セッションでレポートを開くと、そのレポートは自動的にサブキューブに接続されます。

レポートで元のキューブまたは別のキューブにアクセスする場合は、前述の手順に従い、元のキューブまたは別のキューブを選択します。

サブキューブの自動リフレッシュ

元のキューブが格納されているネットワークに再接続した場合は、レポートを次回開いたときにサブキューブが自動的にリフレッシュされるように IBM Cognos PowerPlay を設定できます。オフラインで作業する場合は、このオプションをオフにできます。

手順

1. リフレッシュするレポートまたはサブキューブを閉じます。
2. 「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。
3. 「オプション」タブをクリックします。
4. 「サブキューブのリフレッシュ」チェック・ボックスをオンにします。

5. サブキューブを開くか、サブキューブに基づいてレポートを開きます。

元のキューブが保護されたキューブである場合は、キューブに対して指定されたセキュリティのタイプに応じて、認証情報を要求されることがあります。

タスクの結果

サブキューブは、新しい情報によって元のキューブのデータで更新されます。

レポートのカテゴリに"エラー"と表示される場合は、このカテゴリがキューブから削除されているか、間違ったキューブに接続しているためにカテゴリが一致していません。

第 14 章 コマンド行オプション

コマンド行オプションは、次の場合に使用します。

- IBM Cognos PowerPlay をタイトル画面なしで起動する
- 特定のキューブを使用して、新規 Explorer レポートを作成する
- 特定のキューブを使用して、新規 Reporter レポートを作成する
- 特定のキューブを使用して新規レポートを作成する
- 特定のレポートを開く

コマンドは PowerPlay のインストール場所の"bin"フォルダーから実行します。この章にあるすべての例では、コマンドを入力する前に"bin"フォルダーに移動していると仮定しています。デフォルトのインストール場所を使用した場合、bin フォルダーへのパスは C:\Program Files\IBM\Cognos\ca_location\bin になります。

構文を次に示します。

```
PWRPLAY.EXE  
[/nologo]  
[/e=name.mdc]  
[/r=name.mdc]  
[mdc_file_name]  
[report_name]  
/remote=package_searchpath [/timeout=timeout_value]
```

コマンド行構文では大文字小文字の区別はありません。

コマンド行オプションは、組み合わせて使用できます。たとえば次のコマンドを使用すると、PowerPlay が起動し、"在庫"キューブ ("inventory.mdc") に基づいた新規 Explorer レポートと、"会計"キューブ ("accts.mdc") に基づいた新規 Reporter レポート、および"Year-End"というレポートが開き、タイトル画面は省略されます。

```
PWRPLAY.EXE /e=inventory.mdc /r=accts.mdc year-end.ppx  
/nologo
```

タイトル画面の省略

/nologo オプションを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動するときにタイトル画面や「ようこそ」ダイアログ・ボックスが表示されません。

たとえば次のコマンドを使用すると、PowerPlay が起動しますが、タイトル画面は表示されません。

```
PWRPLAY.EXE /nologo
```

Explorer レポート

/e=name.mdc オプションを使用すると、新しい Explorer レポートが開きます。

次のコマンドを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動し、c:\reports フォルダーにある「在庫」キューブ (inventory.mdc) を使用して新規 Explorer レポートが開きます。

```
PWRPLAY.EXE /e=C:\reports\inventory.mdc
```

Reporter レポート

/r=name.mdc コマンドを使用すると、新規 Reporter レポートが開きます。

次のコマンドを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動し、c:\reports フォルダーにある「在庫」キューブ (inventory.mdc) を使用して新規 Reporter レポートが開きます。

```
PWRPLAY.EXE /r=C:\reports\inventory.mdc
```

キューブ名

mdc_file_name オプションを使用すると、特定のキューブに基づいた新規レポートが開きます。

次のコマンドを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動し、c:\reports フォルダーの「在庫」キューブが開きます。

```
PWRPLAY.EXE C:\reports\inventory.mdc
```

リモート・パッケージ名

/remote=package [/timeout=timeout_value] コマンドを使用すると、リモート・パッケージが開きます。ここで、

- */remote* は、リモート・パッケージを開くことを示します。
- *package* は、パッケージの検索パスまたはストア ID を指定します。検索パスまたはストア ID は、IBM Cognos Analytics ポータルのパッケージ・プロパティで取得できます。
- */timeout=* は、接続のタイムアウトを秒単位で指定します。

このエントリーは省略できます。

例えば、次のコマンドを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動し、パッケージ検索パスを使用して 60 秒のタイムアウトで Great Outdoors パッケージが開きます。

```
PWRPLAY.EXE /remote="/content/package[@name='Great Outdoors']" /timeout=60
```

レポート名

report_name オプションを使用すると、指定されたレポートが開きます。

次のコマンドを使用すると、IBM Cognos PowerPlay が起動し、c:\reports フォルダーにある年度末レポートが開きます。

```
PWRPLAY.EXE C:\reports\year-end.ppx
```

第 15 章 仕様

次の表に、IBM Cognos PowerPlay 属性の仕様 (最小値や最大値) を示します。

表 8. PowerPlay 属性の仕様

属性	制約事項
グラフ棒 (スクロールなし)	最大: 500
ビットマップ・サイズ	使用可能なメモリーによってのみ制限される。
カスタムの色設定 (最小 - 最大)	赤、緑、青:0-255 色調:0-40 彩度:0-80 輝度:0-240
許容される負の最大値	キューブで定義される。
許容される正の最大値	キューブで定義される。
ページの余白	PowerPlay のページ設定で決定される。
レポートに含まれるカテゴリー数 (行、列、レイヤー)	カテゴリー数は 6,442,450,940 に制限される。この制限数が適用可能であっても、コンピューターのメモリーに応じて、制限数を 100,000 とするほうがより適切な場合があります。
表示の背景に追加するピクチャーの場所およびファイル名の文字数	最大: 126
カテゴリー・ラベルの文字数	最大: 255
表示できる色数	モニターまたはプリンターでサポートされている色数により制限される。
オペランド (加算、減算、乗算、除算、割合、最大値、最小値、平均、べき乗) の桁数	最大: 11
ディメンション・ラインのディメンション数	最大: 255
レポートに含まれるグラフ数	使用可能なメモリーによってのみ制限される。

表 8. PowerPlay 属性の仕様 (続き)

属性	制約事項
「最近使用したファイル」リストのファイル数	最大: 9
レポートあたりのフォント数	使用可能なメモリーとシステムでサポートされているフォント数によって制限される。
開かれたレポート数	使用可能なメモリーによってのみ制限される。
ネスト・カテゴリーのレベル数	使用可能なメモリーによってのみ制限される。
ツールバーの数	最大: 20
「元に戻す」操作の回数	最大: 5000
許容される負の最小値	キューブで定義される。
許容される正の最小値	キューブで定義される。

第 16 章 予測の式

趨勢法、成長法、および自己回帰法のいずれかの時系列予測方法を使用して、過去のデータに基づいてビジネスの将来の業績を予測できます。

IBM Cognos PowerPlay のすべての予測方法では、単変量の予測方法が使用されています。このため、行、列、合計行、または合計列にかかわらず、それぞれのカテゴリーが個別の時系列として扱われます。

趨勢予測の式

趨勢予測の式は次のとおりです。

$$y = at + b$$

y は従属変数 (収益など)、 t は時間を表す独立変数です。

$$a = \frac{N \left(\sum_{i=1}^N t_i y_i \right) - \left(\sum_{i=1}^N t_i \right) \left(\sum_{i=1}^N y_i \right)}{N \left(\sum_{i=1}^N t_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^N t_i \right)^2} \quad (\text{傾向線の傾き})$$

および

$$b = \frac{\left(\sum_{i=1}^N y_i \right) \left(\sum_{i=1}^N t_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^N t_i \right) \left(\sum_{i=1}^N t_i y_i \right)}{N \left(\sum_{i=1}^N t_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^N t_i \right)^2} \quad (\text{切片})$$

傾向線の過去のデータへの近似度を示す傾向係数は、次の方程式で定義されます。

$$R^2 = 1 - \frac{SSE}{SST}$$

パラメーターの説明

$$SSE = \sum_{i=1}^N (y_i - \hat{y}_i)^2 \quad (\text{残差の自乗和})$$

および

$$SST = \left(\sum_{i=1}^N y_i^2 \right) - \frac{\left(\sum_{i=1}^N y_i \right)^2}{N}$$

成長予測の式

成長予測の式は次のとおりです。

$$y = ba^t$$

b は切片、 a は伸び率定数です。

IBM Cognos PowerPlay は、対数で変換した回帰モデルを使用して、この方程式を解きます。

自己回帰予測の式

自己回帰予測の式は次のとおりです。

$$y_t = \sum_{j=1}^M d_j y_{t-j}$$

パラメーターの説明

$$\sum_{j=1}^M \phi_{|j-k|} d_j = \phi_k \quad (k = 1, \dots, M) \quad (d_j \text{ は線形予測 (LP) の係数})$$

および

$$\phi_j = \langle y_i y_{i+j} \rangle \approx \frac{1}{N-j} \sum_{i=1}^{N-j} y_i y_{i+j} \quad (\text{過去の系列の自己相関})$$

IBM Cognos PowerPlay は、Burg のアルゴリズム、およびデータ・ポイントの半分の数値に等しいデータ・ウィンドウ (M) を使用して、これらの方程式を解きます。

第 17 章 PowerPlay のサンプル

IBM Cognos Analytics の補足サンプルには、IBM Cognos PowerPlay サンプルが収録されています。

補足のサンプルは、補足サンプル Web サイト (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples) からダウンロードできます。PowerPlay サンプルのセットアップについて詳しくは、IBM Cognos Analytics Knowledge Center (www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSEP7J_11.0.0/com.ibm.swg.ba.cognos.cbi.doc/welcome.html) の「IBM Cognos PowerPlay Administration Guide」の、バージョン 11.0.x の「PowerPlay and Transformer」のセクションを参照してください。

以下の表に、使用可能な PowerPlay サンプルを示します。

表 9. PowerPlay のサンプル

ファイル名	説明
great_outdoors_sales_ja.mdc	すべてのサンプル・レポートは great_outdoors_sales_en.mdc キューブに基づく。このキューブは IBM Cognos Transformer で作成されています。
3D-multiline.ppx	単一のレポートに複数のグラフ (3D 棒グラフ、複線、クロス集計) が表示される Explorer レポート。
advanced_subset.ppx	詳細サブセットや"キューブから検索"サブセットの定義を使用した Reporter レポート。詳細サブセットの定義は、レポートの行として使用されています。
charting_options.ppx	統計線を使用した棒グラフが表示される Reporter レポート。
currency_explorer.ppx	ネストされた行および代替通貨を使用したクロス集計が表示される Explorer レポート。
currency_reporter.ppx	ネストされた行および代替通貨を使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。
external_rollup.ppx	ネストされた行および外部集計を使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。
forecasting.ppx	インデント 2 レイアウトおよび予測計算を使用したクロス集計が表示される Explorer レポート。
nested_crosstab_1.ppx	インデント 1 レイアウトを使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。このレポートには、空白として表示された値 0、および空白の行と列が含まれており、レポート・タイトルに変数が使用されています。
nested_crosstab_2.ppx	標準レイアウトを使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。このレポートには、主ドリルダウン・パスのカテゴリーでネストされた代替ドリルダウン・パスからのカテゴリーと、複数の数値データ・インターセクトが含まれています。

表 9. PowerPlay のサンプル (続き)

ファイル名	説明
nested_crosstab_3.ppx	インデント 2 レイアウトおよびランク付けを使用したクロス集計が表示される Explorer レポート。
nested_crosstab_4.ppx	インデント 2 レイアウトを使用したクロス集計が表示される Explorer レポート。このレポートには非表示のグリッド線が含まれており、合計行のラベルに書式が設定されています。
parentage_subset.ppx	ペアレントージ・サブセットの定義が行として追加されたクロス集計が表示される Reporter レポート。パターンを使用してサブセットを強調表示しています。
percentage_sales.ppx	80/20 消去を使用し、その他のカテゴリーのラベルにカスタムの書式設定が適用されたクロス集計が表示される Explorer レポート。
ranking_1.ppx	ランク付けされた列を 2 列 (ソートされている列とソートされていない列) 含むクロス集計が表示される Reporter レポート。
ranking_2.ppx	ランク計算を使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。
ranking_3.ppx	ネストされた行を使用したクロス集計が表示される Reporter レポート。このレポートには書式設定されたランク・カテゴリーが含まれています。
sales_target_correlation.ppx	相関グラフとクロス集計が表示される Explorer レポート。
stacked_bar.ppx	積み上げ棒グラフ、クロス集計、値のソートを含む Explorer レポート。
top_sales_staff.ppx	フィルター、計算、ランク付けを含み、レポート・タイトルにグラフィックを使用している Reporter レポート。

付録. トラブルシューティング

この章では、発生する可能性がある一般的な問題について説明します。

IBM Cognos PowerPlay Client に IBM CognosScript Editor は含まれていない

IBM Cognos PowerPlay Client には IBM CognosScript Editor は含まれていません。

PowerPlay Client 内のマクロに対しては、IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor、または Microsoft Visual Basic などのサポートされている他のツールを使用できます。

レポートを発行するときに Cognos Application Firewall のエラーが発生する

IBM Cognos PowerPlay Client のインストールと PowerPlay Server のインストールの両方で、IBM Cognos Configuration の「ゲートウェイ URI」で設定された形式が異なっている場合、PowerPlay Client から IBM Cognos Analytics ポータルにレポートを発行しようとする、IBM Cognos Application Firewall (CAF) のエラーが表示されることがあります。

このエラーを回避するには、両方の「ゲートウェイ URI」設定で同じ形式が使用されていることを確認します。たとえば、両方の「ゲートウェイ URI」設定で、完全修飾ドメイン名を使用します。一方の設定でコンピューター名を使用し、もう一方の設定で完全修飾ドメイン名を使用することがないように注意してください。

レポートのタイトルに不要な空白行が挿入される問題

レポート・タイトル・ウィンドウの幅よりも長いタイトルを入力するために、1 行目を入力した後にキャリッジ・リターンを挿入して 2 行目を入力すると、「OK」をクリックしたときに自動改行機能によって余分な空白行が 1 行目と 2 行目の間に挿入される場合があります。

この問題を回避するには、1 行目を最後まで入力する前に Enter キーを押します。

グラフ要素に表示されるヘブライ語のテキスト

グラフ要素の中には、双方向のヘブライ語テキストが、「視覚的」順序ではなく「論理的」順序で表示されることがあります。

詳細については、<http://people.w3.org/rishida/scripts/bidi/> を参照してください。

キューブの更新後に計算が動的に更新されない

キューブの更新後に、サブセットのメンバーに基づく計算が含まれる既存のレポートを開いたときに、以前のバージョンのキューブに存在していなかったアイテムが計算に反映されません。この問題は、ゼロ消去が適用されたレポートにおいて計算が作成されている場合に発生することがあります。計算には、レポート内に存在するアイテムのみが含まれます。キューブの更新後も、新しいアイテムを含めるよう計算が動的に更新されることはありません。

目的が動的に更新される正確なサブセット計算を作成することであれば、サブセットのメンバーに基づく計算を作成する前にゼロ消去を無効にします。計算の作成後にゼロ消去を適用してください。

エクスポートされた XLS ファイルを Microsoft Excel 2007 で開く

Microsoft Excel 2007 では、IBM Cognos PowerPlay からエクスポートされた .xls ファイルを開くと、ファイルの形式が拡張子で指定されたものとは異なるという警告が表示される場合があります。このメッセージは無視してよく、ファイルは問題なく開くことができます。

複数ページのレポートの最初のページのみが印刷される

レポートのどの部分を印刷するかを指定するには、「ファイル」メニューの「印刷」をクリックして、「オプション」ボタンをクリックします。「印刷」タブで、「選択された表示」チェック・ボックスまたは「レポート全体」チェック・ボックスをオンにします。

ディメンションの表示が表示されない

場合によっては、ディメンションの表示がアクティブであることをアイコンが示しているにもかかわらず、実際には表示されない場合があります。これは、ディメンションの表示の幅がゼロに変更されている場合に発生します。マウスのポインターをアプリケーションの左端に置きます。ポインターが双方向の矢印になったら、クリックして右側へドラッグします。ディメンションの表示がポインターの横に表示されます。

キューブを更新した後にレポートの外観が変わる

ほとんどの場合、更新されたキューブを使用して既存のレポートを開くことができます。ただし、次のような場合には問題が発生する可能性があります。

- 管理者がキューブからカテゴリを削除した場合。レポートを開くことはできませんが、カテゴリには数値の代わりに「エラー」と表示されます。この場合は、レポートからそのカテゴリを削除します。
- 管理者がディメンションを削除した場合。レポートを再作成したほうがよい場合もあります。

詳細サブセットの値の制限が使用できない

値フィルターを作成してレポートを保存した後で、そのレポートを再び開くと、値フィルターが無効になることがあります。この結果、レポートに変更が生じます。IBM Cognos PowerPlay により、以下の値フィルターの状態が処理されます。

- 無効なディメンション

削除、名前の変更、セキュリティの制限によって非表示になったなどの理由でディメンションが無効になると、そのディメンションに基づく値フィルターはレポートから削除されます。

- 無効なディメンション設定

値フィルターに無効なディメンションが含まれている場合、この無効なディメンションは値フィルターから削除されます。フィルターは残りのディメンション設定に基づいて動作します。ディメンション設定を編集する際、1 つ以上のディメンションがディメンション設定から欠落していることに気がつかない場合があります。

- 新規ディメンションの追加

新規ディメンションをキューブに追加すると、前のキューブに基づく値フィルターは無効になります。この場合、そのフィルターの名前に「使用不可」が付加されます。このフィルターを編集する際、「値の制限」ダイアログ・ボックスにある「ディメンションの設定に準拠する」ボックスには、「<新しいディメンション> - 使用不可」が表示されます。新規ディメンションに設定してある順序は、ディメンション・ラインに設定されている順序と同じです。新規ディメンションで利用できるカテゴリーを選択するには、新規ディメンションをクリックし、「編集」をクリックします。「OK」をクリックして変更を保存する前に、無効ディメンションに対応するカテゴリーを選択する必要があります。

- 無効なカテゴリー

ディメンションに含まれる 1 つ以上のカテゴリーを削除した場合に、関連するディメンションが有効であると、値フィルターは無効になります。この場合、そのフィルターの名前に「使用不可」が付加されます。このフィルターを編集する際、「値の制限」ダイアログ・ボックスにある「ディメンションの設定に準拠する」ボックスには、無効なカテゴリーの名前に「使用不可」が付加されて表示されます。カテゴリーを選択し、「編集」をクリックして、有効なカテゴリーを選択します。「OK」をクリックして変更を保存する前に、無効なカテゴリーを有効なカテゴリーで置き換える必要があります。

- 無効な数値データ

値フィルターの基準となった数値データを削除または名前の変更を行うと、値フィルターは無効になります。この場合、そのフィルターの名前に「使用不可」が付加されます。フィルターを編集する際、「値の制限」ダイアログに表示される数値データ名に「使用不可」が付加されます。有効な数値データを選択し、無効な数値データは削除できます。「OK」をクリックして変更を保存する前に、無効な数値データを有効な数値データで置き換える必要があります。

- 無効な値フィルター

詳細サブセットに添付されているフィルターが無効の場合は、そのフィルターは機能しません。無効な値フィルターをサブセットから削除するには、「OK」をクリックします。

Explorer モードに変更した後にカテゴリーが表示されない

Reporter レポートで、Explorer レポートでは適用されないカテゴリーに基づいてユーザー設定ハイライト定義を作成した場合、そのカテゴリーは、Explorer レポートのユーザー設定ハイライト定義には表示されません。

たとえば、「すべての年」に基づいてユーザー設定ハイライトを定義してから Explorer レポートに切り替えると、この「すべての年」親カテゴリーは Explorer レポートのユーザー設定ハイライト定義には存在しません。

正しくない集計値が表示される

例えば、(他の数値データに基づき) 数値データを比例して、または定数値として割り当てた場合、IBM Cognos PowerPlay に表示される値は、必ずしも行、列、レイヤーの合計値に加算されません。

詳細については、IBM Cognos Transformer のモデル作成者に問い合わせてください。

異なる形式で算出値が表示される

算出値は番号記号 (###)、または指数表記 (例、1.7976931348623158e+308) で表示されます。

値が番号記号 (###) で表示されるのは、セルの幅が狭すぎるためです。値を表示するには、セルの幅を広くします。

値が「na」と表示されるのは、計算に NULL 値を持つカテゴリーが含まれているためです。予測計算の場合であれば、IBM Cognos PowerPlay に予測の基準となる適切な値がないことが原因です。

値が指数表記で表示されるのは、計算結果が 16 桁以上になったためです。

算出値が /0 になる。

0 で除算すると、値は /0 と表示されます。この形式は、予期された動作です。

算出カテゴリーのラベルが正しく表示されない

カテゴリー・ラベルのサイズを変更するか、フォント・サイズを小さくします。

割り当てられた数値データ

数値データが、全ディメンション、またはディメンションに含まれる全レベルおよび全カテゴリーに適用されていない場合、管理者は、数値データの値を適切なカテゴリーに割り当てることができます。

数値データが定数として割り当てられている場合は、全レベルと全合計に同じ値 (またはゼロ) が表示されます。

数値データが別の数値データに基づいて割り当てられている場合、値は別の数値データの値との比例で表示されます。たとえば、地域の販売予測に関する数値データは、前年の販売実績に関する数値データなどを基準にすることができます。

たとえば、四半期ごとの"販売金額"、"従業員数"、および"従業員あたりの収益"がレポートに表示されているとします。従業員数は 10 人のみで、定数として定義され、加算できません。数値データ"従業員数"は、定数 (この例では 10) として"日付"ディメンションに割り当てられています。

表 10. 割り当てられた数値データを表示しているレポート

期間	収益	従業員数	従業員あたりの収益
Q1	200,000	10	20,000
第 2 四半期	300,000	10	30,000
第 3 四半期	250,000	10	25,000
第 4 四半期	450,000	10	45,000
2007 年	1,200,000	10	120,000

予期しないゼロがレポートに表示される

レポートに表示されるカテゴリにフィルターがかけられています。カテゴリは存在しますが、すべてゼロで表示されます。たとえば、製品ディメンションからの 3 つのカテゴリ ("アウトドア用品"、"GO スポーツ・ライン"、"環境関連") が、列に含まれていると仮定します。ディメンションのメニューを使用して、"製品"ディメンションをフィルターにかけて"GO スポーツ・ライン"のみに絞り込みます。他の 2 列はレポートに残っていますが、すべてゼロで表示されます。

フィルターをかけたディメンションの他のカテゴリは、まだ Reporter レポートに表示されています。ゼロが表示されているカテゴリは、削除したり消去したりできます。「閲覧」メニューの「消去」オプションを選択します。

値が「エラー」になる

考えられる理由は、次のとおりです。

- 適切なキューブに接続していない問題が解決しない場合は、管理者に相談してください。
- カテゴリまたはディメンションがキューブから削除された
- 計算が非論理的な組み合わせである。

値が数値記号 (###) になる

セルの幅が狭すぎて数値を表示できません。

カテゴリーを選択してサイズを変更するか、数値の書式を変更します。

値が疑問符 (???) になる

IBM Cognos PowerPlay がデータを自動的に取得しないように設定されているときに、ドリルダウン、ランク付け、または新しいデータが必要な作業を試みると、数値の代わりに疑問符が表示されます。

「閲覧」メニューにある「データの取り込み」の「データの自動取り込み」が選択されていることを確認するか、「データを取得」の「今すぐ実行」を選択します。

一部のディメンションの数値データに値がない

次の理由により、IBM Cognos PowerPlay で数値が欠落する場合があります。

- ソース・データに数値データに関する値がない場合。IBM Cognos Transformer により、キューブに値 0 が書き込まれます。
- 数値データがディメンションの一部にのみ適用される場合。数値データが下位レベルに割り当てられない可能性があります。

管理者に次の対処を依頼してください。

- ソース・データを整理して、欠落値を含むレコードをクエリーから除外する。
- 必要がなければ、キューブの数値データを省略する。
- 数値データ値の値を、定数として、または他の数値データ値の値を基準とした比例値で、下位レベルに割り当てる。定数として割り当てると、定数を割り当てたカテゴリーのクロス集計に含まれる全セルには、同じ値が表示されます。

期間の相違

1 年が 13 カ月となるような特殊カテゴリーを設定できます。

IBM Cognos Transformer のモデル作成者は、会社の会計年度、月暦年、13 週間の製造期間のような業界特有の期間、当該年の現時点までのような相対時間期間を使用するモデルを作成できます。

キューブやレポートにドリルスルーできない

IBM Cognos Transformer のモデル作成者は、大きすぎて扱いにくいレポートを処理しないで済むように、下位のディメンションとのみドリルスルー・ターゲットを関連付けることができます。これによって、エンド・ユーザーは対象範囲内のレポートにのみドリルスルーします。データの容量が大きいため、ディメンションの最上位レベルからのドリルダウンを避ける場合もあります。

キューブの最上位レベルにあるデータにアクセスする必要がある場合は、Transformer のモデル作成者に問い合わせてください。

保存したレポートの外観が異なる

「共有ディメンション」をオンに切り替えてレポートを保存すると、同じキューブを使用して作成した以降のレポートのフィルターが、保存したレポートにも適用されます。

レポートを保存する前に、「ファイル」メニューの「共有ディメンション」をオフにできます。

デフォルト設定を変更して新規レポートではディメンション・ラインが共有されないようにするには、「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。「ディメンション」タブで「ディメンション・ラインの共有」チェック・ボックスをオフにします。

列や行を移動できない

Explorer レポートでは列または行を移動することはできません。移動しようとする、行と列が入れ替わります。

ただし、Reporter レポートに切り替えたり、Reporter レポートとしてレポートの複製を作成することはできます。

「ページ設定」または「印刷」ダイアログ・ボックスを開けない

IBM Cognos PowerPlay ではデフォルト・プリンターを検索できません。デフォルト・プリンターをインストールして選択するには、**Print Manager** を使用します。

レポートを 1 ページに収めて印刷できない

次の調整方法をいくつか実行します。

- 「ファイル」メニューの「印刷」をクリックします。「ページに合わせる」チェック・ボックスをオンにします。このチェック・ボックスを使用できるのは、「印刷オプション」ダイアログ・ボックスの「選択された表示」または「レポート全体」が選択されていて、かつ「ファイルへ出力」チェック・ボックスがオフになっている場合のみです。
- 行と列を入れ替える。
- ページの余白を小さくする。
- ページを印刷する向きを変更する。
- レポートがネストされたクロス集計の場合、インデント表示のクロス集計レイアウトで印刷する。

黒地に白を印刷できない

プリンターに HPPCL レベル 4 ドライバーを使用し、TrueType フォントを使用している場合は、背景および前景色には、「黒」の代わりに「濃い青」を選択します。黒色の背景に白色文字を表示するには、「デバイス・フォントと代替」プリンター・オプションを選択する必要があります。

画像の上に文字が印刷される

Times New Roman、Courier New、または Arial 以外のフォントでレポートの書式設定を試みます。あるいは「ソフト・フォントとしてダウンロード」プリンター・オプションを解除して印刷を試みます。

デフォルトのツールバーおよびメニューに戻す

「ツール」メニューの「カスタマイズ」コマンドを使用してカスタム・ツールバーやカスタム・メニューを作成した場合は、「ツールバー」タブまたは「メニュー」タブの「リセット」をクリックして、ツールバーまたはメニューをデフォルトの設定に戻すことができます。

レポートやキューブを新しい場所に移動した後のエラー

レポートとキューブを再構築しないで移動できます。レポートとキューブを新しい場所へドラッグするか、コピーするだけです。「最近使用したファイル」コマンドは使用できません。「ファイル」メニューの「開く」または「新規作成」をクリックします。

レポートとそのレポートで使用されるキューブの両方を移動する必要はありません。レポートのみ、またはキューブのみを移動できます。レポートまたはキューブ、あるいはその両方を移動すると、IBM Cognos PowerPlay がそのレポートが開く際にキューブを検索できない可能性があります。

レポートのキューブを移動した場合、そのレポートを開く際は、「開く」ダイアログ・ボックスの「MDC ファイル名のプロンプト」チェック・ボックスをオンにします。

PowerPlay アプリケーション自体をドラッグまたはコピーして新しい場所へ移動することはできません。PowerPlay を別の場所へ移動するには、再インストールする必要があります。

パフォーマンスの問題の修正

パフォーマンスを強化するには、次のいずれかの方法を試みます。

- レポート情報を更新する直前まで、データの自動取得をオフにする。
- ドリルダウン、スライス & ダイス、書式設定などを実行中の場合は、データの自動取得をオフにする。レポートの外観が確定したら、「閲覧」メニューにある「データを取得」の「今すぐ実行」をクリックしてデータを取得します。
- IBM Cognos PowerPlay で保存される元に戻す操作の数を減らす。「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。「オプション」タブで、「元に戻す操作の最大数」オプションの値を減らします。これにより、メモリーの空き領域が増加します。
- ゼロ消去をオフにする。「ファイル」メニューの「設定」をクリックします。「消去」タブで、消去オプションを設定します。
- 不要なカテゴリーを削除して、Reporter レポートでのカテゴリー数を制限する。
- 非表示カテゴリーを削除する。

- 大きなキューブを分割して、小さくて管理しやすいキューブにする。この操作を管理者に依頼するか、あるいは **ReadCacheSize** 設定の変更について管理者に問い合わせてください。 **ReadCacheSize** 値を大きくすると、PowerPlay のパフォーマンスが向上します。
- 詳細を集計し、残りのカテゴリーを仕様に合わせてソートする。この操作は、管理者に依頼します。たとえば、キューブに必要以上のレベルの詳細が含まれ、カテゴリーが論理的に並べられていないと、業務を迅速に分析できない場合があります。管理者は、必要な情報を迅速に検索できるように、モデルを変更することができます。
- ランク計算の数を制限する。自動ランク付けの代わりに手動ランク付けを使用します。
- 全体的に、Windows のパフォーマンスを調整する。詳細については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

レポートを E メールで送信できない

Microsoft Mail や Microsoft Exchange などの、サポートされているメール・サーバーを使用していることを確認します。

リモート・レポートを開けない

IBM Cognos PowerPlay Client がインストールされているコンピューターの地域的および言語的なオプションによってサポートされていない文字がレポート名に含まれていると、PowerPlay Client でリモート・レポートを開けません。サポートされていない文字が使用されているレポートを選択して「OK」をクリックすると、レポートは開かず、「レポートを選択」ページに戻ります。

レポートを保存できない

Microsoft Windows では、ファイル名で次の文字が許可されていません。

< > : " / \ | ? *

これらの文字は、IBM Cognos Analytics ポータル内のオブジェクト名では許可されています。例えば、IBM Cognos Analytics ポータルには「売り上げ: 第 1 四半期」という名前の IBM Cognos PowerPlay レポートが用意されています。

PowerPlay Client では、「売上: 第 1 四半期」のように制限された文字がレポート名に含まれていてもリモート・レポートを開くことができます。ただし、レポートのローカル・コピーを保存しようとしても、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスは表示されず、レポートを保存できません。

マクロの起動ボタンを追加できない

IBM Cognos Series 7 PowerPlay では、マクロを実行する起動ボタンを作成できません。IBM Cognos PowerPlay Client に同じ機能はありません。

IBM Cognos Series 7 が同じコンピューターにインストールされている場合は、"runmac32.exe"を使用するバッチ・ファイルを実行してマクロを実行するように、起動ボタンを設定できます。runmac32.exe ファイルのデフォルトのインストール場所は、cer5¥bin です。

サブキューブをリフレッシュできない

デフォルトの設定では、サブキューブを開いたときに元のキューブからデータが自動的にリフレッシュされます。次のような場合には、IBM Cognos PowerPlay でデータがリフレッシュされるときにエラーが発生します。

- 元のキューブが移動または名前変更された
- 前回のデータの更新以降、元のキューブからディメンションが削除された
- PowerPlay Client から IBM Cognos Analytics ゲートウェイまたは PowerPlay サービスに接続できない

場合によっては、データがリフレッシュされなかったことを示すメッセージが表示されてから、サブキューブが開かれます。サブキューブが開かれなかった場合は、「サブキューブのリフレッシュ」設定を無効にすると、サブキューブの操作を継続することができます。

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。ただし、これ入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr.
Ottawa, ON
K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して、それぞれのお客様に関する以下の情報を収集する場合があります。

- 名前
- ユーザー名
- パスワード

これらの情報を以下の目的で使用します。

- セッション管理
- 認証
- お客様の利便性の向上
- シングル・サインオン構成
- セッション管理、認証、お客様の利便性の向上およびシングル・サインオン構成以外の利用の追跡または機能上の目的

これらの Cookie を 無効にすることはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM のプライバシー・ポリシー (<https://www.ibm.com/privacy/us/en/>) および「IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement」(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

値の制限

詳細サブセット 117

アップグレード

レポート 116

位置揃え

ラベルと値 85

移動

列または行 14, 121

レポートとキューブ 122

入れ替え

行 13

ディメンション 31

レイヤー 13

列 13

印刷

大量のデータを含むレポート 91

問題 121, 122

レポート 121, 122

レポートを 1 ページに収める 121

インディケータ

パフォーマンス 37, 38

エクスポート

レポート 92

エラー

セルに表示される 119

レポートの更新 116

円グラフ

表示の変更 76

表示への引き出し線の追加 78

表示を回転する 77

ラベルと凡例の表示 78

オフライン

作業 103

オフライン作業

概要 103

親で制限

サブセットの作成 25

[カ行]

回帰

統計線 74

会計年度

length 120

解除

サブセット 30

カスタマイズ

色とパターン 75

起動ボタン 97, 99

起動メニュー・コマンド 97

ツールバー 97, 98, 122

ツールバーのボタン 97, 98

ツールボックス 102

ボタン 97

メニュー 95, 102, 122

レポートの内容 14

PowerPlay 95

カ月

13 を年に使用する 120

カテゴリー 15

インターセクト・カテゴリーの追加 9

切り捨てられたラベル 118

結合 9

合計 62

コピー 11

再表示 12

削除 17

ソート 45

追加 6, 31, 63

特殊 120

トラブルシューティング 17

ドリルダウン 33, 34

名前 81

ネストされた 8, 9

ネストの追加 8

非表示 12, 17

表示 12

フィルター 35

別のカテゴリーに対する割合 58

ランク付け 45

レイヤーとして追加 10

カテゴリー名

ネストされたグラフのラベル 78

カテゴリー・ラベル

トラブルシューティング 118

管理

標準レポート 19

期間

年間の月数 120

起動ボタン

設定 99

起動メニュー・コマンド

設定 97

疑問符 (?)

の値 120

- キューブ
 - 一部の保存 104
 - 移動 122
 - 「キューブから検索」サブセット定義の作成 22
 - コマンド行オプション 108
 - サブキューブの保存 104
 - サブキューブのリフレッシュ 103, 104
 - データの検索 36
 - ドリルスルー 42
 - 「キューブから検索」サブセット定義
 - ワイルドカードの使用 23
- 行
 - 移動 14, 121
 - 入れ替え 13
 - 空白の挿入 13
 - 計算として追加 62
 - 合計 87
 - 合計の表示 12
 - コピー 11
 - ソート 45
 - 追加 6, 45
 - ドリルダウンとドリルアップ 33, 34
 - 複数の数値データの表示 38
 - フロート 14
 - ラベルの書式設定 85, 86
 - ランク付け 45
- 共有
 - ディメンション 121
 - ユーザー設定ハイライト定義 55
- 空白
 - ゼロ値の表示 88
- 区切り付き ASCII テキスト・ファイル 32
- グラフ
 - 円グラフ 76
 - 行の入れ替え 13
 - 大量のデータ 72
 - 統計線 74
 - 統計線の追加 74
 - ネストされた 72
 - 複合表示 70
 - ヘブライ語テキストの表示 115
 - 横棒グラフ 76
 - レイヤーの入れ替え 13
 - 列、レイヤー、または行の入れ替え 13
 - 列の入れ替え 13
- クリア
 - ハイライト 52
- グリッド線
 - レポートで非表示にする 78
- グループ化
 - 計算 64
- クロス集計
 - ネスト・カテゴリの追加 8
 - ラベルと数値の書式を設定する 85
 - ランク付け 47
 - レイアウトの選択 81
- 傾向
 - 検出 71
- 傾向係数 111
- 計算
 - 値が /0 と表示される 118
 - カテゴリの合計の表示 62
 - カテゴリの平均の表示 62
 - カテゴリを親カテゴリの割合として表示 62
 - カテゴリを個別に表示 62
 - グループ化 64
 - 減算 58
 - 合計に対する割合 58
 - 財務比率 67
 - 作成 57
 - サブセットに対して 29
 - 式として表示される 118
 - 集計 60
 - 除算 58, 67
 - 新規カテゴリとして追加 62
 - 成長率 58
 - トラブルシューティング 118
 - ネストされたレポート 57
 - 番号記号として表示される 118
 - 平均 58
 - 優先順位の制御 64
 - 累計 59
 - 累積 59
 - 累積パーセント 59
 - 割合 58
 - forecast 64
 - na として表示される 118
- 計算の優先順位
 - 制御 64
- 形式
 - データ 118
- 傾斜
 - 表示角度 76
- 結合
 - カテゴリ 9
- 欠落
 - の値 15, 88
- 検出
 - キューブのデータ 22, 26, 36
 - 傾向 71
 - 例外 51
 - レポートのデータ 36
- コールアウト
 - 円グラフへの線の追加 78
- 合計
 - カテゴリ 12
 - カテゴリの表示 72
 - ラベル 87
 - レポートへの追加 12, 62
 - 割合 58
- 更新
 - レポート 116

更新 (続き)
レポートを手動で 21
コピー
レポート間の 11
コマンド行オプション 107
キューブ 108
タイトル画面の省略 107
レポート名 108
Explorer レポート 108
Reporter レポート 108

[サ行]

差異
カテゴリー間の 58
分析 58
サイズ変更
表示 71
再表示
カテゴリー 12
財務比率
計算 67
削除
カテゴリー 17
サブセット 30
情報 17
スタイル 82
表示 71
フィルター 35
不要な情報 35
レイヤー 10
作成
「キューブから検索」サブセット定義 22
計算 57
サブセット定義 21
詳細サブセット定義 25, 26, 27
スタイル 82
ペアレンタージ・サブセット定義 22
ユーザー設定ハイライト定義 52
予測 64
リモート・キューブを使用したレポート 2
レポート 1
レポート・テンプレート 20
サブキューブ
使用するレポートの設定 104
データをリフレッシュできない 124
保存 103, 104
リフレッシュ 103, 104
サブキューブのデータをリフレッシュできない 124
サブセット 28
解除 30
「キューブから検索」サブセット定義の作成 22
削除 30
作成 19
サブセット定義を開く 28
詳細サブセット定義の作成 25

サブセット (続き)
定義の変更 28
ハイライト 29
サブセット計算
作成 29
サブセット定義 28
作成 21
サブセットを開く 28
定義 21
ペアレンタージ 22
算出カテゴリー
追加 63
散布グラフ
グラフ表示の各数値データのスケールリング 79
表示 79
マーカーの表示 77
サンプル・レポート 113
式
傾向 111
作成 57
自己回帰法 112
成長 112
予測 111
Burg のアルゴリズム 112
自己回帰予測
定義 66
実行
計算 57
実装オプション
レポートで設定 14
自動的に
データの取得 120
レポートの更新 21
自動ハイライト
使用 51
適用 51
シナリオ・ディメンション
分析 31
収益
1 株あたりの計算 67
集計
計算 60
トラブルシューティング 118
手動
例外のハイライト 51
レポートの更新 21
主要
パス 33, 34
仕様
製品 109
使用
ワイルドカード 23
消去
80/20 規則 15, 16
条件
書式設定 52

詳細

ドリルアップとドリルダウン 31

詳細サブセット

値の制限 117

値の制限を作成 27

親の制限の作成 25

ファインド・イン・キューブ制限を使用した作成 26

詳細サブセット定義

作成 21, 25

使用条件

予測 65

情報

削除 17

消去 15

書式設定 85

軸タイトル 86

自動ハイライトを適用する 51

通貨 39

データ 84

ユーザー設定ハイライト定義の適用 54

ラベル 85

例外データ 52

列のラベル 85

レポート 74, 81, 84

趨勢予測

定義 66

例 66

数値

エラー 119

数値データの書式変更 38

ゼロ 119

数値データ

書式変更 38

数値 119

スケーリング 79

定義 37

ディメンションに値がない 120

ネストされた 38

の値 119

比較 70

複数 38

変更 37, 120

ラベルの書式設定 86

スクロール・バー

大量のデータで使用 72

スケーリング

数値データ 79

スタイル

作成と適用 82

ユーザー設定ハイライト定義の定義 55

スライス & ダイス

行、列、レイヤーの入れ替え 13

制御

計算の優先順位 64

制限

製品 109

成長予測

定義 66

成長率

計算 58

製品

複合表示 70

設定

起動ボタン 99

起動メニュー・コマンド 97

設定 95

設定する 95

データ形式 118

ディメンションの表示ツールボックス 102

メニューの作成 102

ロケール 118

PowerPlay 95

説明

サブセットで検索 22

ゼロ

値の消去 15

値を空白として表示 88

すべての数値 119

の値 88

線

円グラフへのコールアウトの追加 78

線形

統計線 74

ソート

カテゴリー 45

行 45

データ 45

ネストされたクロス集計 48

ネスト・カテゴリー 48

レイヤー 45

列 45

レポート 48

関連

グラフ表示の各数値データのスケーリング 79

表示 79

マーカーの表示 77

送信

レポート 123

Eメールで 91

挿入

空白の列または行 13

外側の行の内訳合計

集計 12

[タ行]

対数

統計線 74

代替

パス 33, 34

タイトル

書式設定 86

- タイトル (続き)
 - 追加 84
 - デフォルトの設定 84
- タイトル画面の省略
 - コマンド行オプション 107
- 探索
 - 情報 41
- 単線グラフ
 - マーカーの表示 77
- 重複
 - レポート 11
- ツールバー
 - カスタマイズ 97, 98, 122
 - 配布 100
 - 表示または非表示 97
 - ボタンの設定 98
 - ボタンの変更 98
 - リセット 97, 122
- ツールバーのボタン
 - カスタマイズ 97
- ツールボックス
 - カスタマイズ 102
- 追加
 - カテゴリ 6, 31
 - 行 62
 - グラフ表示の値 73
 - 算出カテゴリ 63
 - タイトル 84
 - ネストされた行 8
 - ネストされた列 8
 - ネスト・カテゴリ 8
 - 表示のタイプ 71
 - フッター 84
 - ヘッダー 84
 - ランク付けされたカテゴリ 45
 - レイヤー 10, 62
 - レイヤーとしてのカテゴリ 10
 - 列 62
- 追跡
 - パフォーマンス 69
- 通貨
 - 書式設定 39
 - 変換 39
- データ
 - 削除 17
 - 自動的に取得 120
 - 消去 15
 - ソート 45
 - 大量のデータをグラフにする 72
 - ハイライト 51, 52, 55
 - 非表示アイテム 12
 - 表示の書式設定 74
 - ランク付け 45
 - 例外 51
- データ形式 118
 - 設定 118
- 定義
 - サブセットの変更 28
- ディメンション
 - 入れ替え 31
 - 共有 121
 - シナリオ 31
 - 数値データに値がない 120
 - スライス & ダイス 31
 - 定義 31
 - 名前 81
 - フォルダー 31
 - レポートの更新 116
- ディメンションの表示
 - ツールボックスのカスタマイズ 102
 - 閉じる 6
 - トラブルシューティング 116
 - 開く 6
- ディメンション・ラインの共有 19
- 適用
 - 自動ハイライト 51
 - スタイル 82
 - 背景 75
 - 背景パターン 83
 - ユーザー設定ハイライト定義 54
- デフォルト
 - タイトルの設定 84
 - フッターの設定 84
 - ヘッダーの設定 84
 - 戻す 122
 - ユーザー設定ハイライト定義 55
- テンプレート
 - report 20
- 統計線
 - 回帰 74
 - 線形 74
 - 対数 74
 - 追加 74
- 透明
 - 3-D 棒グラフ表示 79
- トラブルシューティング
 - 値フィルター 117
 - 印刷 121, 122
 - エラー 119
 - カテゴリ 17, 118
 - カテゴリ・ラベル 118
 - 計算 118
 - 更新されたキューブ 116
 - 集計 118
 - 詳細サブセット 117
 - 数値 119
 - データの非表示 12
 - ディメンションの表示 116
 - デフォルトのツールバー 122
 - デフォルトのメニュー 122
 - の値 120
 - ユーザー設定ハイライト 54

トラブルシューティング (続き)
列または行の移動 121
レポート 121, 123
レポートのパフォーマンス 122
レポート・バージョンのアップグレード 116

ドリル
詳細 31

ドリルアップ
詳細 31
代替パス 34

ドリルスルー
キューブ 42
他のアプリケーション 21
Impromptu 41, 42
PowerPlay 41, 42

ドリルダウン 15
詳細 31
代替パス 33
ディメンション・フォルダー 31

ドロップ・ゾーン 8

[ナ行]

ナビゲーション
レイヤーを使用するレポート 10

名前
ディメンションとカテゴリー 81

名前変更
ラベル 85

並べて表示
表示 76

入門
レポートの作成 1

ネストされたグラフ
選択 72
ラベルと凡例の表示 78

ネストされたクロス集計
ソート 48
ランク付け 47

ネスト・カテゴリー
ソート 48
変更 9
ランク付け 47

年
会計 120

の値
疑問符 (?) として表示される 120
グラフに表示 73
消去 15
数値データ 119
ゼロを空白として表示 88
ネストされたグラフのラベル 78
番号記号として表示される 120
割合として表示 87

[ハ行]

背景
パターンの適用 83
表示への適用 75
レポートへのパターンの適用 83

patterns 83

配置
表示 76

配布
カスタム・ツールバー 100
カスタム・メニュー 100
レポート 89

ハイライト
クリア 52
サブセット 29
自動ハイライト 51
マクロによる例外 51
ユーザー設定ハイライト 51, 55
例外データ 51, 52, 54

パス
主要 33, 34
代替 33
ドリルアップ 34
ドリルダウン 33

パフォーマンス
インディケータ 37, 38
書式設定インディケータ 38
追跡 69
トラブルシューティング 122
Explorer および Reporter レポート 122

番号記号
計算 118
の値 120

凡例
円グラフ 78

比較
数値データ 70
変数 69, 70

引き出し線
表示 78

非表示
カテゴリー 12, 17
ツールバー 97
データ 12
ランク・カテゴリー 45
レポートのグリッド線 78

非表示アイテム
データ 12

表示
値の表示 73
色とパターンの変更 75
色の変更 75
円グラフ 70
円グラフの引き出し線 78
回転する 77

- 表示 (続き)
 - 角度の変更 76
 - カテゴリ 12
 - クラスター棒グラフ 70
 - 傾向の確認 71
 - 合計カテゴリ 72
 - サイズ変更 71
 - 削除 71
 - 散布グラフ 79
 - ゼロを空白として 88
 - 相関 79
 - 大量のデータのグラフ表示 72
 - ツールバー 97
 - データを割合として 87
 - 統計線の追加 74
 - 並べて表示 76
 - 背景の適用 75
 - 配置 76
 - 比較に使用 69, 70
 - 表示 76
 - 表示の値 73
 - 複合情報 70
 - 複数のグラフの表示 72
 - 複数のタイプの表示 71
 - 複数の表示 71, 72
 - 複線グラフ表示の太線 78
 - ヘッダーとフッター 84
 - 変更 69
 - 編成 76
 - マーカー 77
 - マーカーの表示 77
 - 開く
 - サブセット定義 28
 - レポート 3, 121
 - ファイル
 - エクスポート 92
 - フィルター
 - 値の 27
 - カテゴリ 35
 - 削除 35
 - 作成 35
 - 情報の検索に使用 31
 - データ 31
 - の値 117
 - レポートへの適用 121
 - フォルダー
 - ディメンション 31
 - 複合グラフ
 - 「ネストされたグラフ」を参照 78
 - 複数
 - 表示 71, 72
 - 複数の数値データ
 - 行として 38
 - レイヤーとして 38
 - 列として 38
 - 複線グラフ
 - 表示 78
 - 太線 78
 - 太線化 78
 - マーカーの表示 77
 - フッター
 - 追加 84
 - デフォルトの設定 84
 - 太線化
 - 複線グラフ表示の 1 本の線 78
 - フロート
 - 列または行 14
 - プロンプト
 - レポートで設定 14
 - 分散
 - 追跡 69
 - 表示 69
 - 分析
 - シナリオ・ディメンション 31
 - ペアレンタージ・サブセット定義
 - 作成 22
 - 平均
 - 計算 58
 - ヘッダー
 - 追加 84
 - デフォルトの設定 84
 - ヘブライ語テキスト
 - グラフによる表示 115
 - 変換
 - 通貨 39
 - レポート 116
 - 変更
 - 合計ラベル 87
 - サブセット定義 28
 - 数値データ 37
 - スタイル 82
 - 表示角度 76
 - 表示のマーカー 77
 - ラベル 85
 - colors 75
 - patterns 75
 - 編成
 - 表示 76
 - 棒グラフ
 - 表示の変更 76
 - 保存
 - キューブの一部 104
 - レポート 121
 - ボタン
 - カスタマイズ 97, 98
- [マ行]**
- マーカー
 - 表示 77

- マクロ
 - メニュー・コマンドの使用 97
 - 例外データのハイライト 51
- 無効文字
 - PDF ファイル 89
- メール
 - レポート 123
- メニュー
 - カスタマイズ 95, 122
 - コマンドの追加 95
 - 作成 95, 102
 - 配布 100
 - リセット 95, 122

[ヤ行]

- ユーザー設定のハイライト
 - 使用 51
- ユーザー設定のハイライト,
 - 参照: ユーザー設定ハイライト定義
- ユーザー設定ハイライト定義
 - 概要 51
 - 適用 54
- ユーザー設定ハイライト・スタイル,
 - 参照: ユーザー設定ハイライト定義
- ユーザー補助機能付きレポート 17
- 予測
 - 傾向係数の式 111
 - 傾向の式 111
 - 作成 64
 - 式 111
 - 自己回帰の式 112
 - 自己回帰法 (季節性) 66
 - 使用条件 64
 - 趨勢法 (線形または直線) 66
 - 趨勢法の例 66
 - 成長の式 112
 - 成長法 (曲線形または曲線) 66

[ラ行]

- ラベル
 - 円グラフ 78
 - 合計 87
 - 書式設定 85
 - 名前変更 85
 - 変更 85, 87
- リンク付け
 - カテゴリ 45
 - 同一値 46
 - ネストされたクロス集計 47
 - ネスト・カテゴリ 47
 - 列または行 45
 - レポート 46
 - レポートでの同順位 46

- 利益
 - 従業員あたりの計算 67
- リセット
 - ツールバー 97, 122
 - メニュー 95, 122
- リフレッシュ
 - サブキューブ 103, 104
- リモート・キューブ
 - 使用してレポートを作成 2
- リモート・レポート
 - 開けない 123
 - 保存できない 123
- リモート・レポートを開けない 123
- リモート・レポートを保存できない 123
- 累積
 - 計算 59
- レイアウト
 - クロス集計 81
- 例外
 - 作成 52
 - 自動ハイライト 51
 - 適用 51, 54
 - デフォルト 55
 - トラブルシューティング 54, 118
 - ハイライト 51, 54
 - マクロによるハイライト 51
 - ユーザー設定定義 52, 55, 118
- レイヤー
 - 入れ替え 13
 - 計算として追加 62
 - 合計 87
 - コピー 11
 - ドリルダウンとドリルアップ 10, 33, 34
 - 内容の変更 10
 - ナビゲーション 10
 - 複数の数値データの表示 38
 - ラベルの書式設定 85
 - レポートへの追加 10
- 列
 - 移動 14, 121
 - 入れ替え 13
 - 空白の挿入 13
 - 計算として追加 62
 - 合計 87
 - 合計の表示 12
 - コピー 11
 - ソート 45
 - 追加 6
 - ドリルダウンとドリルアップ 33, 34
 - 複数の数値データの表示 38
 - フロート 14
 - ラベルの書式設定 85, 86
 - リンク付け 45
- レポート 116, 121, 122, 123
 - 移動 122
 - 印刷 91, 121, 122

- レポート (続き)
 - エクスポート 92
 - グリッド線の非表示 78
 - サブキューブの使用 104
 - サブキューブを使用するための設定 104
 - 実装オプションの設定 14
 - 自動更新をオフにする 21
 - 手動で更新 21
 - 詳細 19
 - 書式設定 81, 84
 - タイプの変更 11
 - 重複 11
 - データの検索 36
 - テンプレートとして設定 20
 - トラブルシューティング 123
 - 入門 1
 - ネスト・カテゴリーの追加 8
 - 背景の適用 83
 - 配布 89
 - パフォーマンスの強化 122
 - 標準管理 19
 - 開く 3, 121
 - フィルター 121
 - 保存 121
 - メール 123
 - リモート・キューブを使用して作成 2
 - ローカル PowerCube を使用して作成 2
 - 1 枚の印刷ページに収める 121
 - 5.x から 6.x へのアップグレード 116
 - E メールで送信 91
 - PowerPlay Client と PowerPlay Studio の違い 3
- レポート名
 - コマンド行オプション 108
- レポート・タイトル
 - ブランク行 115
- ローカル PowerCube
 - 使用してレポートを作成 2
- ロケール
 - 設定 118
- ロケールの設定
 - 設定 118

[ワ行]

- ワイルドカード 23
 - データ検索時に使用 36
- 割合
 - 合計に対する 58
 - データの表示 87
 - 累計 59

[数字]

- 3-D 棒グラフ表示
 - 回転する 77

- 3-D 棒グラフ表示 (続き)
 - 棒の透明化 79
- 80/20
 - 消去 15, 16

A

- ASC ファイル 92

B

- Burg のアルゴリズム
 - 予測 112

C

- cerlocale.xml 118
- colors
 - 変更 75
 - レポートの背景への適用 83
- CSV 形式ファイル 92
- CSV ファイル 92

E

- E メール
 - レポートの送信 91
- Explorer モード 1
- Explorer レポート
 - カテゴリーの追加 6
 - コピー 11
 - コマンド行オプション 108
 - データを割合として表示 87

I

- Impromptu
 - ドリルスルー 41

L

- long
 - ディメンション名またはカテゴリー名 81

P

- patterns
 - 適用 83, 85
 - 変更 75
- PDF
 - オプションの設定 14
 - 無効文字 89
- PowerPlay
 - カスタマイズ 95

PowerPlay (続き)
製品仕様 109
ドリルスルー 42

R

Reporter モード 1
Reporter レポート
 カテゴリの追加 6
 計算の実行 62
 コピー 11
 コマンド行オプション 108
 データを割合として表示 87

S

short
 ディメンション名またはカテゴリ名 81

U

Upfront
 プロンプトの設定 14

[特殊文字]

.ini ファイル 100
.mnu ファイル 95, 100